

パキスタン青年海外協力隊
新規派遣要請背景調査報告書

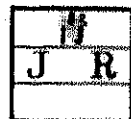
JICA LIBRARY



1208295 [4]

1994年5月

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局



調査団員名簿

調査日程

調査報告

要請背景調査結果一覧表

[1] 教育省

1. イスラマバードにおける教育の現状

(1) 教育システム

(2) 学校数

(3) 男女の別

(4) 進学率

(5) 教育言語

(6) 授業料

(7) モデル校

(8) 教師の資格

(9) 科目

2. 調査した学校等

(1) 理科教育訓練センター

概要

隊員派遣の可能性

(2) 近郊の中学、高等学校

教育省側との交渉経過

隊員の派遣時期

隊員派遣の可能性

今後の展望

その他

(3) 女子専門学校

概要

09944

隊員派遣の可能性

ドレスメーカーコースについて

(4) 近代語学院

概要

隊員派遣の可能性

[2] 通信省

(1) パキスタン通信公社

概要

①包装・司書・造園

②無線通信機

要請理由(目的)

隊員の地位

隊員の具体的業務内容

配属先にある機材

カウンターパート

指導対象

言語

隊員の条件

配属先の期待と現状

③電子計算機

④電話線路

[3] 首都開発庁

概要

①花き

②園芸作物

勤務先

要請理由(目的)

隊員の地位

隊員の具体的業務内容



1208295 [4]

隊員が利用できる機材

指導対象、言語

③キャピタル病院

概要

看護婦の業務

看護婦隊員の要請背景

業務内容及び隊員に求められるレベル

受け入れ体制、その他

④モデル校

概要

隊員派遣の可能性

[4] 首都圏庁

(1) 首都圏庁傘下の配属先

①地方保健局

概要

隊員要請背景

業務内容及び隊員に求められるレベル

受け入れ体制及び現状

②コミュニティーセンター

概要

各コミュニティーセンター

T a r l a i

C h e r a h

B h a r a - k a u

S i h a r a

R a w a t

S h a r A l l a h d i t t a

③野菜栽培

勤務先

農業課の事業内容

要請理由(目的)

隊員の地位

隊員の具体的業務内容

Miradプロジェクトと隊員の関わり

カウンターパート

隊員の指導対象

隊員の条件

④ 獣医

勤務先

畜産課の業務内容

要請理由（目的）

隊員の地位

隊員の具体的業務内容

カウンターパート

隊員の指導対象者

隊員の条件

⑤ 農業土木

⑥ 村落開発普及員

配属先の業務内容

要請理由（目的）

隊員の具体的業務内容

カウンターパート

隊員の指導対象、言語

隊員の条件

配属先の受け入れ責任者

隊員への期待

⑦ 農業機械

(2) イスラマバードスポーツ委員会

[5] 保健省

(1) ポリクリニック

概要

(2) イスラマバード小児病院

概要

隊員要請背景

業務内容及び隊員に求められるレベル

①医療機器

②看護婦

③統計

受け入れ体制、その他

①医療機器

②看護婦

③統計

(3) パキスタン総合病院

(4) 看護学校

(5) ムハメディ病院

概要

隊員要請背景

業務内容及び隊員に求められるレベル

受け入れ体制

イスラマバード以外の派遣について

[6] 社会福祉省

(1) 国立身障者センター

概要

隊員要請背景

業務内容及び隊員に求められるレベル

①理学療法士

②看護婦

受け入れ体制及び期待

(2) 国立身障者訓練センター

(3) 社会福祉訓練センター

(4) 児童福祉改善委員会

生活事情

[1] 気候

[2] 宗教

[3] 衣料品

男性

女性

その他の女性用品

[4] 理容

美容院

理髪店

[5] 食生活

[6] 住宅

ホテル

ゲストハウスとホステル

部屋、家を借りる

[7] 使用人

[8] 医療事情

医療機関

病気

[9] パキスタンの医療従事者のための医療事情

医療の実態

病院組織

病院職員

[1 0] 交通事情

バス

列車

飛行機

タクシー

[1 1] 通信

電話

電信

郵便

[1 2] 教育制度

[1 3] 書籍

[1 4] 娯楽

[1 5] パキスタンの女性

[1 6] 現地生活手当積算表

パキスタン青年海外協力隊新規派遣要請背景調査団団員

1. 団長 関口 洋史 青年海外協力隊事務局派遣第3課
2. 団員 野村 淳 ネパール、フィリピン、ボツワナOB、村落開発普及員
3. 団員 兼松 明子 ホンデュラスOG、家政（生活改善）
4. 団員 徳田 智磯 タンザニアOB、理数科教師
5. 団員 澤本万喜子 フィジーOG、看護婦
6. 業務調整 小野 晃子 青年海外協力隊事務局派遣第2課

海外出張日程表

	出発地 (経由地)	到着地	便名	出発	到着	午前	午後	後	会議	行事	備考	宿泊地
1	3	成田→イスラマバード	PK-753	11:55	20:45	移動						
2	22					JICA事務所、大使館等	経済省訪問等		打ち合わせ			
3	23					生活事情調査等	生活事情調査等		資料収集等		事務所休日	
4	24					教育省、PTC、CDA	ICTA		打ち合わせ、要望調査			
5	25					生活事情調査等	生活事情調査等		隊員生活事情調査		事務所休日	
6	26					保健省、社会福祉省	小児病院、看護学校		打ち合わせ、要望調査			
7	27					教育省、IPSET	PIW、NIH		打ち合わせ、要望調査			
8	28					ICTA、MIRAD現場訪問、私立学校見学			打ち合わせ、要望調査			
9	29	イスラマバード→カラチ	PK-319	21:15	23:10	経済省、大使館等	移動		中間報告		事務局職員離八	
10	30	カラチ→バンコク	TC-508	3:20	9:45	移動	移動					
11	31					要請背景取り付け、内容調査等	要請背景取り付け、内容調査等					
12	3					要請背景取り付け、内容調査等	要請背景取り付け、内容調査等					
13	4					要請背景取り付け、内容調査等	要請背景取り付け、内容調査等					
14	2					要請背景取り付け、内容調査等	要請背景取り付け、内容調査等					
						要請背景取り付け、内容調査等	要請背景取り付け、内容調査等					
						要請背景取り付け、内容調査等	要請背景取り付け、内容調査等					
32	21					要請背景取り付け、内容調査等	要請背景取り付け、内容調査等					
33	22					調査結果まとめ、JICA事務所報告	調査結果まとめ、JICA事務所報告					
34	23					調査結果まとめ、JICA事務所報告	調査結果まとめ、JICA事務所報告					
35	24					調査結果まとめ、JICA事務所報告	調査結果まとめ、JICA事務所報告					
36	25	イスラマバード→バンコク	PK-778	11:30	20:35							
		バンコク→	JL-718	22:25								
37	26	一成田			6:15							

パキスタン新規派遣要請背景調査報告 (H6. 4. 24現在)

省庁	配属先	職種、調査状況等
[1] 教 育 省 (M O E)	(1) 理科教育訓練 センター (I P S E T)	調査中止
	(2) 近郊の中、高校	理数科教師派遣につき打診中
	(3) 女子専門学校 (P I W)	調査中止
	(4) 近代語学院	調査中止
[2] 通 信 省	(1) パキスタン通信公社 (P T C)	①包装、司書、造園は調査中止 ②サテライトタウンで無線通信機の要請あり、 ほぼ調整済 ③コンピューターセンターの電子計算機は調整 中 ④P T C本体の電話線路は調査中止、トレーニ ングスクールでの電話線路は調整中
[3] 首都開発庁 (C D A)		①花きは調査中止、ただし将来的には可能性あり ②園芸作物は調整済 ③病院での看護婦は調整済 ④モデル校での教員は調査中止
[4] 首都圏庁 (I C T A)	(1) 首都圏庁傘下 の各配属先	①地方保健局での看護婦要請あり、ほぼ調整済 ②コミュニティーセンターの家政の要請あり、 ほぼ調整済 ③MIRAD あるいはICTA地域全体での野菜栽培の 要請あり、調整済 ④クリニックでの獣医の要請あり、調整済 ⑤農業土木につき調整中 ⑥村落開発普及員につき調整済 ⑦農業機械につき調整中
	(2) イスラマバー ドスポーツ委員会	調査中止

[5] 保健省 (MOH)	(1) ポリクリニック	未調査
	(2) イスラマバード 小児病院	①医療機器の要請につき調整済 ②看護婦の要請につき調整済 ③統計の要請につき調整済
	(3) パキスタン総合病院	未調査
	(4) 看護学校	未調査
	(5) ムハメディ病院	医療秘書、看護婦の要請がすでに出ていたが、 イスラマバードでないため今回は派遣せず
[6] 社会福祉省 (MSWSE)	(1) 国立身障者センター (NIH)	①理学療法士の要請につきほぼ調整済 ②看護婦の要請につきほぼ調整済、ただし病院 のオープンを待って要請を受ける予定(2名)
	(2) 国立身障者 訓練センター (NTCD)	①竹工芸の要請につき調整済 ②家政の要請につき調整済
	(3) 社会福祉訓練 センター (SWTI)	①職業訓練校に家政の要請が出ており調整済 ②農村開発プロジェクトに電子機器の要請が出 ており調整済
	(4) 児童福祉改善委員会 (NCCWD)	未調査

・以上まとめると、12職種18名分が内容について調整済、4職種4名分が調整中(下線を付したものが調整済)の形で調査を終えた。

- ・通信省：無線通信機、電子計算機、電話線路(いずれもパキスタン通信公社)
- ・首都開発庁：園芸作物、看護婦
- ・首都圏庁：看護婦、家政、野菜、獣医、村落開発普及員、農業土木、農業機械
- ・保健省：医療機器、看護婦、統計(いずれもイスラマバード小児病院)
- ・社会福祉省：理学療法士、看護婦2名(いずれも国立身障者センター)
竹工芸、家政(いずれも国立身障者訓練センター)
家政、電子機器(いずれも社会福祉訓練センター)

[1] 教育省

1、イスラマバードにおける教育の現状

(1) 教育システム

学年	1 2 3 4 5	6 7 8	9 10	11 12	13 14	15 16
レベル	(primary)	(middle)	(Sec.)	(High.Sec.)	(College)	(University)
				or	(College)	学位

通常は各レベルがいくつかくっついており

Primary School 1~5

Middle School 1~8

Secondary School 6~10 (1~10のところもある) である。

つまり、下の学年の一部を含んでいることが一般的である。ちなみに、Middle Schoolのできた経過は、Secondary Schoolの最終学年までいかない生徒のためにPrimary SchoolにMiddleレベルを付属させたのだそうだ。

日本では小学校から数えて、学位をとるのに16年かかるが、上の表を見ればわかるように、ここでは14年で学位が取れてしまう。これは、とりもなおさずここでの学位が日本の短大と同レベルであることを示している。同様に、

パキスタン	日本
Middleの8年生	中学2年生
Secondaryの10年生	高校1年生

だいたい、このような、対応が成り立つ。実際に、教科書などを見ても、おおよそこの位だと思う。

義務教育はPrimaryの5年だけである。5年生、8年生に資格試験がイスラマバード地区統一で行われる。この資格試験に通れば、次の学年に行ける。また、9年生以降は毎年、資格試験が行われる。

(2) 学校数

	URBAN		RURAL	
	Boys	Girls	Boys	Girls
Pri. Sch		60 (co-edu.)	80	63
Mid. Sch	1	6	12	30
Sec. Sch	11	14	23	14
Hig. Sch	4	4	6	2
College	4	4	-	-

(3) 男女の別

Urban AreaではすべてのPrimaryが男女共学であるが、Rural AreaではPrimaryは基本的には男女別学であるが、私が訪れた一部のGirls SecondaryのPrimaryの部分は男女共学になっていた。Middle以上はすべて、男女共学になっている。教員の方もこれに合わせて、男女別になっている。

(4) 進学率

統計によれば、

MIDDLE LEVEL

(%)

	Male	Female	Total
Islamabad	52	35	44
Rural	50	17	34
Urban	54	47	51
Pakistan	28	14	22
Rural	26	9	18
Urban	34	28	31

SECONDARY LEVEL

	Male	Female	Total
Islamabad	42	29	36
Rural	27	7	18
Urban	53	46	49
Pakistan	26	13	20
Rural	16	6	11
Urban	50	28	39

どこをとってみてもイスラマバード地区の進学率はパキスタンの平均よりも高くなっている。ほかの州の進学率については別紙の表を参照してほしい。

Secondary Levelの進学率はパキスタン平均で20%に達しており、パキスタンでの中等教育がある程度庶民的なものであることを示している。

(5) 教育言語

基本的には初等、中等教育(1~10年)はすべてウルドゥ語でなされており、この方針は今後も変わらない。(連邦教育委員会ダイレクター談)ただし、Model Schoolでは、

英語をつかって、授業がなされている。教科書もウルドゥ語と英語の2種類が市販されている。
(州によっては部族を教育言語として使っているところもある。)

(6) 授業料

学校によって、多少異なるが、おおよそ、

Primary	(1~5年)	Rs	3
Middle	(6~8年)	Rs	6
Secondary	(9~10年)	Rs	10

ただし、モデル校では、

Primary	(1~5年)	Rs	30
Middle	(6~8年)	Rs	35
Secondary	(9~10年)	Rs	60

となっている。

(7) モデル校

Urban Areaにモデル校とよばれるSecondary Schoolが男子校、女子校それぞれ、3つずつ、計6つある。"モデル"の意味があまり、はっきりしないのだが、他の学校と異なるのは、

- 1、英語で授業を行う
- 2、施設がよく備わっている
- 3、教員の数、普通校は1クラスに1.5人と教育委員会のほうで決められているのに対して、モデル校では1クラスに2人と決められている。
- 4、授業料が高い

などの点である。

あるモデル校を訪れた時、そこにはコンピューターが入っていた。

(8) 教師の資格

Primary (1~5年)	10年+1年(教員養成コース) または 12年+1年(教員養成コース)
Middle (6~8年)	または 14年(学位)+1年(教員養成コース)
Secondary (9~10年)	
High. Sec. (11~12年)	修士号の取得

ただし、実際には、この規定を満たさなくとも、教えていることもある。

(9) 科目

残念ながら、一般的なことを示す資料は手元にはないが、ある女子校の8年生の履修科目は次のようなものであった。

Islamic Study
English
General Science
Arabic
Maths
Home Economics
Social Studies
Urdu

(すべて毎日1時間ずつ習う)

2、調査した学校等

(1) 理科教育訓練センター (IPSET, Institute for the Promosion of Science Education and Training)

[概要1]

このセンターは中等理科教育のシンク・タンク的な機関で、運営費はアジア開発銀行とOPECが共同で80%出資し、残り20%をパキスタン政府が出資している。主な業務は①カリキュラムの作成 ②低コスト実験器具の開発 ③教員の再トレーニング ④教科書、生徒用のマニュアル、教師用のガイドブックの作成 ⑤試験問題の調査、などである。

スタッフはディレクターも含めて18名。そのうち、コンサルタントとしてアジア開発銀行、OPECからオーストラリア人3名、タイ人1名が派遣されている。'94年の7月までにカリキュラム作成、教科書作成などを終え、その後はそれらをパキスタン全土に広めていくことに重点をおいていく、ということだった。ここで作成された物理の教科書を見せてもらったが欧米の教科書よりもていねいにわかりやすく書いてあった。

[隊員派遣の可能性]

カリキュラム作成、低コスト実験器具の開発、教員の再トレーニングのいずれかにたずさわる隊員の要望があった。しかし、いずれの業務も隊員の域を越え、専門家レベルである、と判断し、隊員派遣を見合わせた。

(2) 近郊の中学、高等学校

[教育省側との交渉経過]

当初、教育省側からは理数科教師の派遣についての要望は出されていなかった。そこで調査団はイスラマバード地区の学校、8校を訪れて現地調査を行った。その結果、隊員派遣の余地があると判断し、教育省側にその旨を打診し、さらにその後、次のような提案をした。

F. G. B. M. S. Phulgram

F. G. B. M. S. Bhara-Kau (F. G. B. N. S. はFederal
Government Boys Middle

の各学校に理科の男性教員を1人ずつ派遣する。 Schoolの略)

(別紙の英文参照)

上記の二校にした理由は

1、すでに、調査した結果、理科の教員が不足していることが判明している。

2、二校とも、市街に比較的近く、また、幹線道路の近くにあるので、交通の便がよい。

以上の2点である。

最初に打診した後、教育省側も隊員を受け入れるとしたらどこがよいのか考えていたらしく、特に隊員の安全面を考えて、この2校あたりを考えていた、とのことだった。

目下(4月23日現在)、教育省のSecretaryの承認待ちである。教育省側には派遣要請のドラフトを渡し、承認が下り次第、記入して、JICAの方に、届けるように頼んでおいた。私の印象としては、教育省側は隊員の受け入れに対して積極的ではないにしろ、肯定的である。

教育省側の対応者

Mr. Memon Abdul Aziz

Joint Educational Adviser

(Federal Institutions Wing)

Tel. 826352

[隊員の派遣時期]

イスラマバード地区の学校は4月が学年の始まりなので、2次隊で派遣するのが望ましいと思われる。パキスタンに着くのは12月で実際に職場に就くのは1月となるが、3月まで他の教員の授業をみせてもらったり、あるいは少し手伝ったりして慣れながら、4月から本格的に授業をおこなうようにする。

[隊員派遣の可能性]

特にMiddle Schoolで教員不足、教員の技能の未熟さ、施設の不十分さが目立つ。教員不足は教育省が今ある学校の教員の数を増やすことを禁止していることによる。教員の技能の未熟さは、Middle Schoolでは、6~8年においてさえ、Primary levelと同様に、教員が自分の専攻科目でない科目までもオールラウンドに教えなければならない状況による。また資格条件である学位を持っている人は少ない。このような状況に鑑みて、隊員を派遣する余地があると考えられる。

[今後の展開]

別紙の通り、イスラマバード地区は他の州に比べて、進学率が高く、学校も他の州よりは整っていることが予想される。したがって、治安面などの問題がなければ、他の州にも隊員をいれることも検討に値する。

しかし、ウルドゥ語でどこまで教えられるかなど、未知の部分も多分にあるので、慎重に推移を見守る必要がある。また、女性隊員の派遣については当地での慣習などの制約があるため、なお慎重な調査が必要であり今回は見合わせた。

[その他]

これだけの調査では統計的なことはなにも言えないが、印象として、学校の施設などをみると都市部よりも田舎、さらに、上の学年よりも下の学年の学校の方が劣悪な状況にある。

Middle Schoolでは一部の教室の机や椅子がまったくないところもあった。教員の質についても同じ傾向にあるように感じた。

教科書は少なくとも、2人に1人の生徒はもっているようだ。実験室や図書館はあったとしても本当に貧弱で用をなしていなかった。

	Middle Stage Classes VI-VII			High Stage Classes IX-X			Total		
	Male	Female	Total	Male	Female	Total	Male	Female	Total
Baluchistan	10.08	4.33	7.63	7.80	2.91	5.78	9.42	3.93	7.09
Rural	3.63	.93	2.48	3.27	.91	2.02	3.52	.72	2.35
Urban	51.97	24.64	39.81	36.38	16.76	27.38	47.33	22.20	36.05
Islamabad	52.49	34.52	44.15	41.96	29.17	35.91	49.03	32.72	41.41
Rural	49.78	16.65	34.48	27.36	7.33	17.80	42.37	13.44	28.86
Urban	54.43	47.17	51.05	52.60	45.53	49.27	53.83	46.62	50.46
FATA	9.51	.29	6.28	5.62	.13	3.73	8.28	.24	5.48
Rural	9.51	.29	6.28	5.62	.13	3.73	8.28	.24	5.48
Urban	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pakistan	27.80	14.07	21.60	25.76	13.15	19.93	27.18	13.78	21.09
Rural	25.56	8.66	17.99	15.85	6.04	11.42	22.71	7.88	16.05
Urban	33.96	28.13	31.26	50.15	28.39	39.39	39.10	28.22	33.99

訪問した学校の聞き取り調査結果

学 校 名	学 年	クラス数	生徒数	教員数	1クラスあたりの教員数	教員不足について (学校長又はそれに準じる教員からの聞取による)
F. G. Model School for Girls	1～5 6～10	3(男女共学) 3	1,100	43	1.4	充 足
F. G. B. S. S. Sihala	6～10 11～12	3 3	650 150	25 13	1.7 2.2	充 足
F. G. B. S. S. Tarlai	6～9 10	3 2	} 500	} 19	1.4	不 足
F. G. B. S. S. Kuri	6～8 9～10	2 1	} 300	} 15	1.5	文系科目 4人 技術科目 2人 不足
F. G. G. S. S. Phulgram	1～10	1	600	11	1.1	理科、数学、体育 アラビア語の教員不足
F. G. B. M. S. Khanr Dak	1～5 6～8	1 2	} 500	} 15	1.4	充 足
F. G. B. M. S. Phulgram	1～8	2	500	17	1.1	アラビア語、理科の 教員不足
F. G. B. M. S. Bhara Kan	1～7 8	2 3	} 900	18	1.1	理科、数学の 教員不足

F. G. B. S. S. は Federal Government Boys Secondary School

F. G. G. S. S. は " " Girls " "

F. G. B. M. S. は " " Boys Middle "

をそれぞれ示す。

PROPOSAL

So for we have visited the following eight schools.

F. G. Model school for girls

F. G. B. S. S. sihala

F. G. B. S. S. Tarlai

F. G. B. S. S. Kuri

F. G. G. S. S. Phulgram

F. G. B. M. S. Khann Dak

F. G. B. M. S. Phulgram

F. G. B. M. S. Bhara Kau

In each school, we have researched the situation there. From the result we have found that it is in rural middle schools where shortage of teachers and facilities is in serious problem.

We should have researched it more comprehensively but, given the limited times, all we could do was to research only the above eight schools. But we are convinced that there are rooms for our volunteers in schools here in Pakistan.

Tentatively, we propose to send our volunteers to the following two schools:

F. G. B. M. S. Phulgram (one male science teacher)

F. G. B. M. S. Bhara Kau (one male science teacher)

We would be pleased if you agree to our proposal.

please contact the following
JICA staff if it is needed.

Mr. Yaginuma

Mr. Nabi

Tel. 217404, 217405

217406, 217407

Address of our JICA office:

House No. 1, St. No. 61, F-6/3

Tomoki Tokuda

a member of JICA survey team

(3) 女子専門学校 (Poly technic Institute for Women)

[概要]

高卒女子のための専門学校で電気・建築、コンピューター、ドレスメイキング・デザイン、商業の2年または3年のコースがある。コンピューターをはじめ、設備はよく備わっている。教員の方は全体的に不足気味ではあるが、質的には問題ない、ということだった。

[隊員派遣の可能性]

学校側は、コンピューターを教える隊員に興味を示していた。現在、パキスタン教師が3人でコンピューターの授業を行っているが、1人あたりの授業時間が25時間にもなり、この負担を軽減するために隊員を入れたい、との意向であった。しかし ①現在、負担過剰ながらも何とかやりくりしている②パキスタン教師の質には問題がない(校長談)、以上2点の理由により隊員を派遣する必要性はあまり認められず、隊員の派遣を見合わせた。

[ドレスメイキングコースについて]

Asian Development Bank/アジア開発銀行の援助でパキスタン政府により建てられたもので編物、ドレスメイキング、刺繍を教えている。

ドレスメイキング、編物、刺繍ともにレベルはたいへん高く、内容も充実しているので、JOCVがはいる必要はないと思われる。

隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等

編機 Singer SK280 NO. 345716 16台

ミシン brother DB2 B737-413 12台

カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年齢)

3名、専門学校卒インストラクター

指導対象者の技術レベル、年齢

レベルは高い。	中、高年卒	3月 '94現在	1年生	50人
			2年生	26人
			3年生	なし

92年OPENのため

その他の機材(今の2年生が3年生になったら使われる予定)

Juki LZ-1286 2台

brother CM2-B931-1 1台

brother EF4-B531 002-S 1台

brother P816001 1台

brother DT6-B926 1台

brother BA-10&BAS-550 1台

Kansai Special KS 165938 1台

" KS 165932 1台

" KS 166118 FB-1404PMD 1台

" KS 114932 FB-1412PL 1台

" KS 166657 FB-1412P 1台

時間割 土~木 8:30~14:15 / 9月~6月なかばまで授業

時間割 土～木 8:30～14:15
金 休日

9月～6月なかばまで授業
12月に8日程度と6月中旬～8月休み

調査面談者

Ms. Farida Javed	Principal
Mrs. Rukhsana Kazmi	Admin Officer
Ms. Rubina Kusar	} Instructor of D. D. M.
Ms. Shams Bozka	
Ms. Katherine Younes Masih	

(4) 近代語学院 (National Institute of modern languages)

[概要]

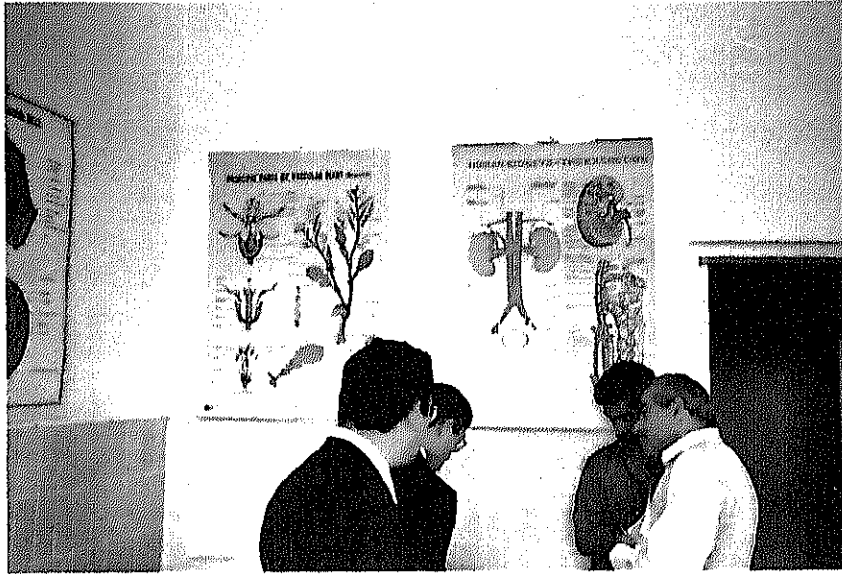
12の外国語を教えるパキスタン唯一の国立の外国語学校で、エンジニア、軍人、一般市民など様々な人が学んでいる。軍人が多いのはこの学校が教育省の管轄にあるとはいえ、この学校の校長が軍人であることからわかるように、ある程度、軍の影響を受け、何らかの軍の目的のために軍人がこの学校に派遣されてくることによる。

現在、日本語は日本人2名（国際交流基金より1名、公募により1名）、パキスタン人1名が教えている。設備はよく備わっており、教材は豊富にあり、またビデオなどもある。

[隊員派遣の可能性]

'95年4月にパキスタン人教師が日本へ留学するため、教員不足が生じる。その代わりとして、隊員を派遣してほしい、との学校側の要望があった。しかし①日本人教師がすでに2名も入っているため、新たに隊員を派遣する必要性があまりない、②軍人が日本の自衛隊の研修を受けるために日本語を習っているのだが、軍人に日本語を教えるということが協力隊の活動の趣旨とは合致しないのではないか、

以上、2点の理由により、隊員を派遣するすることを見合わせた。



I P S E T



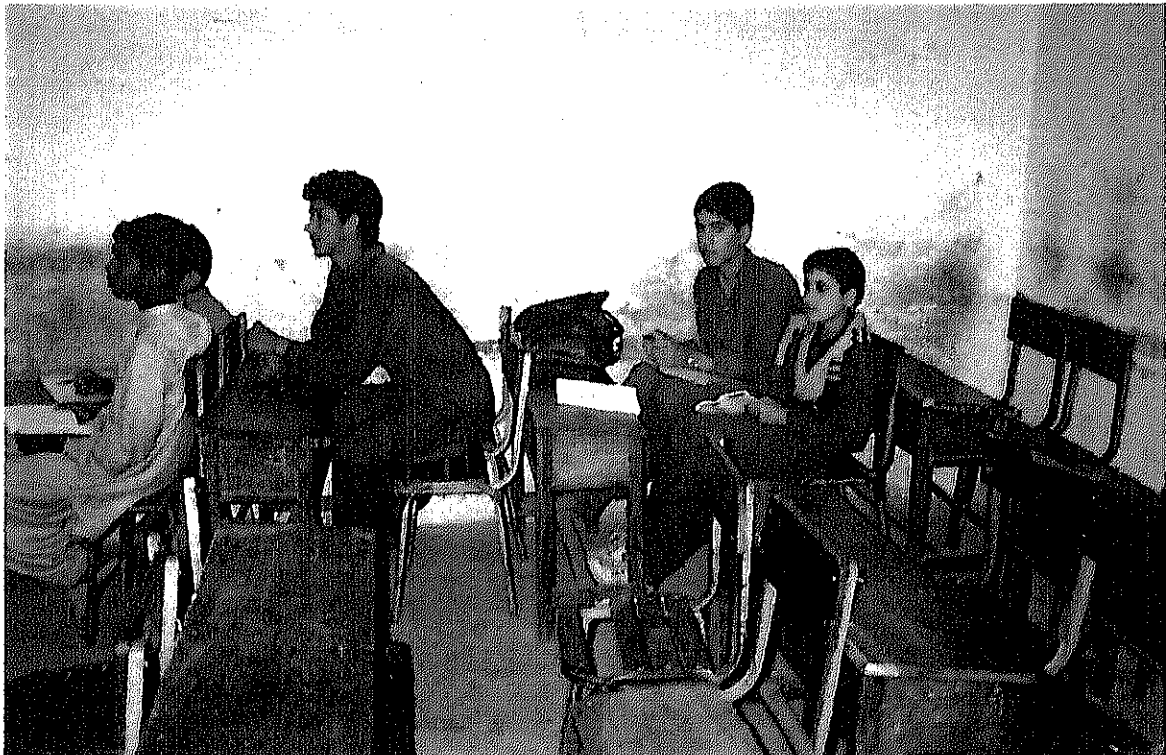
Bhara-Kau 中學校



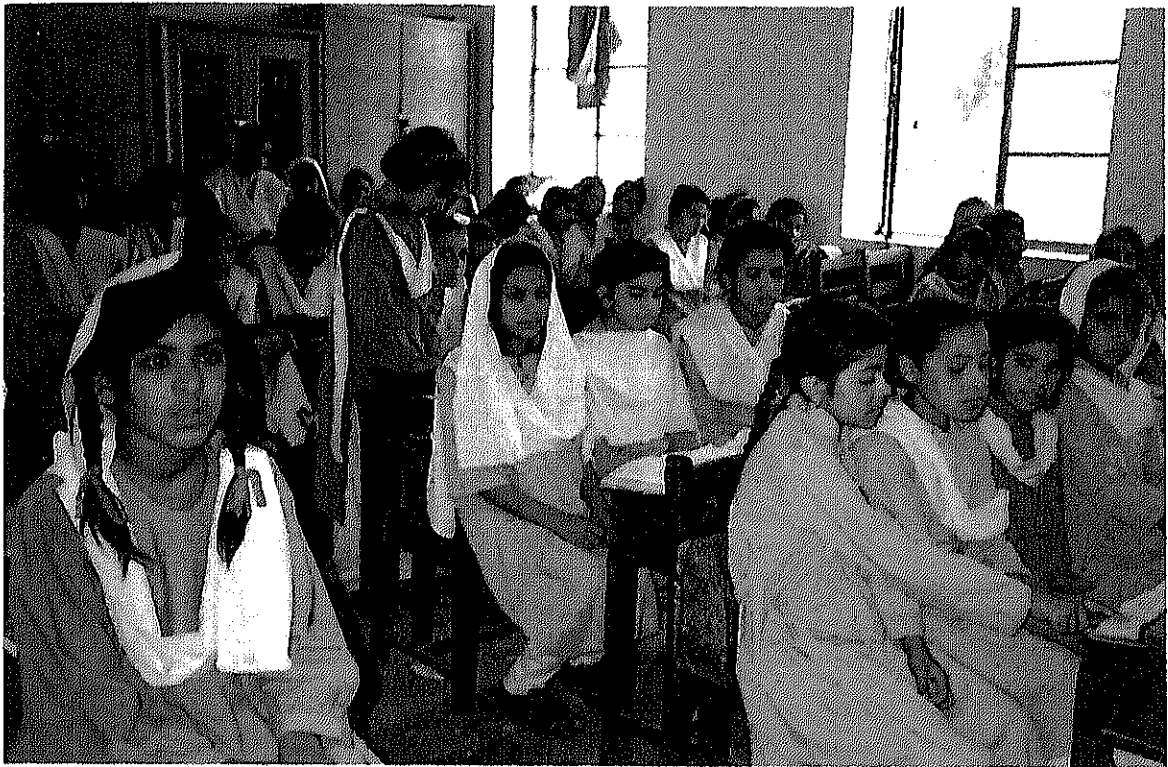
授業風景（生物）（Bhara-Kau 中學校）



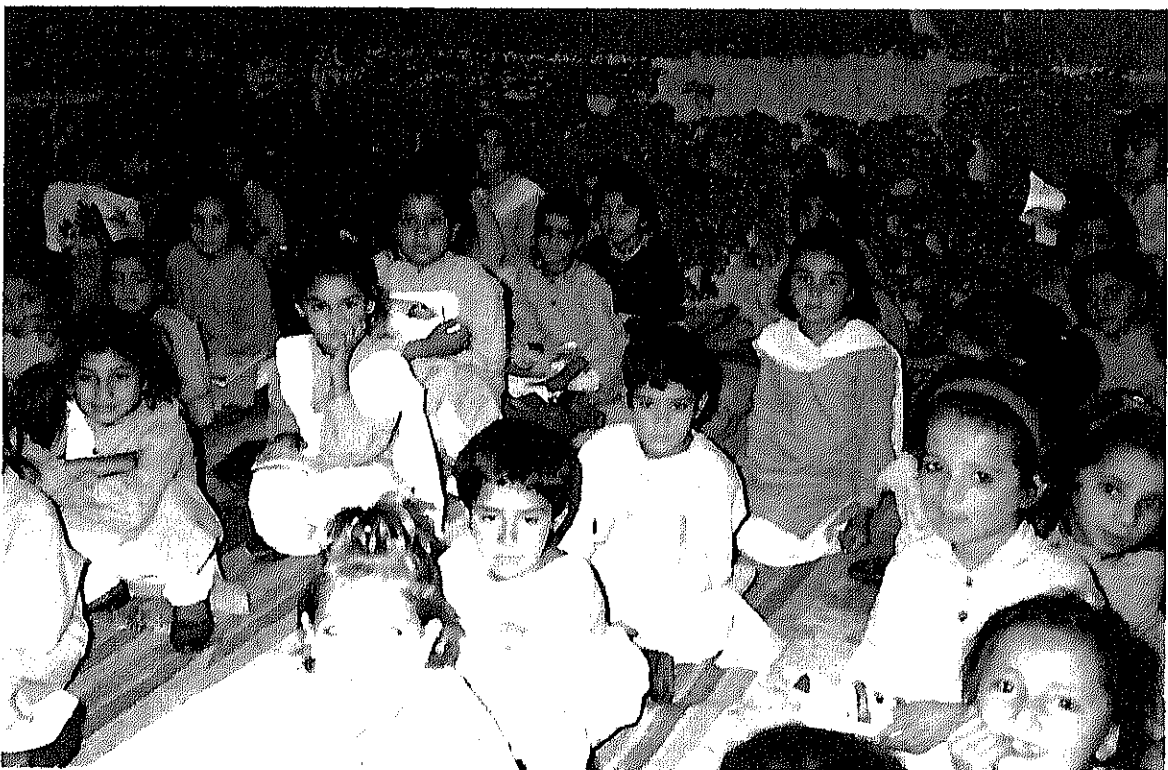
授業風景（数学）（Bhara Kau 中学校）



授業を受ける生徒達。まだ新学期が始まったばかりで半分ぐらいの生徒しかきていなかった。



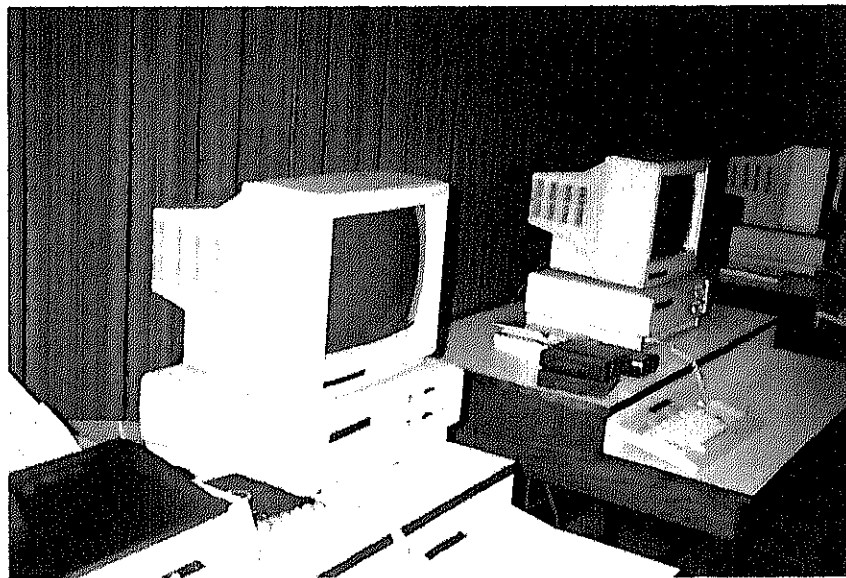
授業風景（ブルグラム女子高校）



授業風景（ブルグラム女子高校、小学部）



ガールズ・モダンスクール（英語の授業）



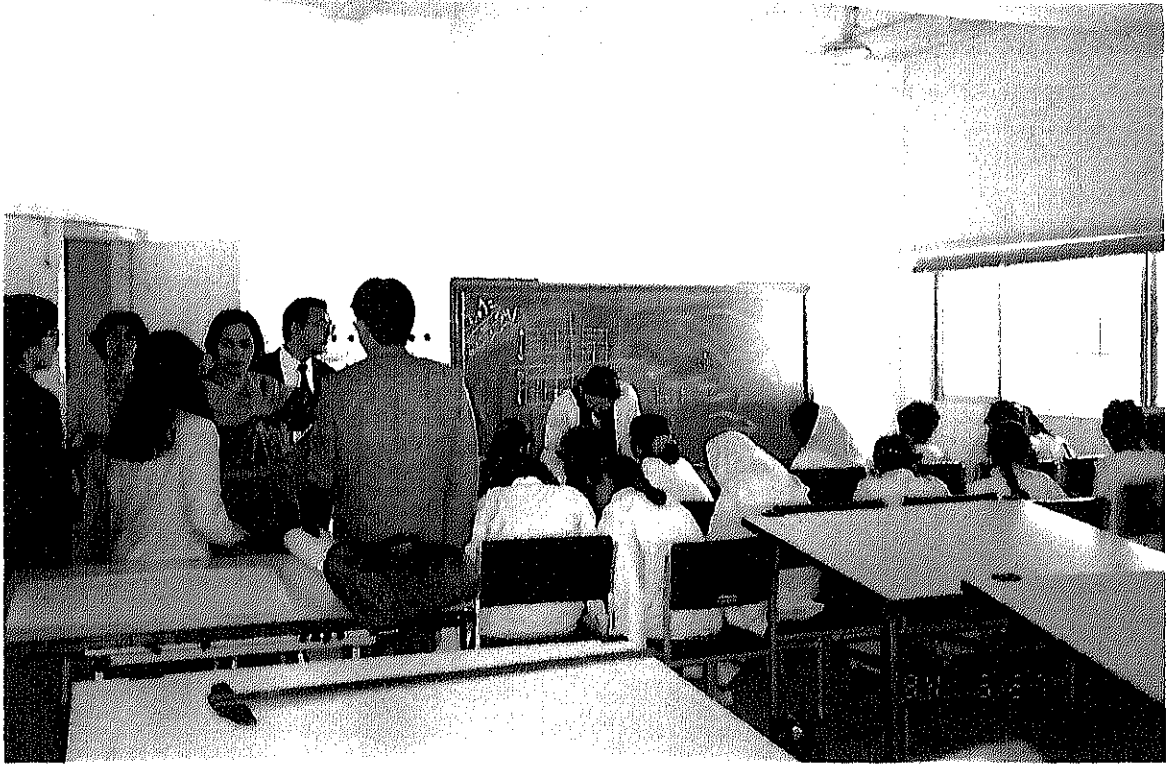
ガールズ・モダンスクール（コンピューター室）



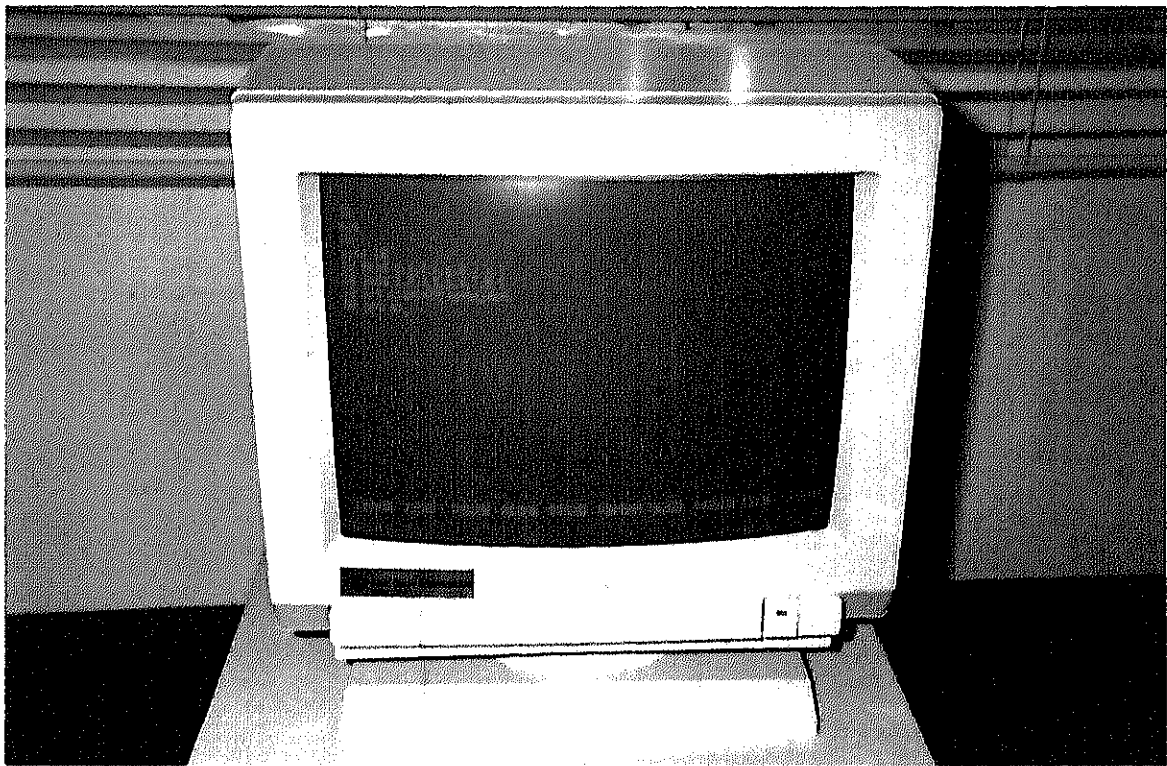
ガールズ・モダンスクール（家政室）



Sihala Higher Secondary



ポリテクニック



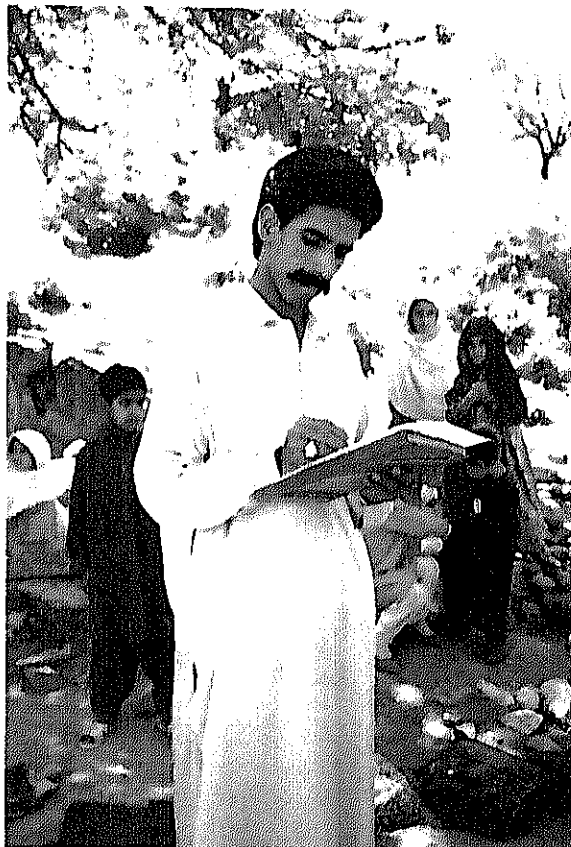
ポリテクニック



田舎の小学校、青空教室

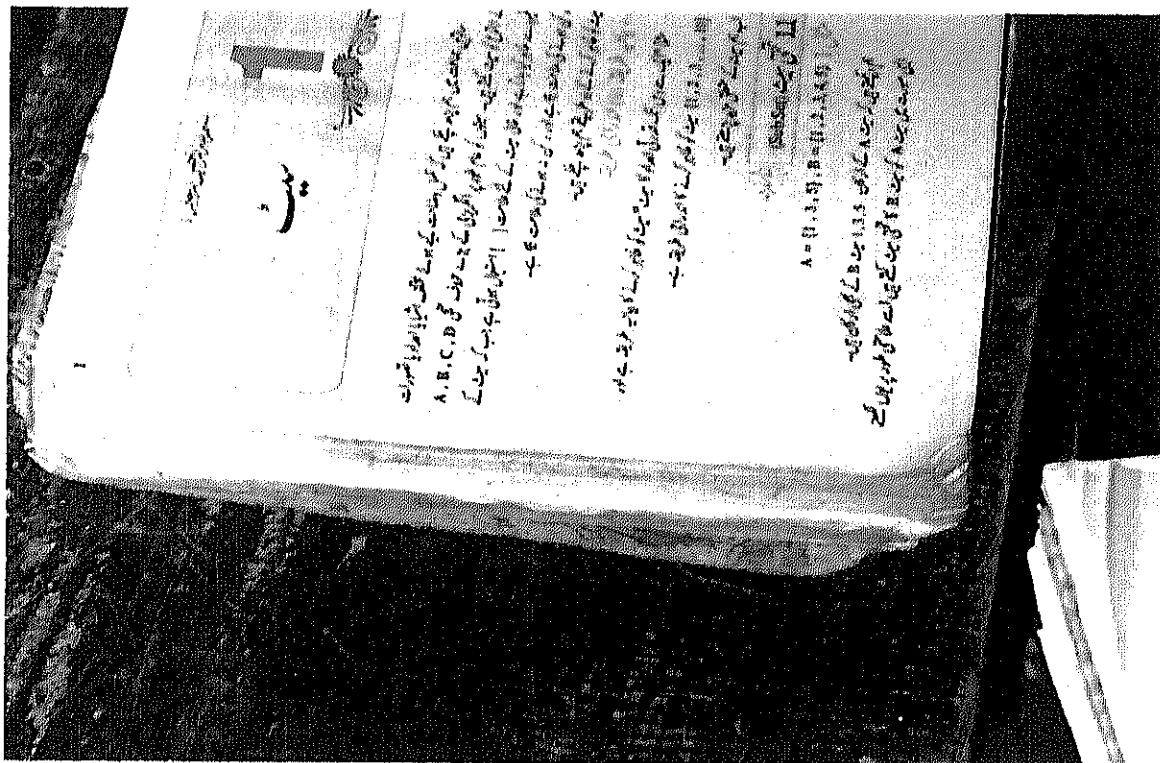


田舎の小学校、青空教室

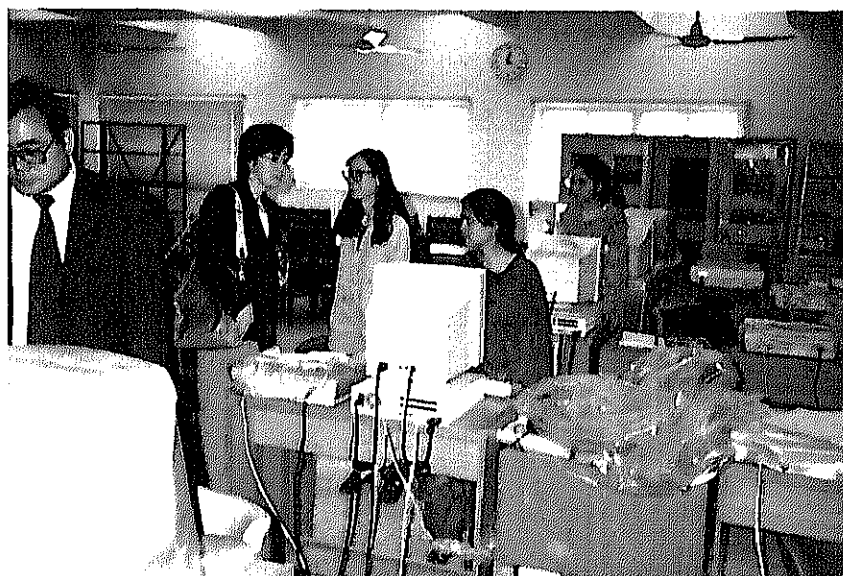


FUJICOLOR 94

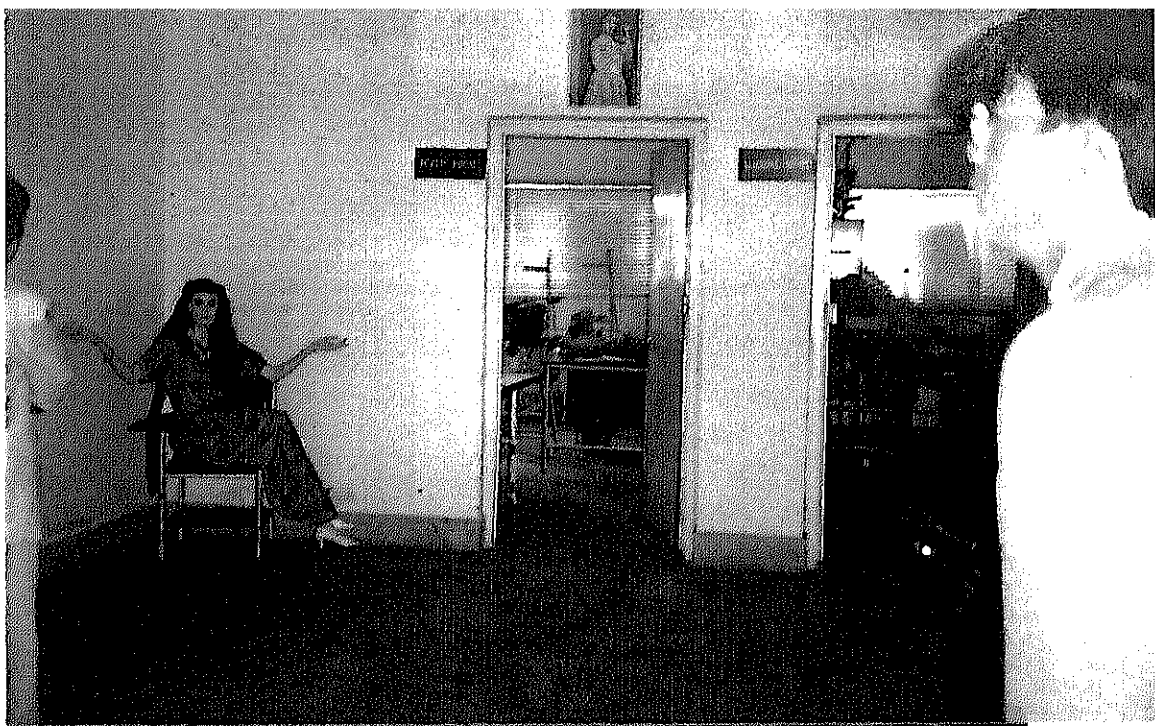
田舎の小学校、青空教室
たっ他1人の教員



ウルドゥ語で書かれた数学の教科書

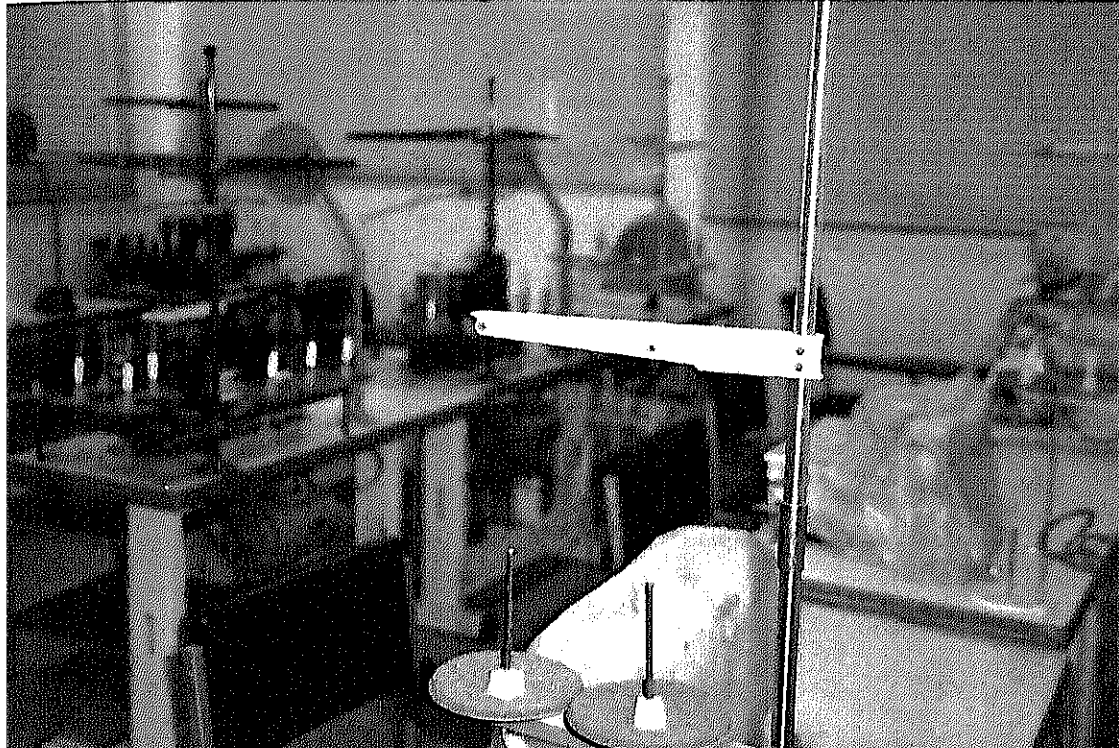
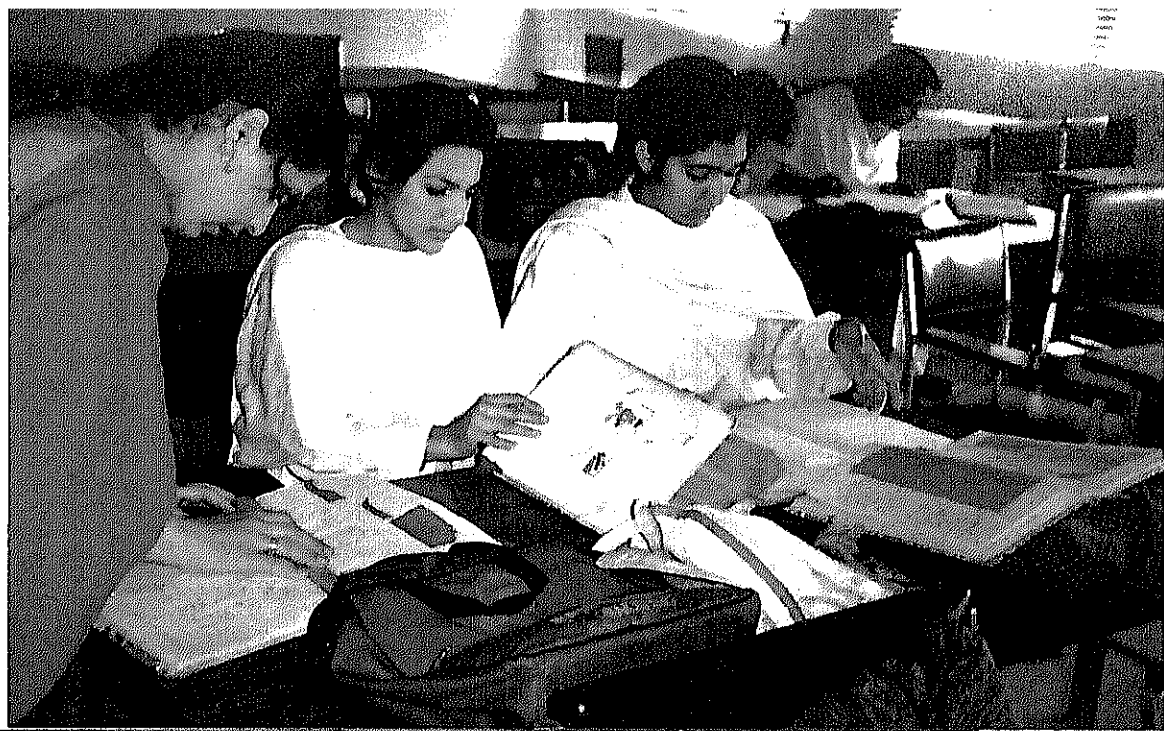


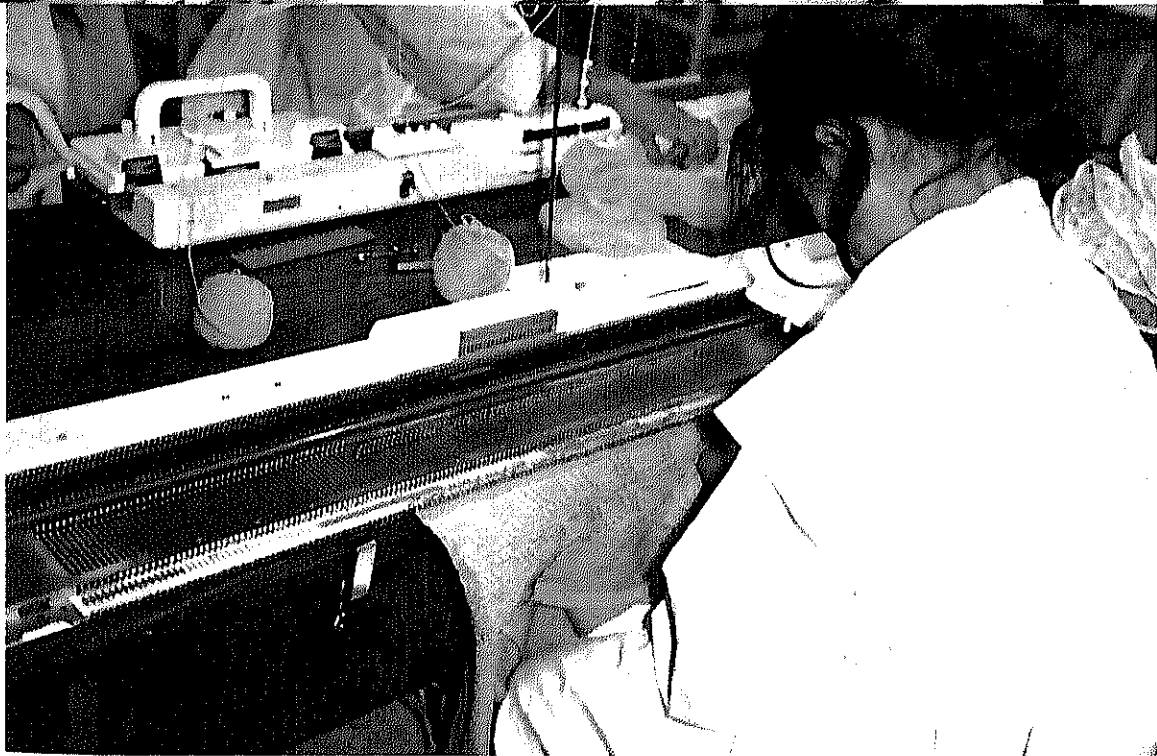
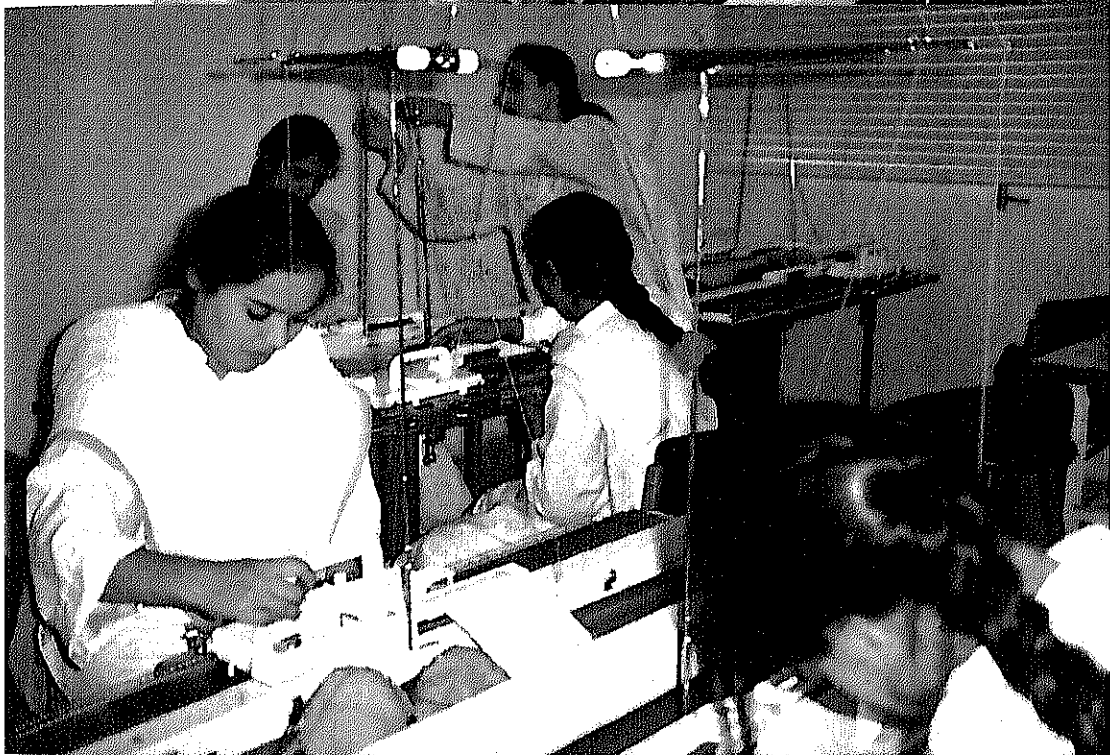
ポリテクニック

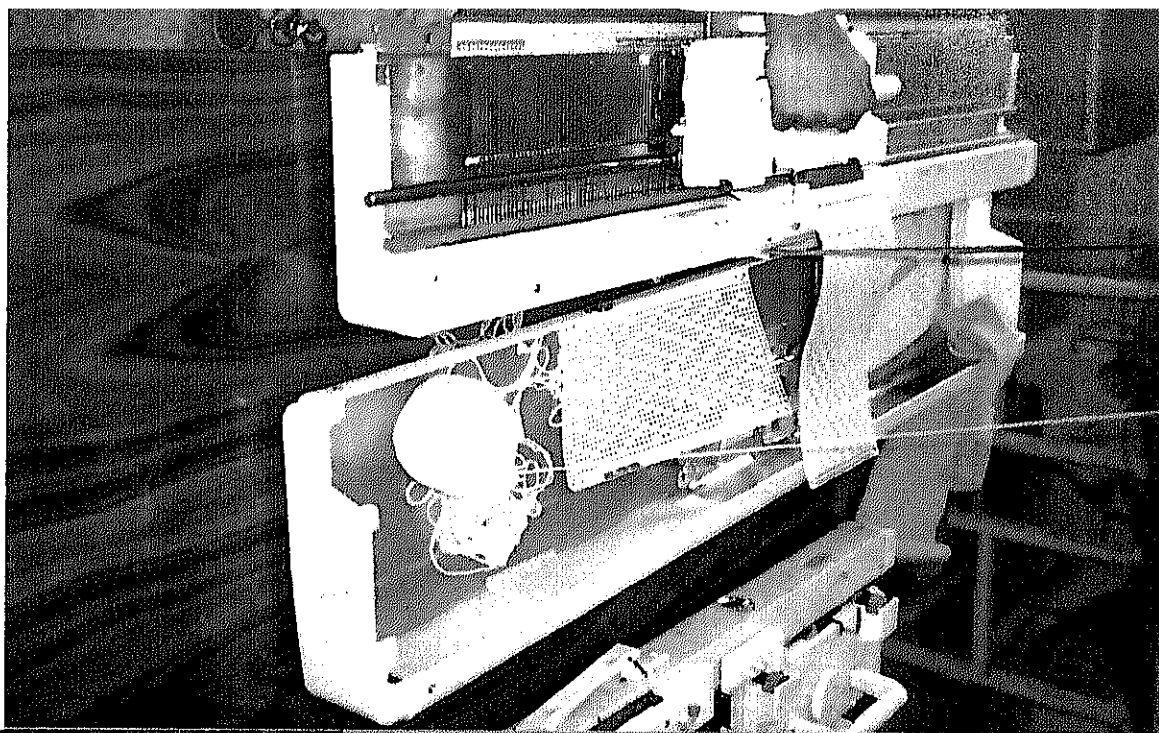


ドレスメイキング:
DDM. course







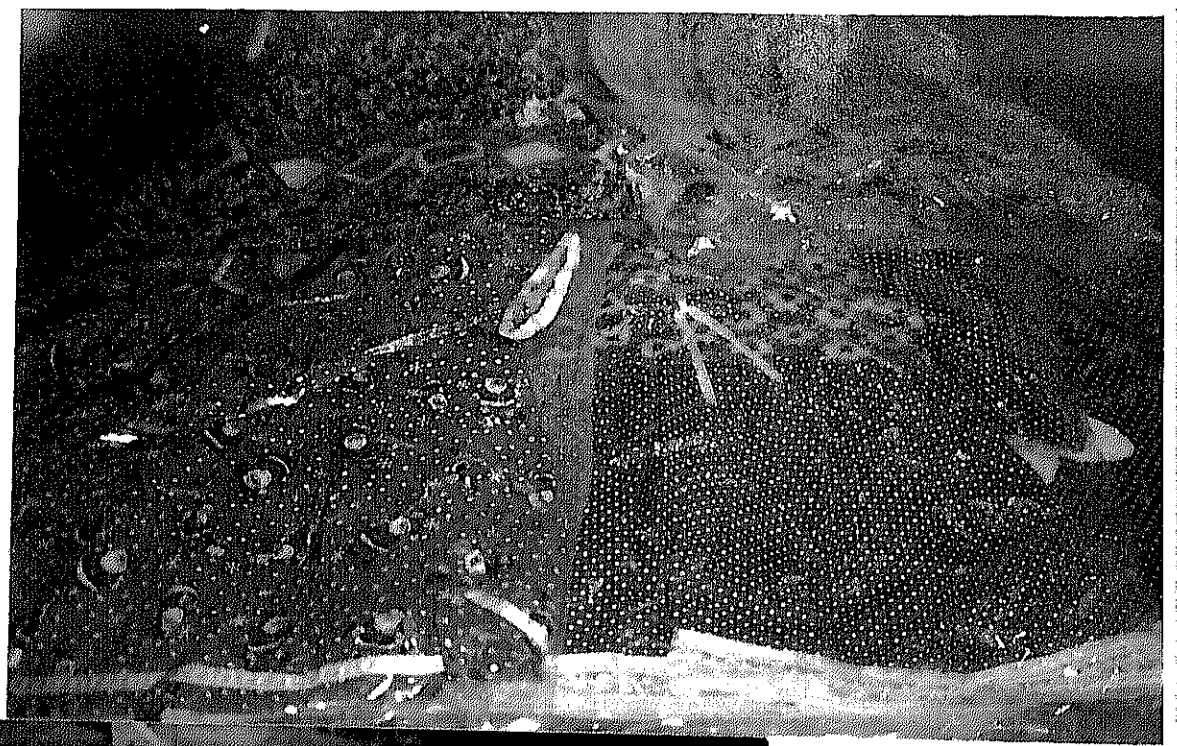


生徒達の作品
1年生



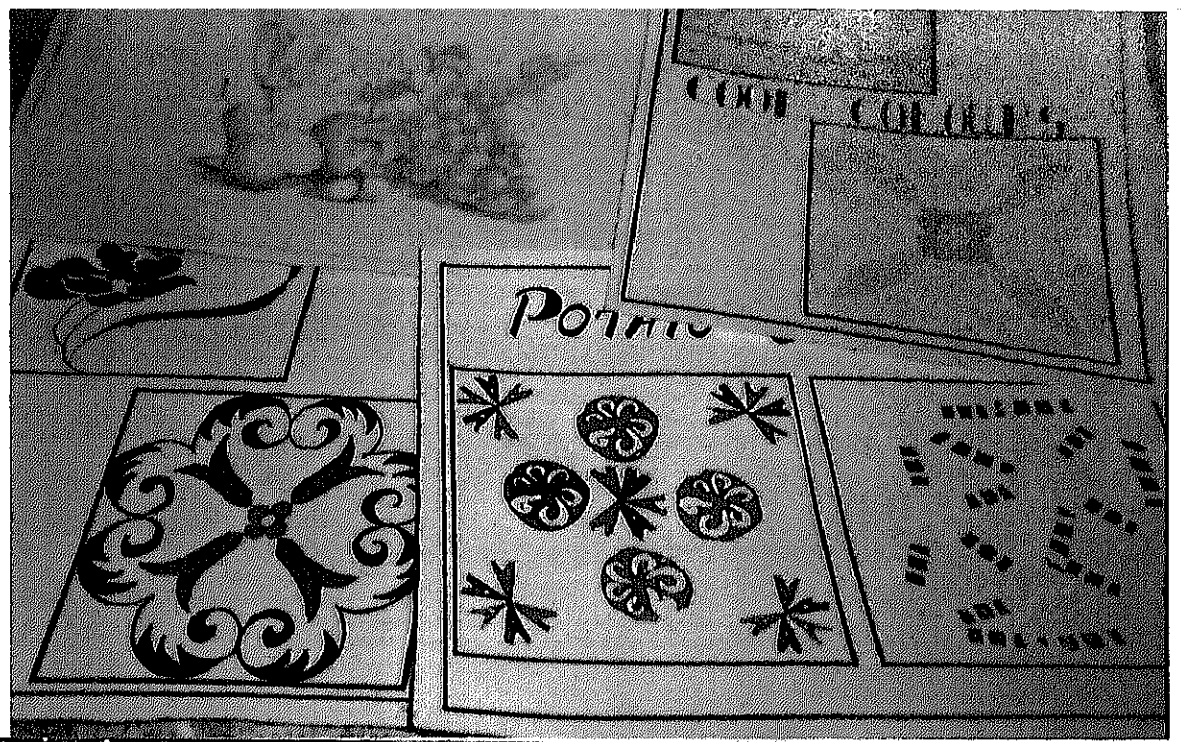


子供服



Fine Arts

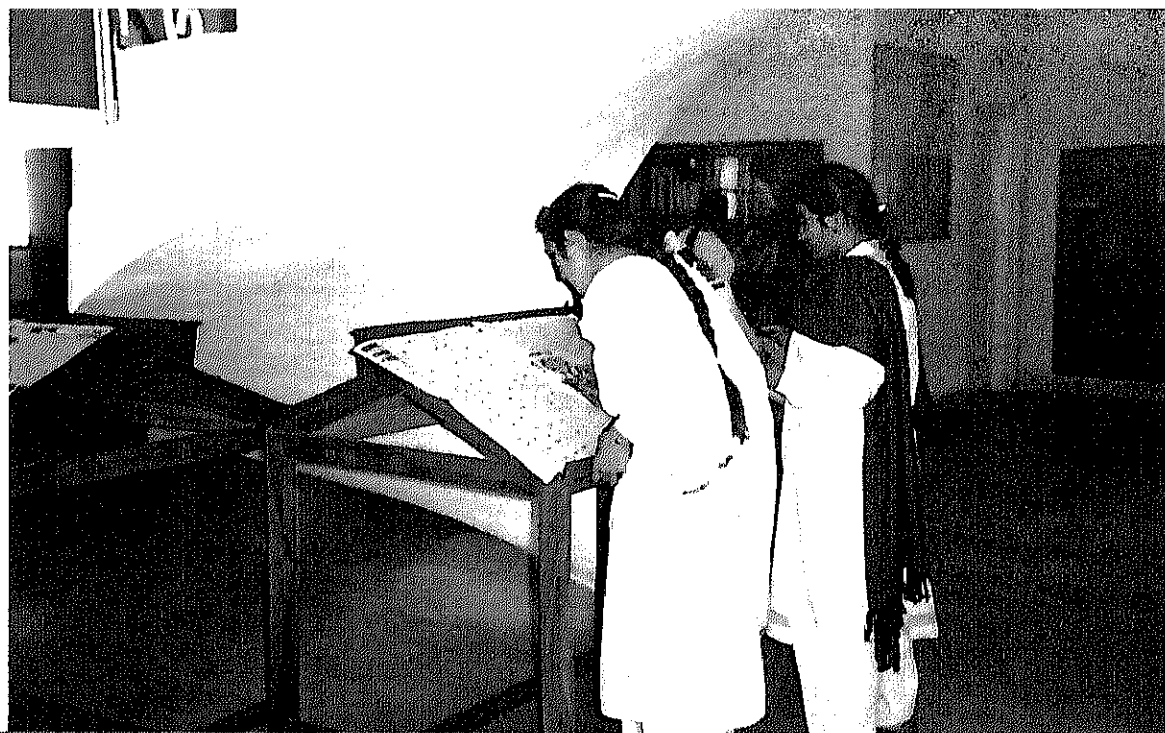




2年生の作品
編物は2年生にて

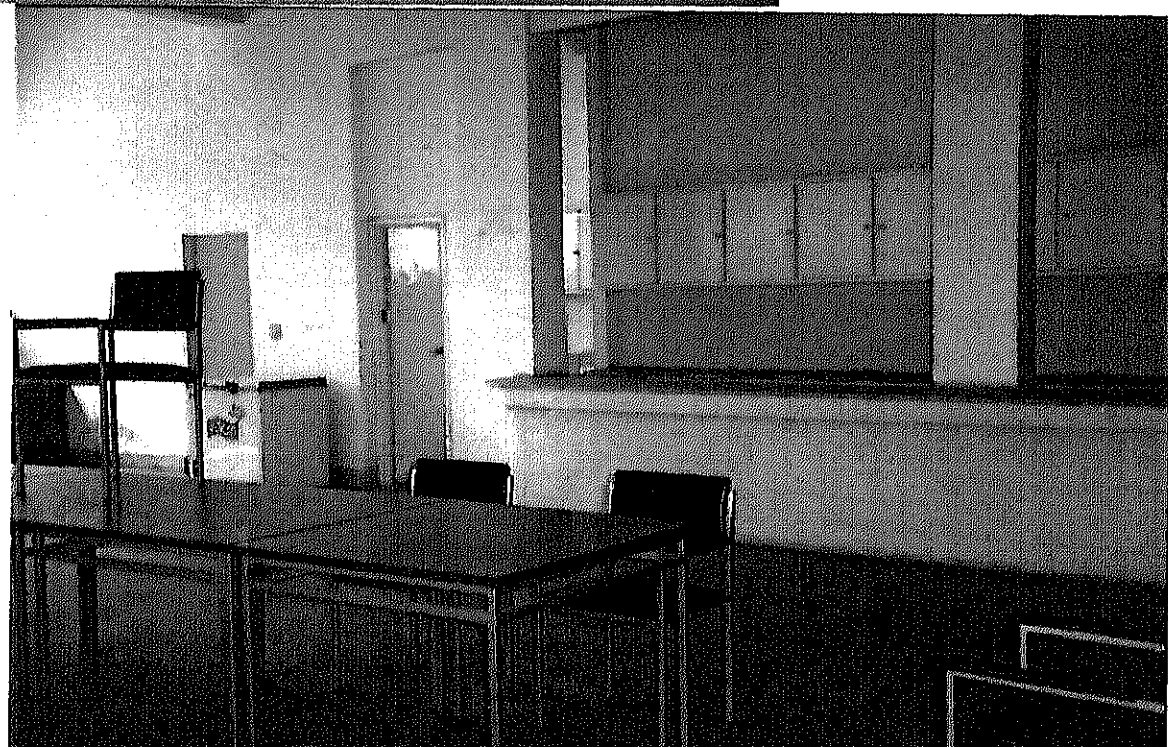


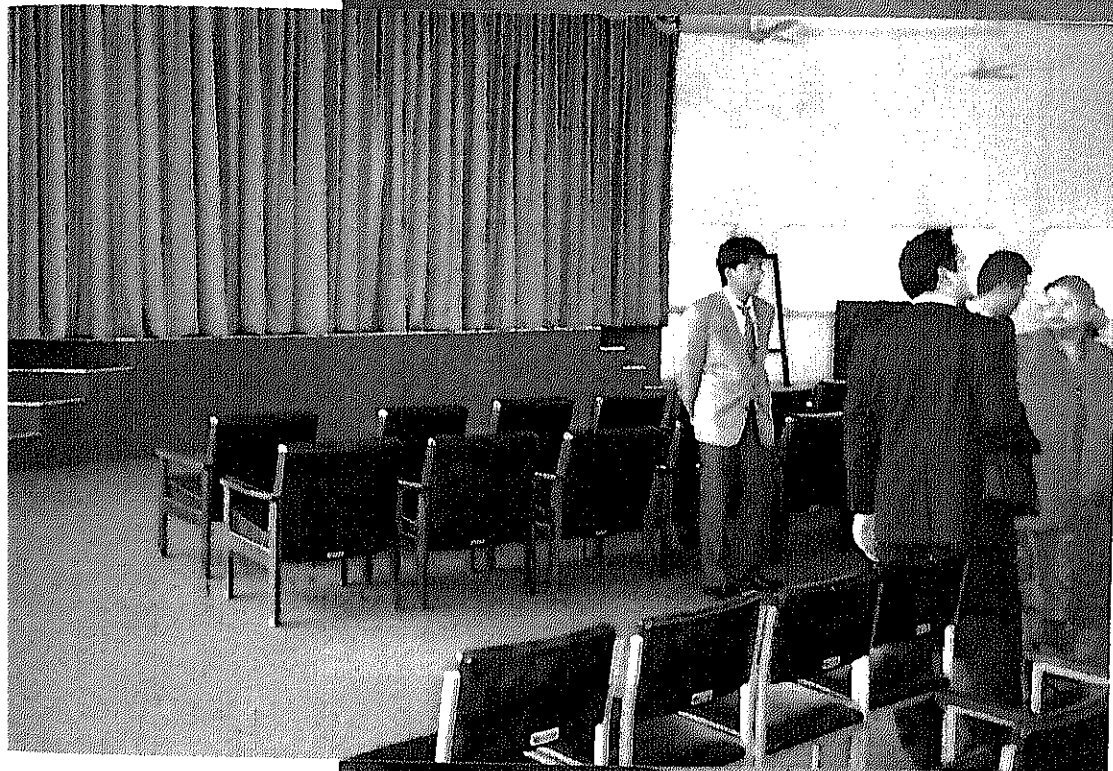
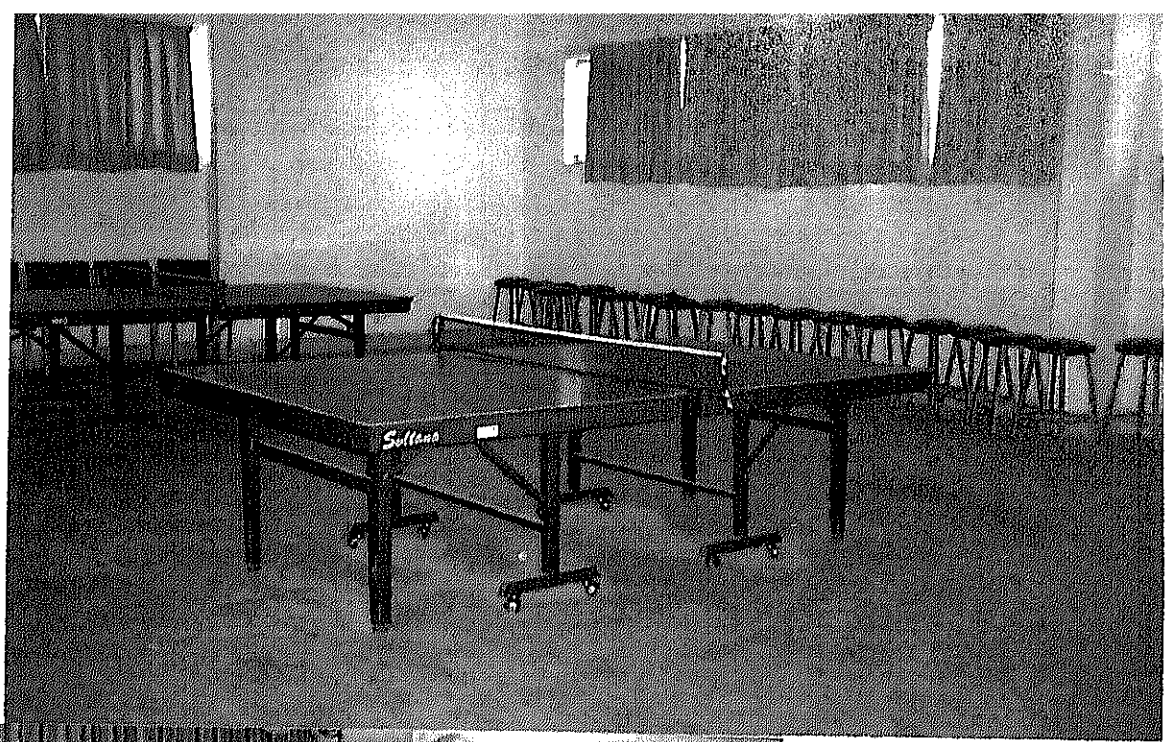
図書室
蔵書5000冊?



図書室

パーティーなどに
利用されるホール



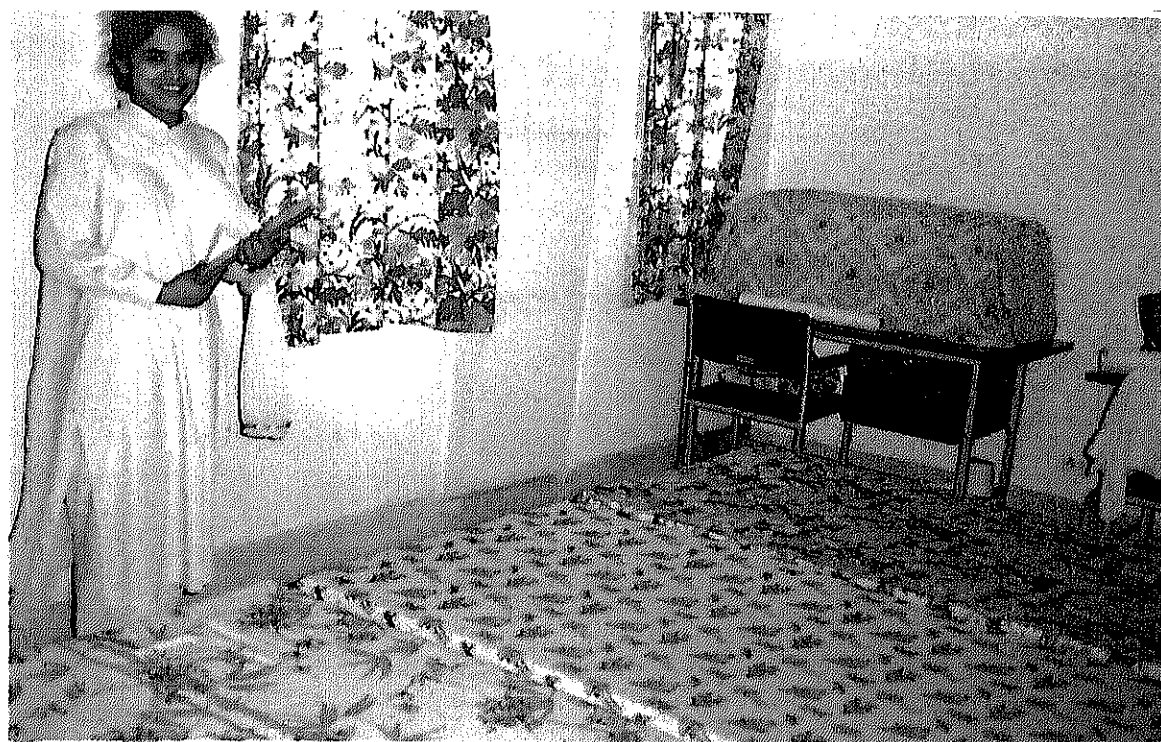


ホール

宿舎

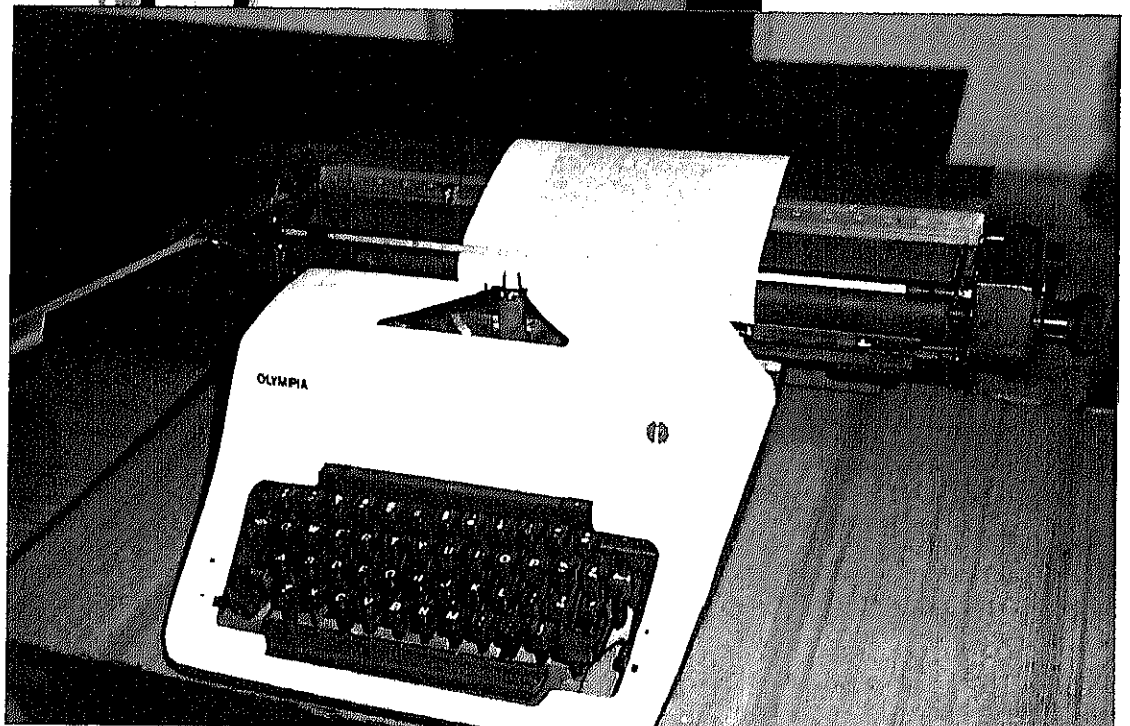


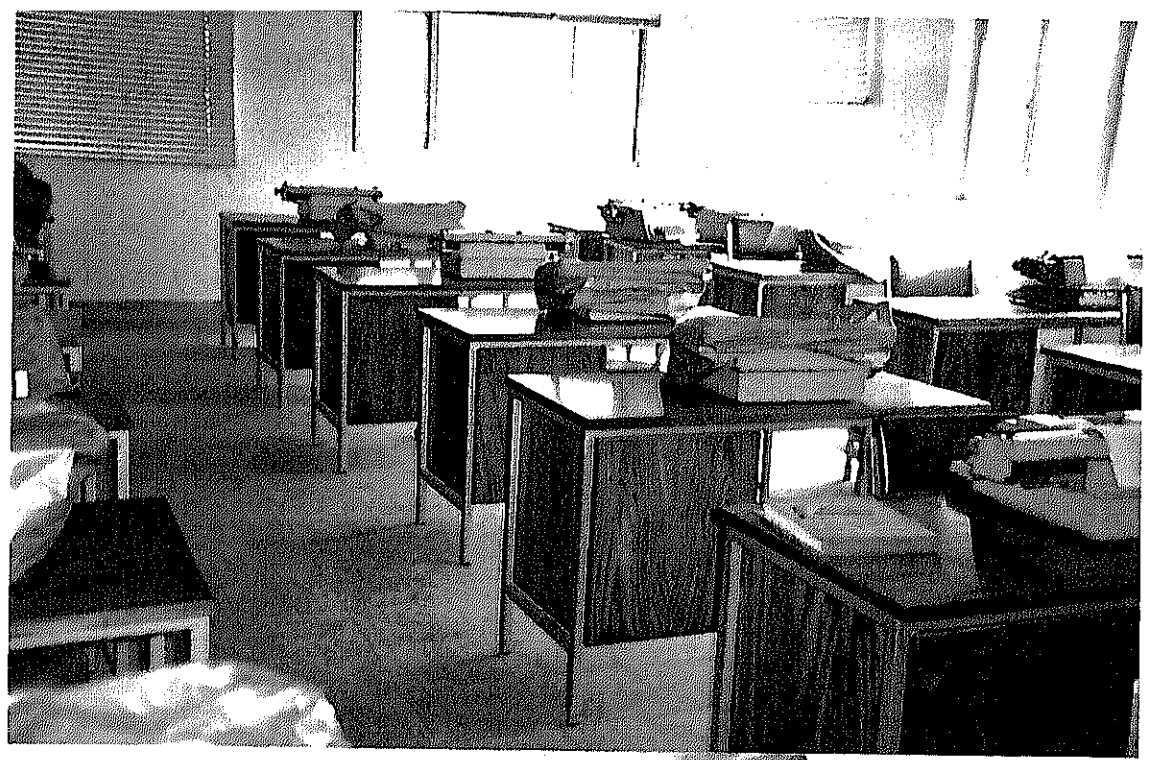
生徒宿舎にて
3 人部屋





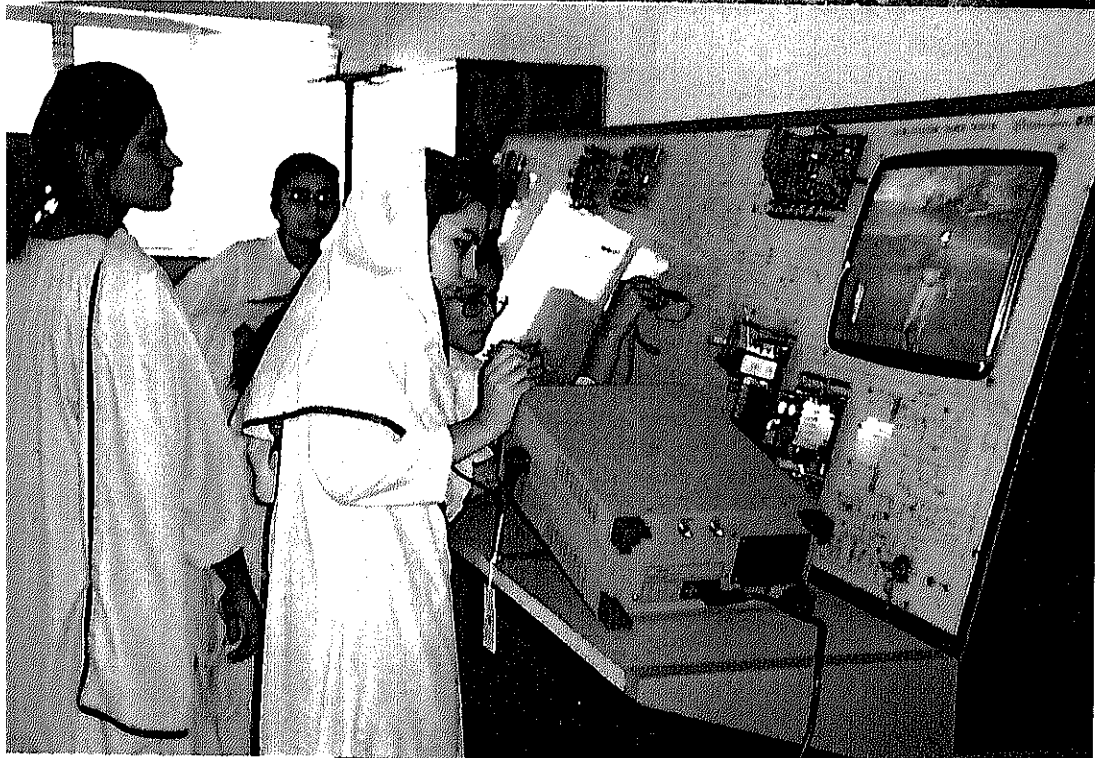
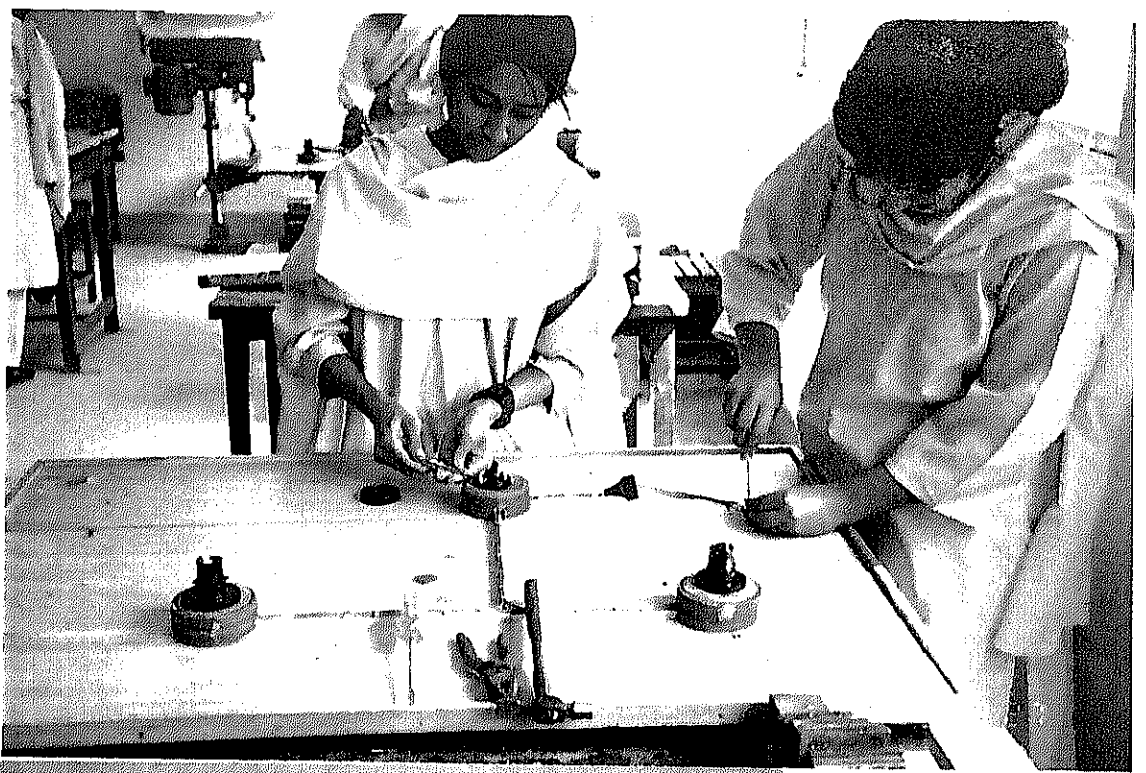
↑
← コンピューター
クラス

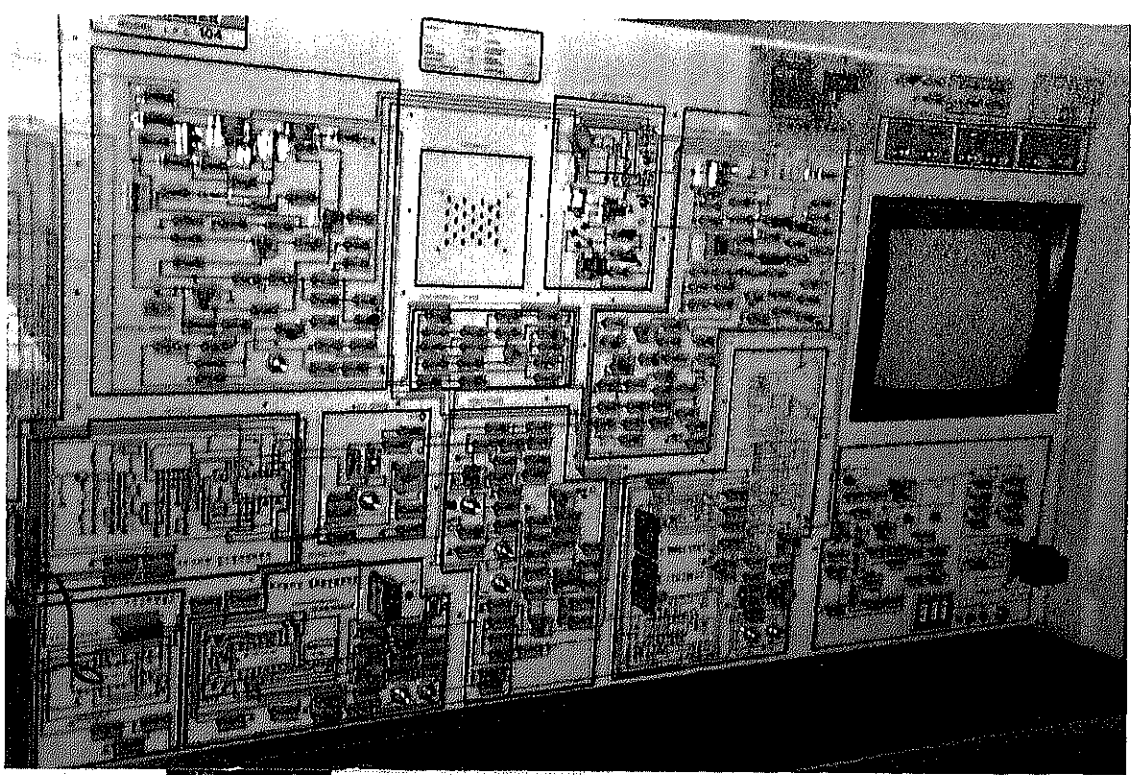




Architecture
class

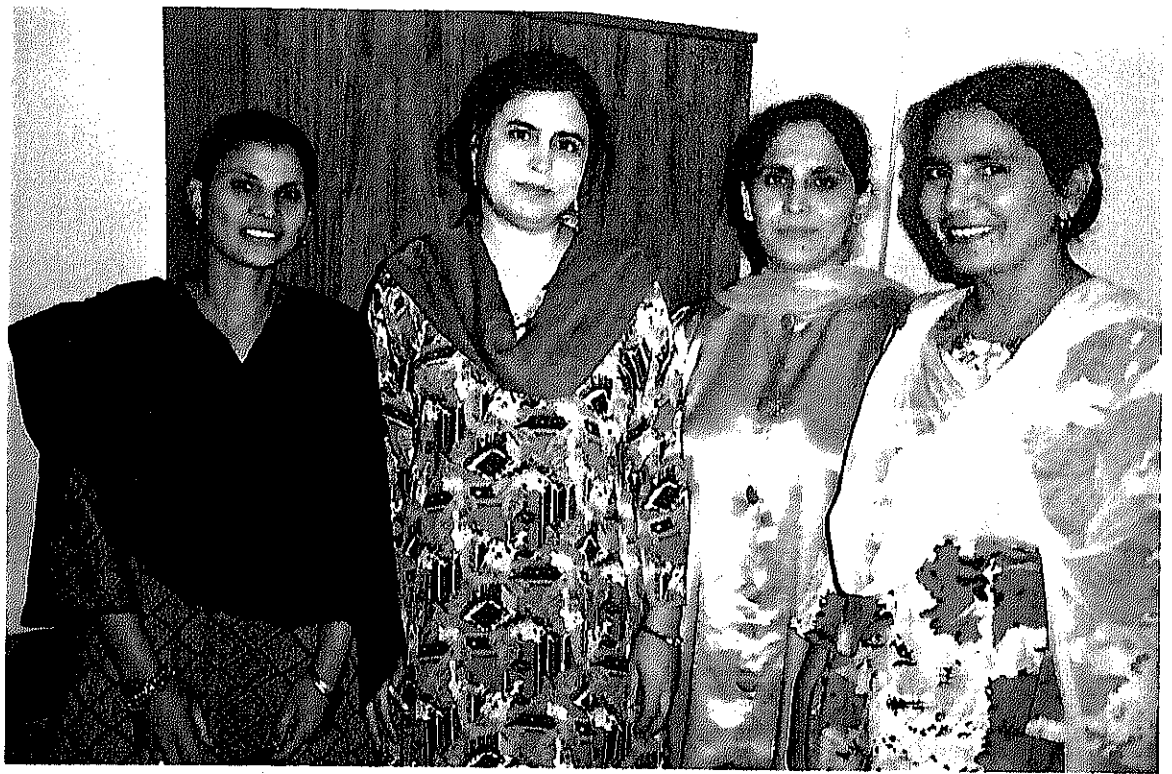




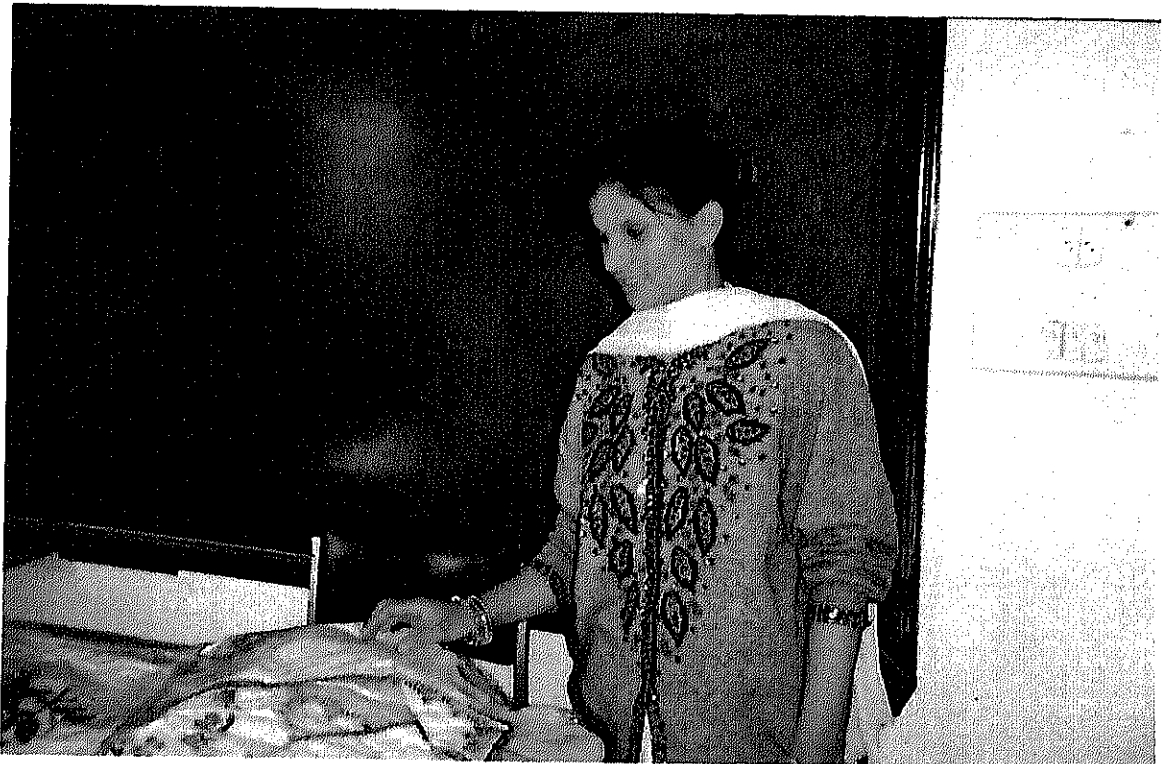


Mrs Farida Javed
Principal





ドレスメーカーキング (D. D. M.) の
Instructor 達





近代語学校



近代語学校（教えているのはパキスタン人）

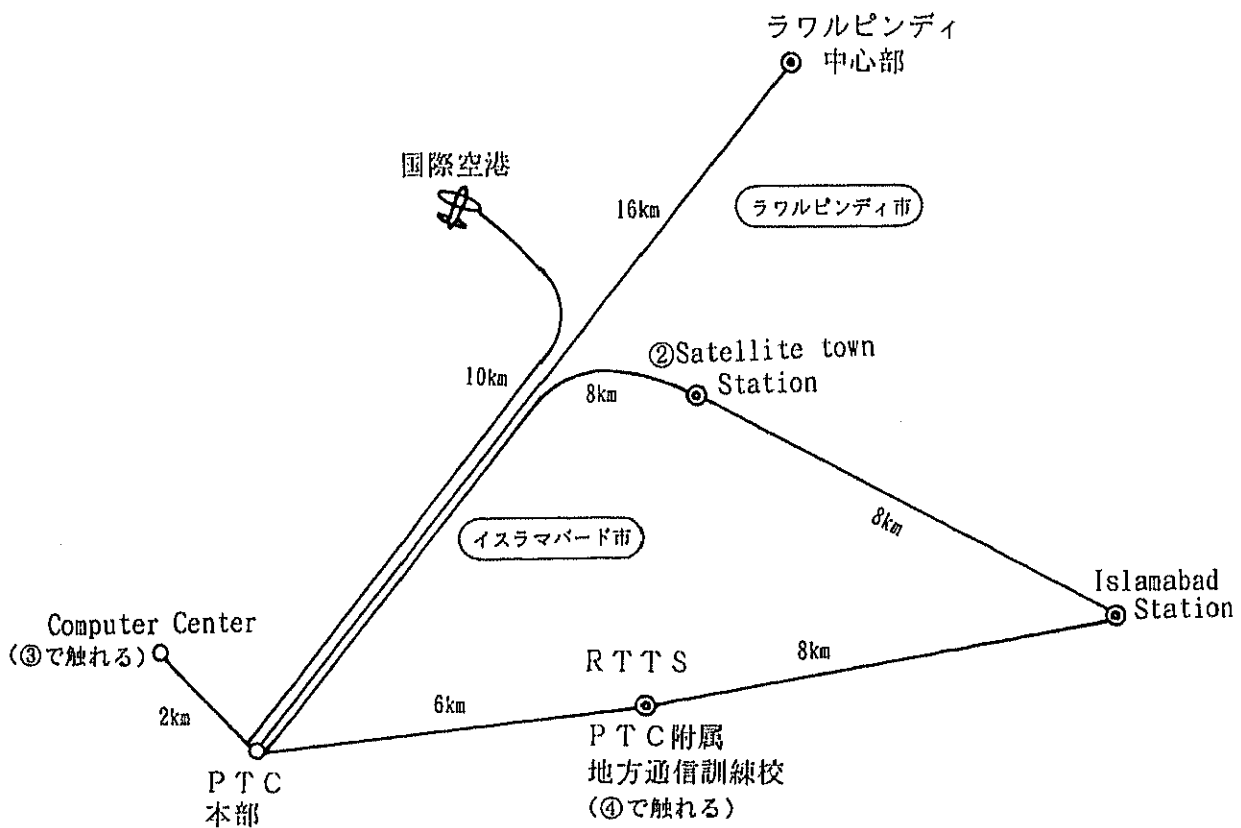
[2] 通信省

(1) パキスタン通信公社 (P T C)

[概 要]

- 事業内容
1. 通信設備の設置
 2. 電信・電話の通信網の計画・拡大
 3. 通信網の保守管理
 4. 公共通信サービス

予算 10億ドル



① 包装・司書・造園

表敬訪問時要請のあったこれら三種についてはプライオリティが低い為除外

}	包装	工場での製品のパッキング
	司書	P T Cの図書館（図書室）で勤務
	造園	P T C本部及び各地の局の造園を担当

② 無線通信機 (Radio Communications)

[要請理由 (目的)]

- 1) 保守管理を担当しているスタッフが精巧な検査機械の操査に精通していないので無線通信に関する技術を伝えるスタッフ不足を補うため
- 2) 何か障害が起こった場合、組織的な位置 (問題) を知る際にスタッフが助言を必要としている
- 3) 例えば集積回路の様な部門の入れ替えをする際、最新技術の適用が必要である

[隊員の地位]

アシスタント、エンジニア (マイクロ波)

[隊員の具体的業務内容]

スタッフに以下の訓練を行うことである

- 1) 無線通信の操査
- 2) アナログとデジタルの検査器を使っての故障箇所の見つけ方の指導
- 3) アンテナの種類に従ってその型と設置方法を紹介する
- 4) 移動電話についての講習会を持つ
- 5) 故障箇所の修理の指導

配属先にある機材

- 1) N E C (Japan) 960/1800 Channel of analogue M/W
- 2) 東芝 (Japan) 960/1800 Channel analogue M/W
- 3) N E R A (Norway) 34/140 MBIT Digital Radio System
- 4) SIEMENS (Germany) 小容量のアナログとデジタルのラジオシステム
(この会社の看板をよくイスラマバード市内で見かけた)

[カウンターパート]

アシスタントエンジニア (33才)。経験11年の電子工学のディプロマ保持者

[指導対象]

電子工学と電気のディプロマを持つ研修生である

[言語]

職場では英語が中心となるが、日常生活ではウルドゥ語が必要となる

[隊員の条件]

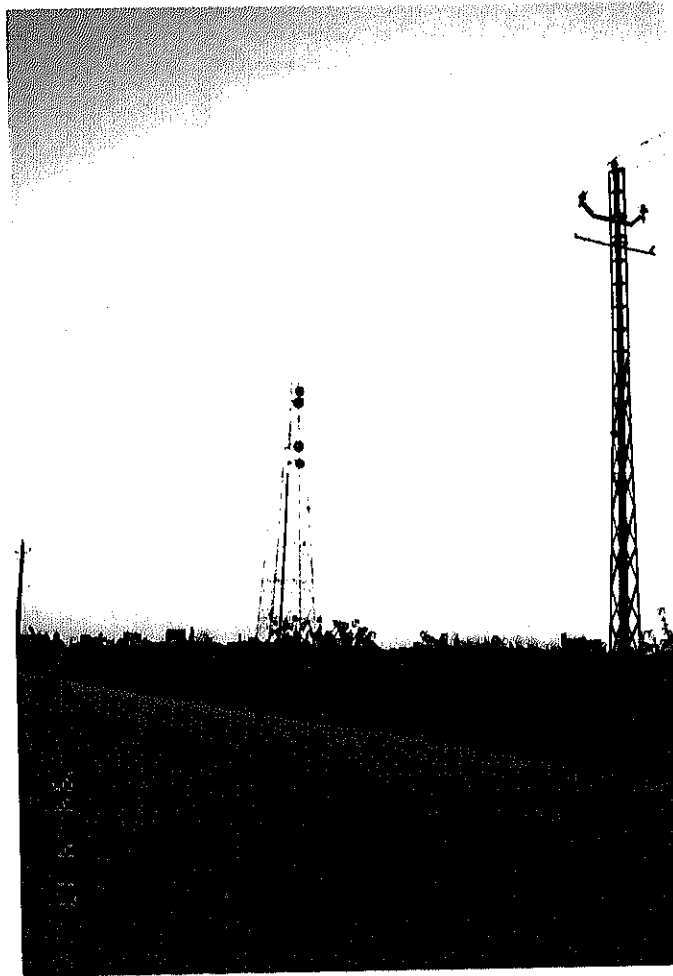
男性で無線通信技術の専門学校を修了しており、2~3年の実務経験があること

[配属先の期待と現状]

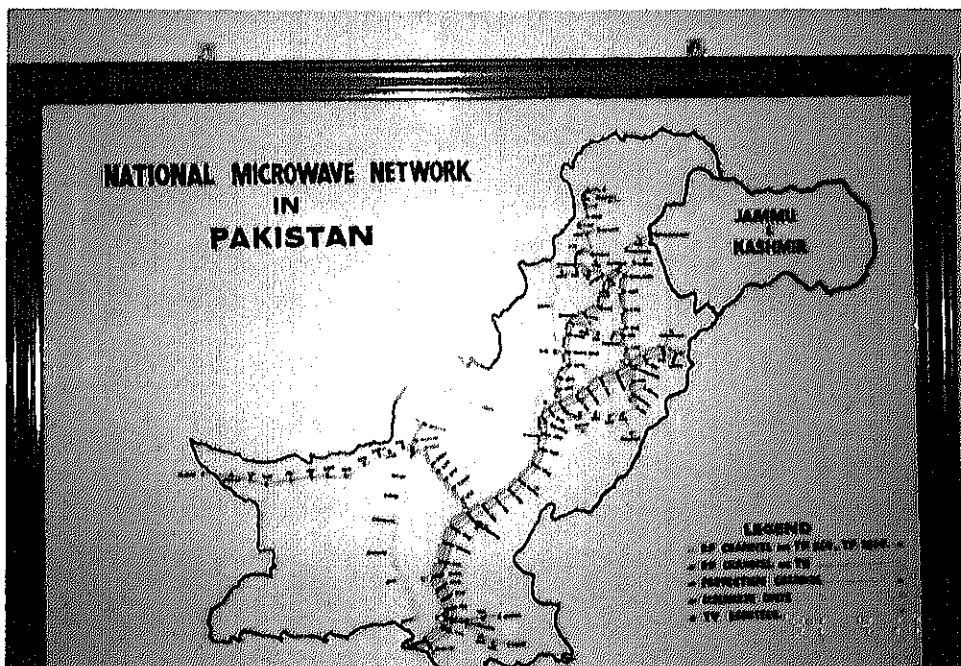
配属先には日本の機材も入っており (東芝、N E C)、日本人ジュニア専門家 (J. O. C. V) に対

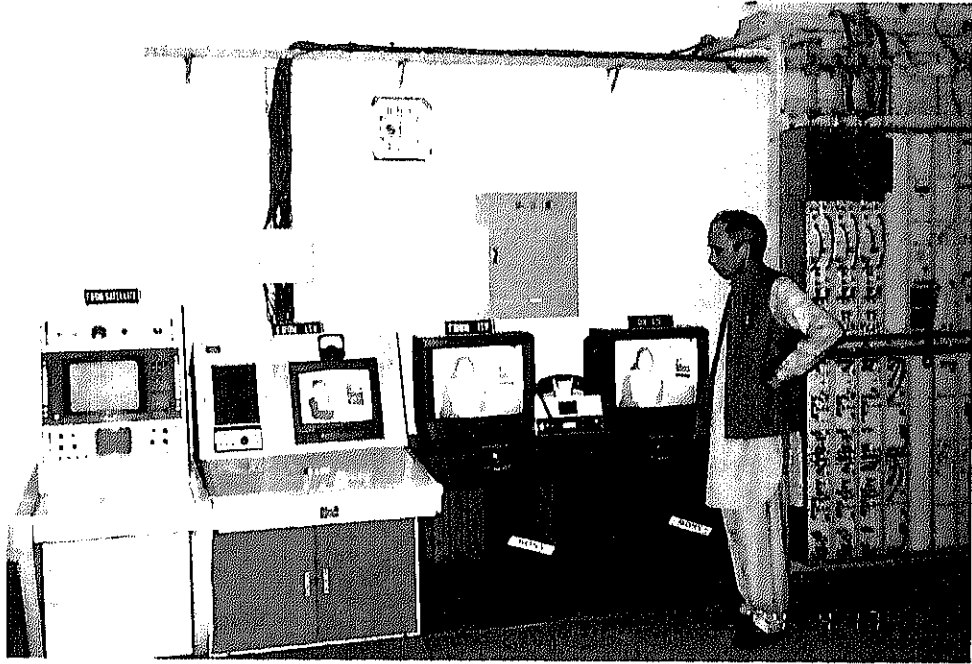
する期待は大きい。

隊員を入れることによって、日本の最先端の技術を導入したいと要請書に書いてあるが、実際、現場にあるのは10年、20年前の古い機種ばかりである。先方には「隊員は Limited Experience Limited Budget and Limited equipment」と何度も説明してあるので、この点については了解済みである。

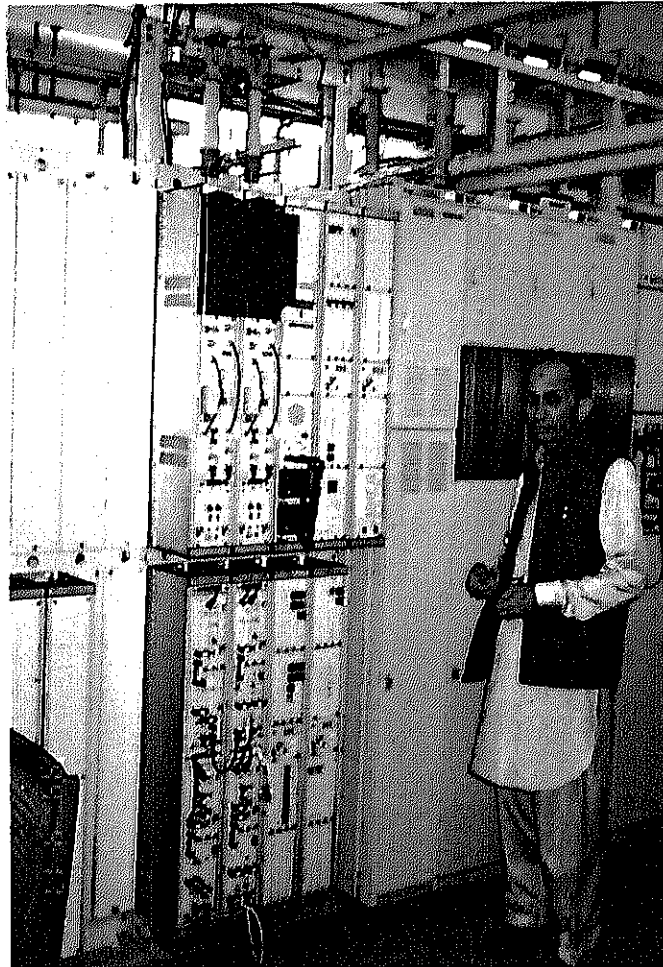


P T C イスラマバード支局
 (隊員が派遣されるのはサテライト・タウン局)





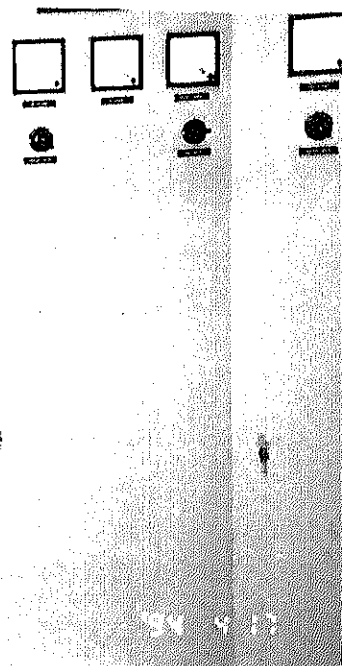
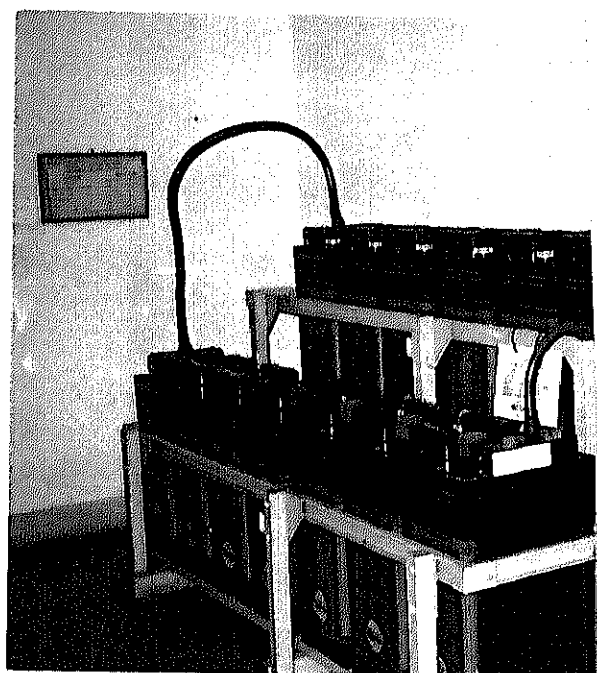
P T C 写真の右側に写っているのは隊員の上司となる
Mr. (Muhammad) Saleem
Divisional Engineer (Microwave)





P T C 同じタイプの教材として以下のものがある (全てNEC)

- Model TVL-3011A 7GHz Band
Transmitter Equipment
- Model TVL-11GD27 11GHz Band
Transmitter Equipment



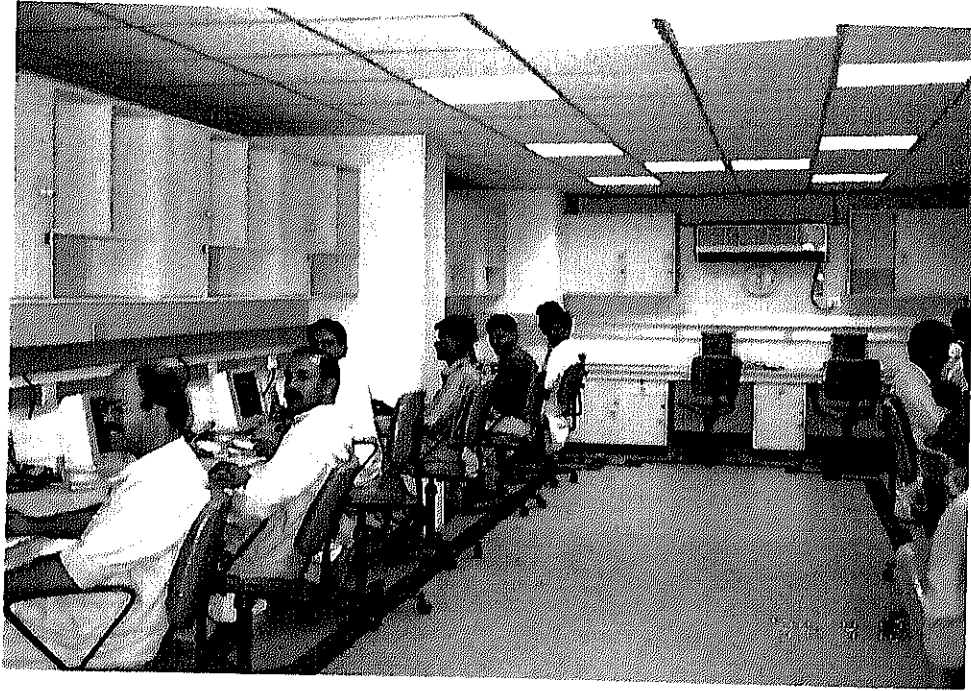
バッテリー

③電子計算機 (Computer)

調査日程を終える間近になって、ブルーシートが上がって来たので、JICA Pakistan officeに引き継いできた。隊員の業務内容等について先方と協議する必要あり。

Computer Center は
この建物の
中にある





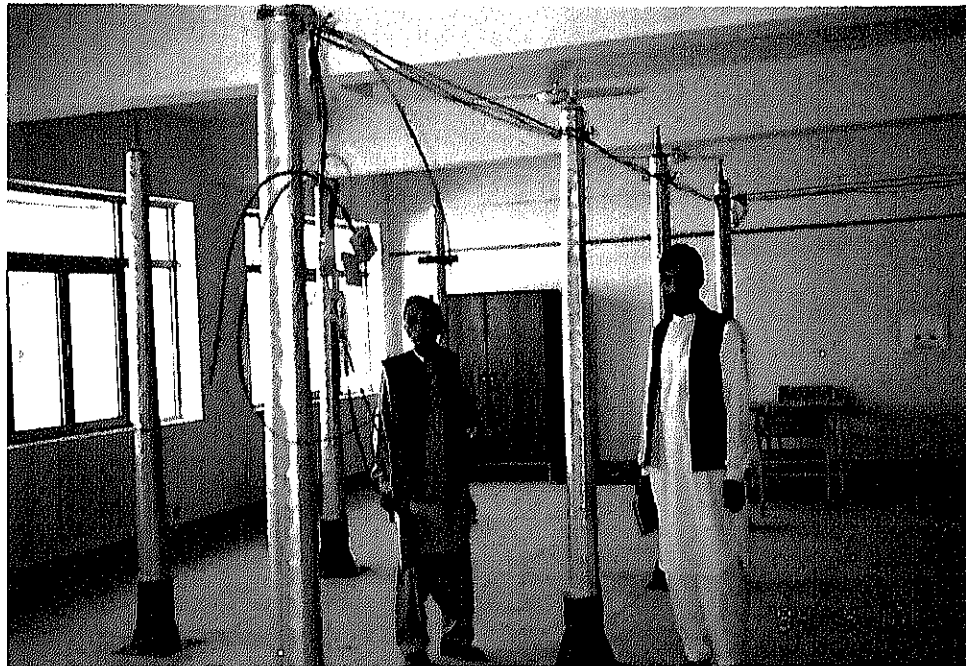
隊員の職場

④電話線路 (Telephone Line Network)

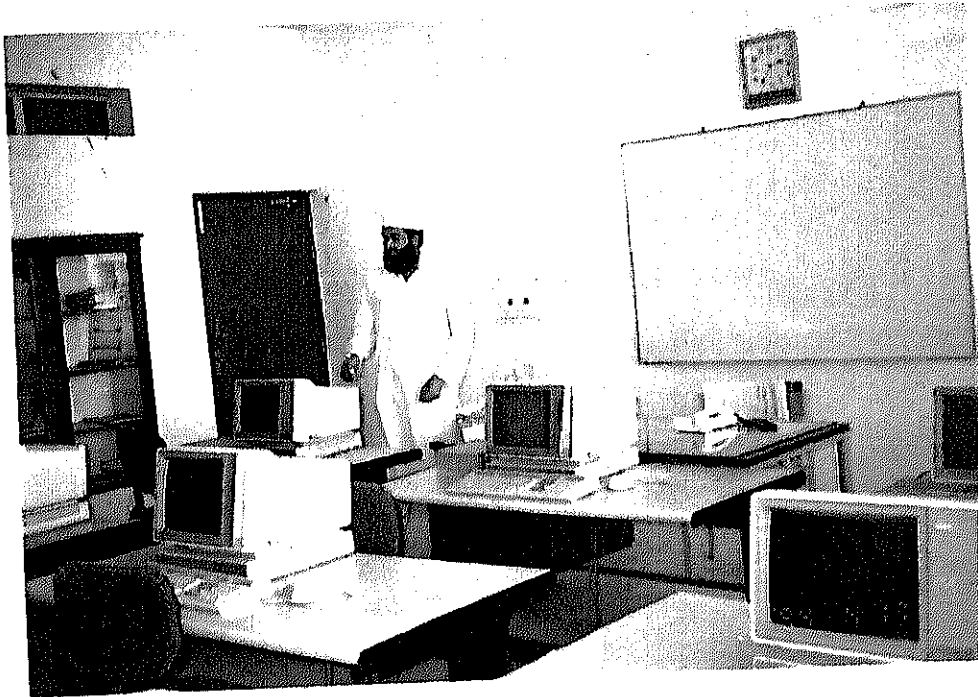
隊員はR T T S (R T T S Regional Telecom Training School P T C 附属地方通信訓練校) で訓練生 (18才~45才) に対し電話線路についての授業 (実習を含む) を担当する。

調査日程を終える間近になってブルーシートが上がってきたのでJ I C A Pakistan office に引き継いできた。隊員の業務内容等について先方と協議する必要あり。

R T T S の実験室
右は担当者であり校長の
Mr. SIDDIQUE



他に同じく電話線路でP T C本部から要請が出されたが (職場はマリオットホテルの裏)、受け入れ態勢が悪いので本部と話し合っ、調査を中断した。



教室と講師

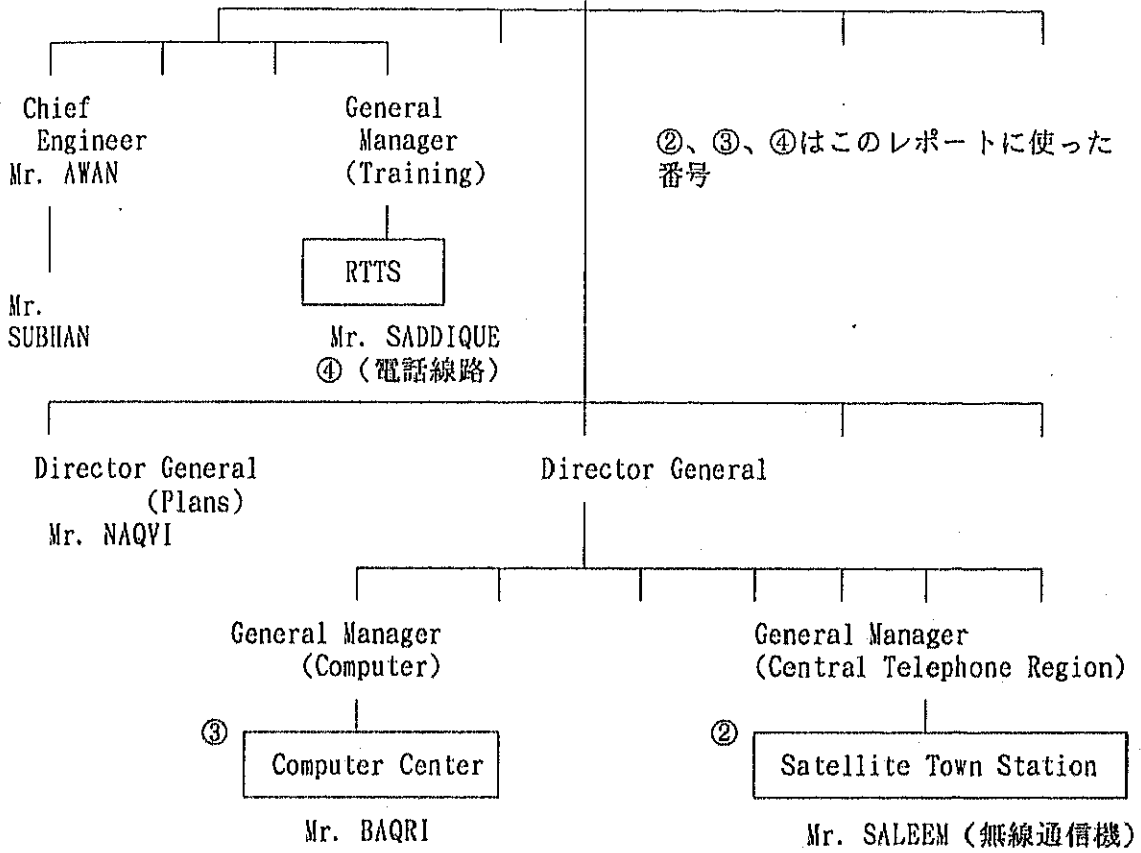


実習室

P T C 組織図

Chairman (Mr. Chaudry Masud Ahmad)

理事会



[3] 首都開発庁 (C D A)

[概 要]

CDA、環境整備部 (Environment Wing) の事業内容

- 1) 首都イスラマバードの環境整備とマルガラヒル国立公園の自然・文化・歴史的遺産の管理
- 2) 首都近郊の森林保護、植林及び育成
- 3) 都市部の公害対策、その他の環境整備政策の促進

① 花 き

当初要望されたが先方の取り下げにより調査中止。

将来的に考慮の余地あり。

隊員の業務内容としては②の園芸作物隊員の配属先であるCDAの幼苗場 (Nursery) でできた花の苗を街の美化の為に市街地に植える。



イスラマバード市内

正面に見えるのは国会議事堂

中央分離帯に植物を植えるのもCDAの仕事

② 園芸作物

[勤務先] C D A 環境整備部幼苗場 [Nursery]

[要請理由] (目的)

現在CDAの幼苗場では専門技術を持った職員が不足しているが、財政的に職員を増やすことは困難である。今回、協力隊員を要請することによって、この問題を解決したい。そして隊員の持っている経験や、日本の進んだ技術を導入することによって幼苗場の技術レベルの向上を

図りたい。

[隊員の地位]

ジュニア専門家 幼苗場補佐

[隊員の具体的業務内容]

- 1) 土地固有の及び外来の観葉植物の成長を温度調節をすることによって早める（温室内に石油ヒーターがある－写真参照）
- 2) つる植物、花の咲く低木の栽培
- 3) 異なった花粉を混ぜ合わせるによって違った色の花を栽培する
- 4) 果樹の接木
- 5) 苗は主に苗畑ではなく、小さなビニールの袋を使って育成していた－写真参照

[隊員が利用できる機材]

ガーデン・トラクター、殺虫剤散布用スプレー（写真）

芽接ぎ用ナイフ、一輪車

[指導対象、言語]

幼苗場の職員。経験の浅い者から熟練した者までいる。その為言語は日本での訓練では英語を学び、現地に着いてからウルドゥー語を習っても充分に対応できると判断した。調査団員のネパールとフィリピンでの体験から隊員が基礎的な英語を話せないと現地スタッフから軽く見られる傾向があるのも今回の判断の基準である。

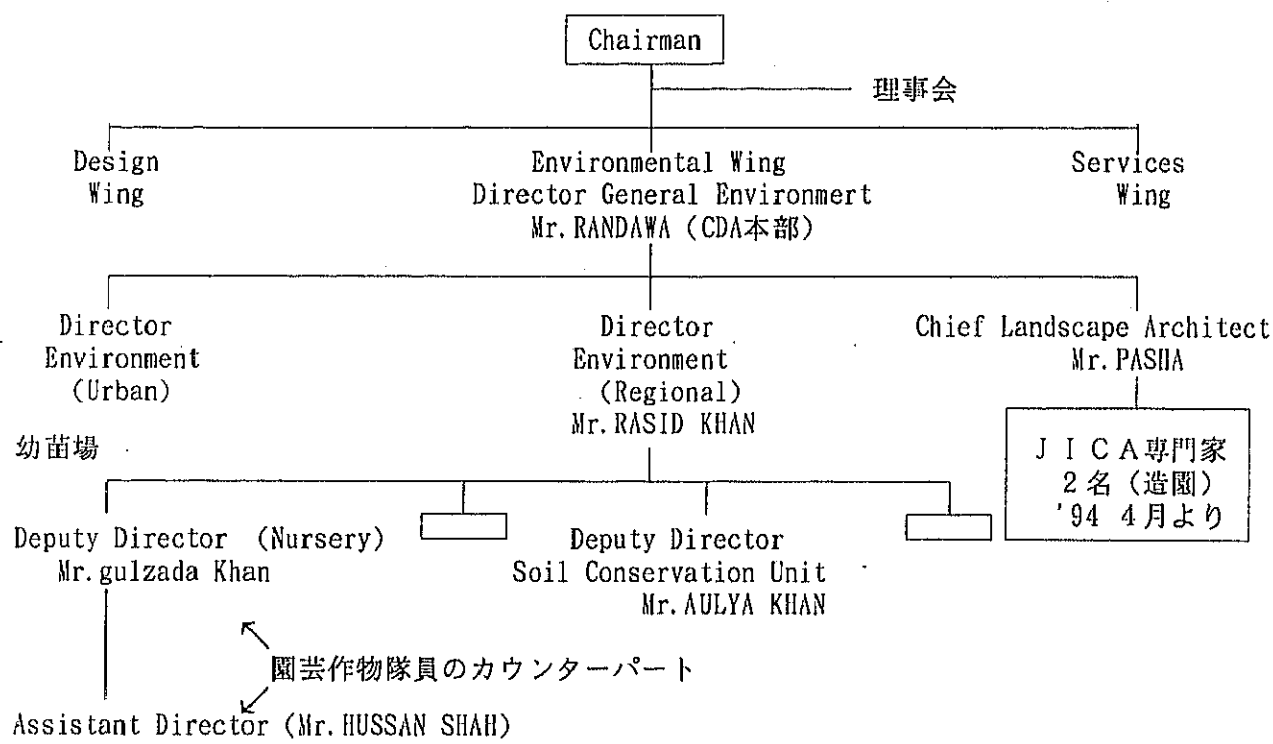
[隊員の条件]

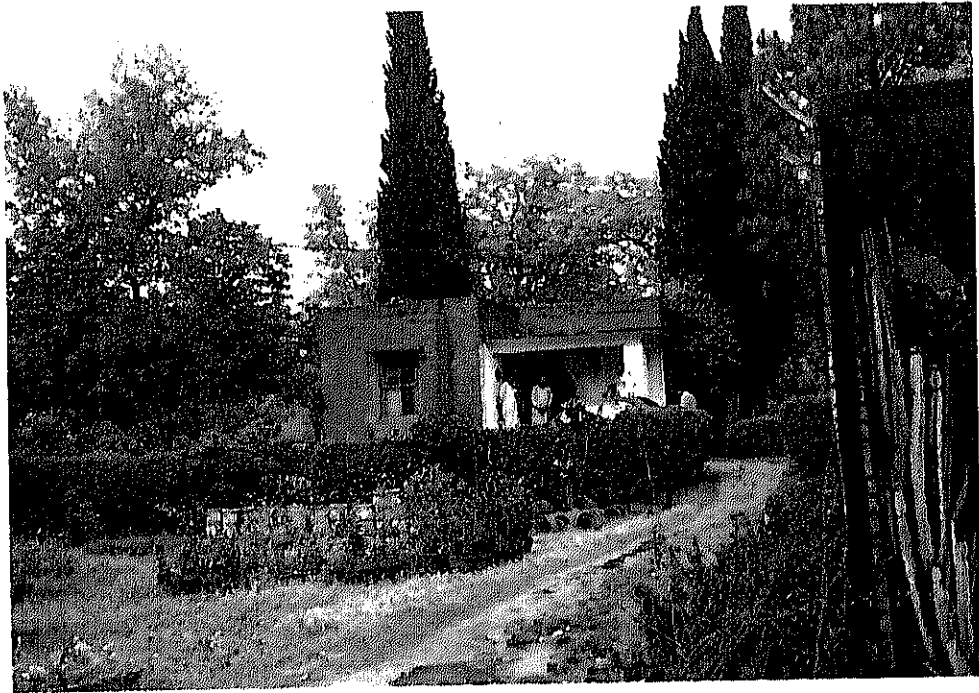
男性で園芸作物に関するコースを修了している者で実務経験が3年ある者

[配属先の期待と現状]

現在CDAの幼苗場で扱っているのは観葉植物、花、つた植物、果樹等である。隊員はできれば全てをカバーすることが望まれるが、できなくても現場スタッフと共に作業することによって学ぶ。「On the Job Training」を隊員の直接のカウンターパートである幼苗場長補佐は協調していた。

C D A 組織図





CADのNurseryのoffice 隊員はここに詰める

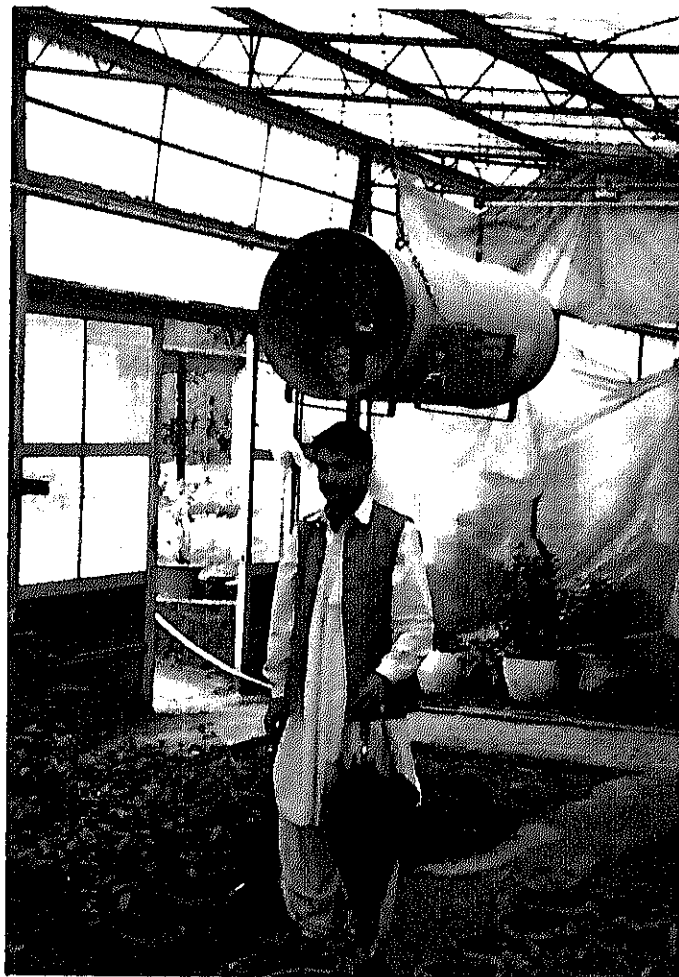




温室（上）とその内部（下）

中にはヒーターがある

（向こうに張ってあるビニールは熱が
隣の部屋に逃げない様に）



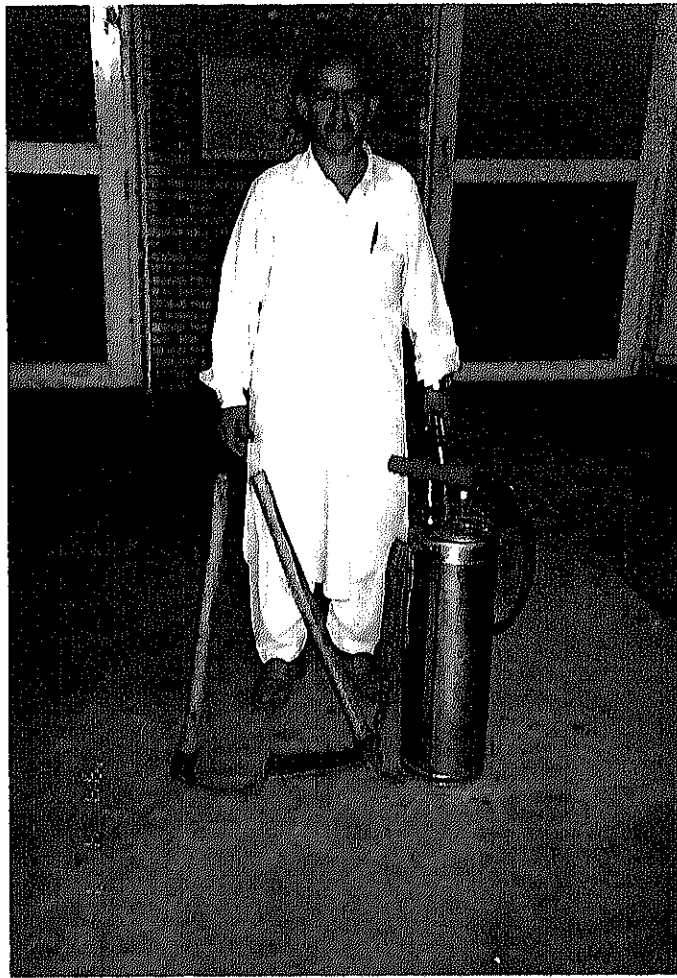


〔三枚とも〕
温室内



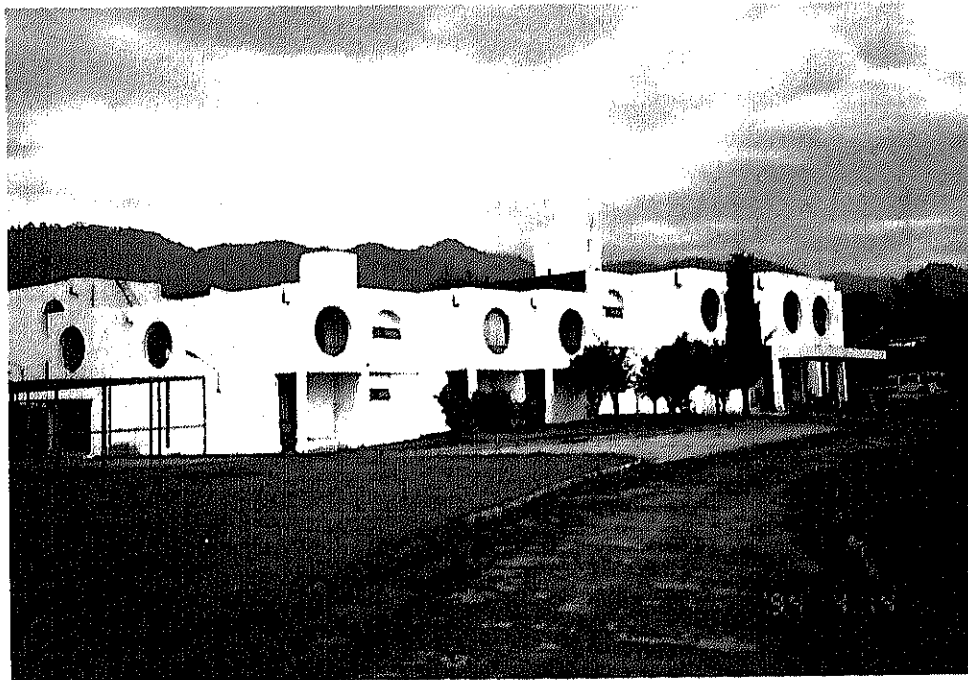
〔温度調節用〕
換気扇





農薬散布用スプレーと農器具

CDAのゲストハウス（JICA Pakistan office）
隊員の宿舎になるかどうか調整中



③ キャピタル病院 Capital Hospital

[概要]

イスラマバードの中心にあり病床数250床で15の病棟からなるイスラマバードの3つの大きな国立病院の1つである。

医師80名（うちスペシャリストが7名）看護婦90名（うち看護師6名）

C. D. A. 傘下の病院ということで、その職員には優先権があり特別な病棟もあるが、もちろん一般の人々の受診ができる総合病院である。

今後、看護学校の併設やリハビリテーション、I. C. U. 部門の増設も予定されている。

[看護婦の業務]

看護婦90名のうち婦長など管理職クラスHead Nurseが約20名おり、各病棟に1～2名のHead Nurse (Sister Nurse) が配置されている。看護師は主に手術室・救急・男性病棟で勤務している。

各病棟は10～23人の病床数で構成されており看護スタッフは一病棟当たり4～6名くらいである。

午前中に院長、総婦長の総回診がある。医師の指示により処置や検温等の業務をこなしている。日勤中でも看護婦は一つの病棟に2～3名、少ない病棟だと1人というような所もあったが、日本の様にせわしなく看護婦が仕事をしているという風景はなくのんびりと落ちついて仕事をしているようにみられた。病棟には看護婦よりむしろ医師の姿をみることが多かった。

パキスタンのどこの病院でもそうであるが、外来部門には看護婦はほとんど勤務していない。看護婦不足という事もあるが外来には多くの医師と細分化されたクラークのような人が大勢いるので、その人達が医師の手となり足となって補助をまかされているので外来看護婦などの必要性を感じていないようだった。

[看護婦隊員の要請背景]

新生児室の看護婦隊員の要請があがっている。

将来リハビリテーション部門の新設が予定されているため理学療法士にも興味もたれている。

[業務内容及び隊員に求められるレベル]

新生児室において看護指導者としてスタッフへの指導と新生児室看護にあたりケアの向上に努める。

この病棟はクベースが4台とコットが約10台あり、現在ヘッドナース1人とスタッフナース4人がおり日勤中は2人くらいでこの病棟を管理している。

出産は日平均20件くらいあるが通常は母子同室である。（入院は2～3日）

何か異常があったり、医療・看護の必要がある場合にこの病棟に入るため入院の患児はそれほど多くない。満床になることもあるらしいが訪問時には入院児は4人だった。

隊員のレベルとしては、新生児看護の経験者がよい。特にこの国では新生児・乳児の看護・医療については乏しいとの医師の話もあり、共に働きながら新しい風を送り込むことができればよいと思われる。

また看護学校の併設も近い将来予定されており、そこでの関わりにも期待もたれている。

言葉は、要請では英語であがっているが、患者と接するのでウルドゥ語がのぞましい。カルテは英語である。

[受入れ体制、その他]

院長・総婦長との面談によりおおむね協力隊についてはだいたい理解されたものと思われる。

すべての決定権は院長にあるが、医療従事者どうしの横のつながりが希薄であると聞くなか、まだこの病院は院長・総婦長の医師疎通がそれほど悪くないように感じられた。

何事も院長・総婦長を巻き込んで活動するのがよい。

住居は病院のすぐ近くに寮 Nurse Hostel があり、スタッフナース用は2人1室、ヘッドナース用は1人部屋（バス、トイレ付き）。全体の食堂・休憩室・卓球台などの施設もある。現在1人部屋が3室空いているのでそこに入る事ができる。

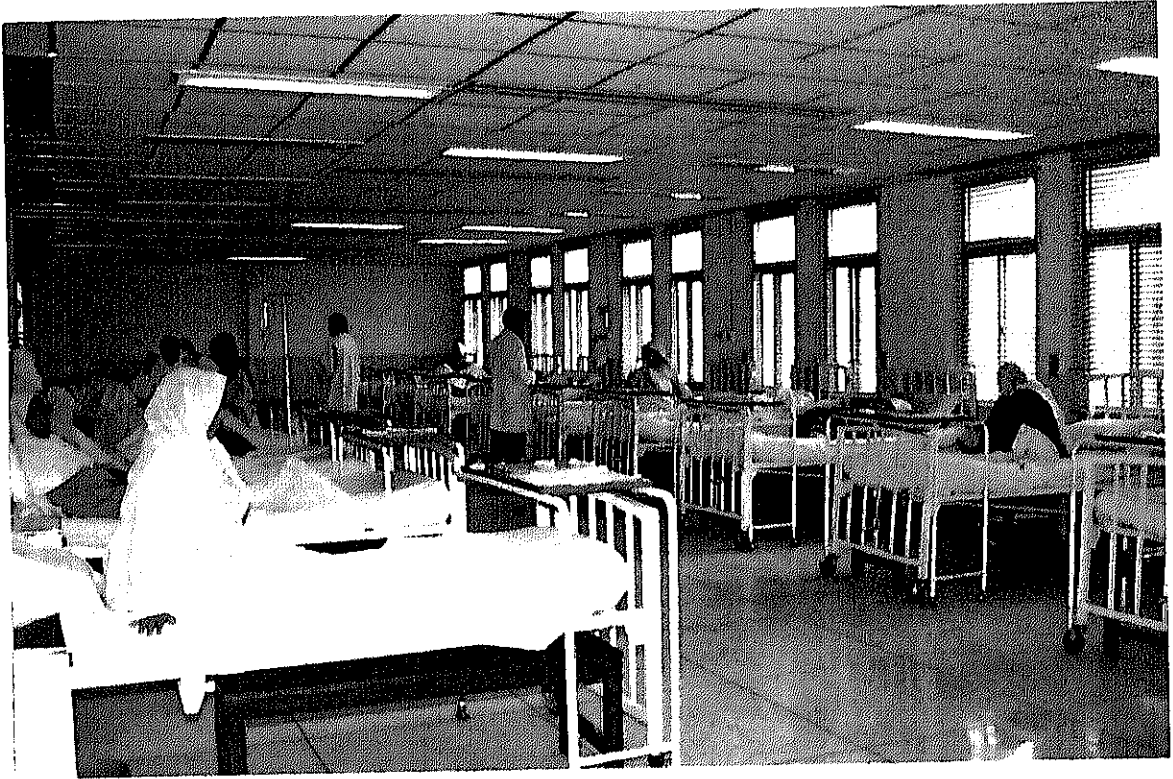
④ モデル校 (CDA Model School)

[概要]

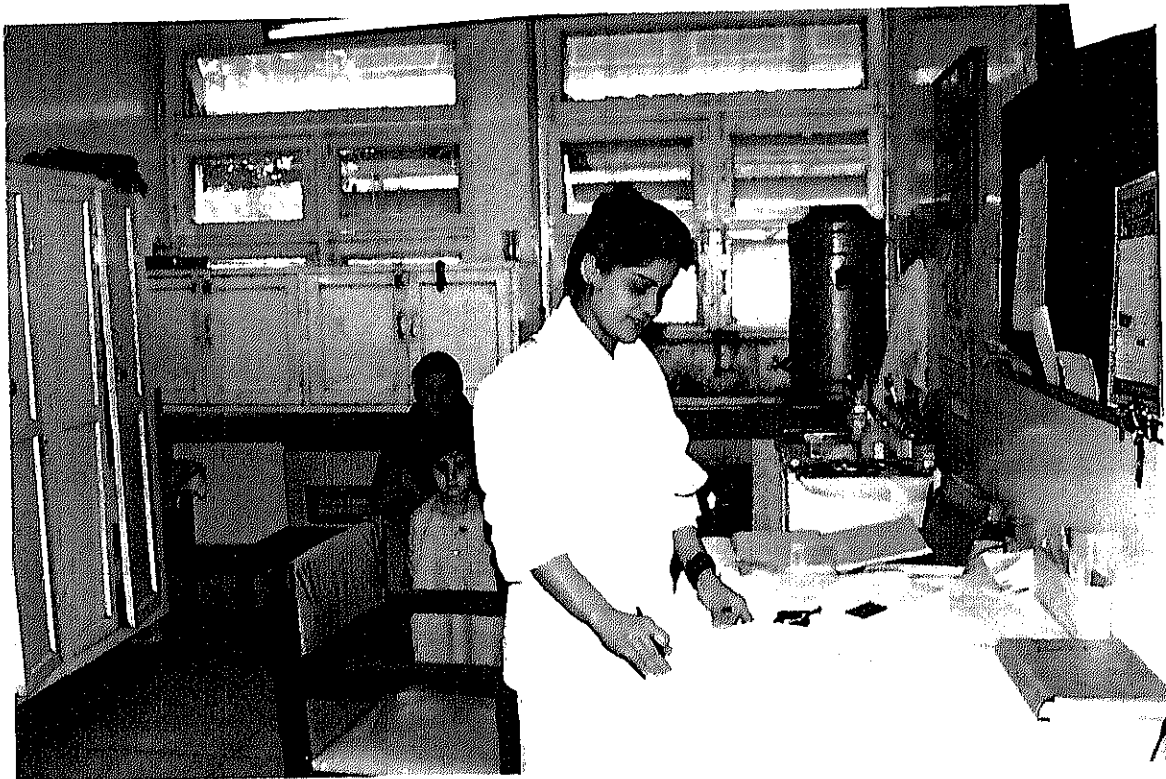
首都開発庁によって運営されている学校で1年生から10年生までである。首都開発庁の子弟が優先的に入ることができて、全校生徒の4分の1を占める。授業料は首都開発庁の子弟の場合、1ヶ月 RS 150で、それ以外は RS 300 である。普通の公立の学校の授業料は RS 3~8なのでこの学校の授業料は本当に高い。設備はよく整っており、エリート校という印象を受けた。

[隊員派遣の可能性]

教員不足は深刻である。教師は週40コマも授業を持っているとのことだった。しかし、授業料を見ればわかるように、この学校はある特定の階級層のみに開かれていると考えられ、隊員の派遣は妥当ではない、と判断し、隊員の派遣を見合わせた。



女性大部屋 キャピタル病院



看護婦処置室 Capital Hospital

[4] 首都圏庁 (I C T A)

(1) 首都圏庁傘下の配属先

① 地方保健局 (District Health Office)

[概 要]

イスラマバード周辺の地域保健を管轄している。その管轄下には13ヶ所のベーシック・ヘルス・ユニット (BHU Basic Health Unit) と3ヶ所のルーラル・ヘルス・センター (RHC Rural Health Center) があり、それぞれに医師、メディカルアシスタント、レディヘルスビジター (LHV = ヘルスセンターで勤務する看護婦のような女性) などが勤務している。

BHU・RHCでは予防接種、母子保健指導、妊産婦の定期検診、一般外来診察や地域医療に関する情報提供・収集などを主に行っている。RHC・BHUに比べ規模が大きく検査室、X線室及び入院施設を有しスタッフの数も多い。

しかし現実には予算経費不足により電気の供給がストップされ、電気はもちろんのこと井戸水のポンプでの汲み上げも不可能という状況のため、医療スタッフの住居がすぐ側にあるにもかかわらず住む事ができない。またスタッフの不足によりRHCにおける24時間体制の医療提供ができず日中のみの運営となっている。

イスラマバード周辺地域は報告では人工約17万6千人 (これよりは多いと言われている) で130の村からなりBHU・RHCそれぞれが平均10前後の村をカバーしている。

BHU・RHCで勤務する主なスタッフ

医師 — BHUには1名、RHCには男女各1名の定員である。現在BHUには9ヶ所に、RHCには各2名づつ医師がいる。ほぼ全員がイスラマバード市内から通勤している。医師はあまり地方へ行くことを望まないしまた、電気などの問題で地方に住むことが困難などの問題もある。男性の医師は男の患者を、女医は女性の患者を主に診察する。

メディカル・アシスタント — 三年間医療に関する教育を受けたスタッフでBHU・RHCでは医師とほぼ同じような仕事をしている。(医師が不足していた時代に出来上がった制度)

レディ・ヘルス・ビジター (LHV) — 8～10年の基礎教育を受けた後2年間にわたり母子保健、助産指導、地域医療などについて教育を受けた女性でBHU・RHCなど地域医療の場でのみ勤務することができる。この国では保健婦制度はないが保健婦のような役割を持っている。(こちらでは看護婦と呼んでいる)

ヴァクシネーター (予防接種士) — 1週間ほど予防接種、注射法について教育を受けたスタッフで予防接種業務を行っている。

その他の地域医療スタッフ

トラディショナル・バース・テナダント (TBA) — パキスタンでは全体の80%以上は自宅出産する。(特に村にはいるほどその割合が高い) そのため地域に住む助産トレーニングを受けた女性が助産を行う。世襲制であることが多く古来よりのやり方や考えで助産を行っている。地域では比較的上のクラスに属し尊敬もされている。

コミュニティー・ヘルス・ワーカー (CHW 地域保健従事者) — コミュニティーから選ばれ6週間の基礎保健教育を受けた女性で、保健所とコミュニティーのパイプ役になっている。数はわずかでありまだその役割についてははっきり調べていない。

[隊員要請背景]

業務内容及び隊員に求められるレベル

イスラマバードに近いBHU (SOHAN ソハーン) かRHC (TARLAI タルライ) に勤務し医師、LHVなどと共に保健所業務を行う。

主に期待される業務

- ・LHVの指導と監督
- ・TBSの指導
- ・保健所業務の監視役
- ・コミュニティーと保健所との橋渡し役

LHVの業務

- ・母子保健指導 (訪問看護を含む)
- ・下痢症対策プログラムの遂行 (下痢時の指導)
- ・TBAを含む村のヘルスワーカーの指導
- ・家族計画
- ・外来業務の補助

幼児死亡率が日本の20倍以上ありその死因の三分の一が下痢によるものであること、自宅分娩がほとんどで妊産婦死亡率も日本の50倍もあることなどの現実を見つめながら内外のスタッフを巻き込んで意識向上に努める。

またある医師の提案としてあった、成人の堅い頭を動かすのは至難の技なので近くの小中学校を訪問し、啓蒙 (衛生、ファーストエイドなど) をするのも新しい試みとしてよいのではとも思われる。

隊員に求められるレベルとして、要請では5年の経験があり地域保健の精通した人となっているが、看護婦でも母子保健指導の経験があり地域保健に理解のある人なら十分対応できると思われる。

言葉は、ウルドゥ語が望ましいが、上司などと接するときは英語ができないと不都合かもしれない。

[受入れ体制及び現状]

予算不足のため、住居の提供もままならない状態である。努力はするとのことである。イスラマバード市内から比較的近い場所に位置するところにあるため、通勤することができる。ソハーンでイエローバン（現地通勤の足）でのりかえなしの30分。タルライでイエローバン又はのりかえで40分～1時間の距離にある。

または、その中間あたりにある村で2階を貸りて住める場所もあるので隊員同士で住むのもこのあたりなら良いと思われる。

いずれは入院施設も使われる可能性はあるが、現状では日中のみの現行の業務になると思われる。村にもよるが、地域社会に入るほど因習による影響が強く、新しいことをタブー視したり宗教的な制約が大きくなる。

予防接種や家族計画に対してもタブーにされたりパキスタンスタッフに対しても外部からくる人には、よそもの扱いしたりすることもあると聞く。

地域医療は非常に大切であるが、資金面でのいきづまり、意識の問題でなかなかうまく運営できていないのが現状である。

あとから知ったことで具体的に調べたわけではないが、イスラマバード小児病院の取り組みの1つにWHOの援助により、医師等が村を訪問し、情報収集、成長モニタリング、予防接種など行っている（1回/月 2～3人）とのことであるが、保健所関係とコミュニケーションがうまくいっているのかは不明である。

② コミュニティセンター

[概要]

イスラマバード郊外の6つの村においてコミュニティセンターがひらかれ、それぞれのセンターにて25～30名の女性たちが刺繍・編物・縫物を学んでいる。女性たちはそこで、基本的な刺繍・ミシン（おもに手動ミシン）・手編みと簡単な編み機の操作を学んで技術を身につけている。コミュニティセンターでは他に、基礎的読み書き、Ministry of Population WelfareのLHV（Lady Health Visitor／ナースとよばれることもある）により保健衛生・家族計画についての教育も行われている。

手工芸は一年コースで、編物・縫物・刺繍のすべてを学ぶ。コース修了者はCertificateがもらえる。各センターに一人ずつ手工芸のインストラクターがいる。10～11月に Ministry of Industry 主催の Exhibitionがあり、彼女達の作品を販売することができる。Women Programme Officer MRS. Seema Tauseefは、隊員の協力を得てデザイン、カラーコンビネーション、美しい仕上げにおける技術をとおして女性たちの作品の品質を向上させ、確実な販路をひらき、人々の収入の向上に結びつけたいと考えている。

Community Centerのある所は次の6ヶ所

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| U. C. Tarlai KANNA DAK村 | U. C. Bhara-Kau |
| U. C. Cherah | U. C. Shah Allahditta |
| U. C. Rawat Rawat村 | |

U.C. Sihara Humak村

イスラマバード郊外が12のU.C. (ユニオンカウンスル)に分けられ、それぞれに13~15の村がある。

[各 Community Center]

・Tarlai — Islamabad市内 Blue Areaのはしからバスで30分、そこでスズキ (小型トラックに幌をかぶせたもの)に乗りかえる。比較的便利。

いちどは雨にもかかわらず10名ほどの少女達が裁縫の訓練に来ていてよく活用されているという印象をうけた。

保健施設もあるMinistry of Population Welfareから派遣されたhealth worker (Ms. Suriya) がいて保健衛生、家族計画に携わっている。

隊員の住居あるいは滞在先として考えられるところとして、手工芸のインストラクターの家及び実家を紹介してもらった。

彼女の家の場合、2 Fフロア全部 (つづきの3部屋)を借りることができる。中央の部屋にシャワーとトイレが付いている。もし家政隊員が例えばICTAの看護婦隊員とともに住むことを希望すればそれも可能である。実家のほうは、1 Fの8畳くらいの比較的広い部屋 (奥に小さい物置部屋もある)で、シャワー、トイレは共同、食事つき。どちらも安全である。

・Cherah — Tarlaiからさらに奥の村。保健施設もある。少女たちは、ミシンを表へ出して作業をしていた。

センターの様子はTarlaiとほぼ同じ。

住居については未調査。

・Bhara-Kau — Islamabadより20kmくらい。マリーロードをゆく。

村はひらけていて交通の便は比較的よい。

手工芸のインストラクターはRawalpindiから通っている。

午後であったため建物のみ視察。

・Sihara — 職業訓練のセンターのみ。CDAプロジェクトによるModel VillageのすぐそばでCommunity Centerはordinally Villageの入口にある。

Islamabadより25kmくらい。IslamabadよりYellow VanなどのPublic Transportがある (1時間に数本)。

機材

ミシン	{	Singer Golden Girl	1台
		" Touch & Sew 1280	1台
		" Delux Silver Queen 49II	7台
編機	{	Singer MOD 600	4台
アイロン	{	Electric	

機材に関しては他のセンターもほぼ同じ



コミュニティセンターの医療施設とhealth worker



コミュニティセンターで職業訓練にとりくむ少女たち



女性たちの職業訓練

Community Centerの建物はMs. ZAITOON BiBiが提供している。例えば同じ敷地内にある部屋を隊員の住まいとして借りることも可能である。Ms. Seemaは、そのときはシャワー、トイレ、キッチンを造ってもらうようUnicefに依頼するといっている。月々300Rsくらいで借りられる。

・ Rawat — Islamabadより30kmくらい。

町といえるくらいにぎやかな所。GTRoadよりすぐ。

26人の少女たちが手工芸を学んでいる。保健施設も備えている。

LHV 1人、アシスタント1人。

隊員の住まいとしてCommunity Centerの2Fを提供できるとのこと。

バス、トイレ付き。安全。

・ Shar Allahditta — Taxila方面への道路をゆきVeteranを右手に少しはいったところ。センター付近は、ひなびた村という印象。6ヶ月前にセンターを今の場所へうつした。村ではまったく英語は通じない。

40代くらいの女性たちも手工芸の訓練に参加している。

ローンにたいへん興味をもっている様子。

隊員の住居については未調査。

③野菜栽培

[勤務先]

ICTA 農業普及部 (AES) 農業課

[農業課の事業内容]

- 1) 農民に対して、実際的な技術を使ってのデモンストレーションを行なう。
- 2) 種、肥料、農薬、農機具等の農業資本の投入の援助を行なう。
- 3) 作物の単位面積当たりの収量の増大を図る為に近代技術を導入する。

[要請理由 (目的)]

上記「事業内容」で挙げた項目を行なえる職員が不足しているので J.O.C.V を要請する。他に農業課では、野菜等現金収入になる作物の紹介を計画しているが、現在のところ、それができる職員が不足しているのも要請理由の一つである。

[隊員の地位]

ジュニア専門家 (野菜栽培普及員)

[隊員の具体的業務内容]

ICTAは六つの区域に分けられており、それぞれに農業普及員が配属になっているが、それらの職員と協力して以下のことを行なう。

- 1) 見本農場の管理・運営
- 2) 新しい野菜の種の紹介と栽培方法の指導
- 3) 野菜作りの動機づけと栽培指導

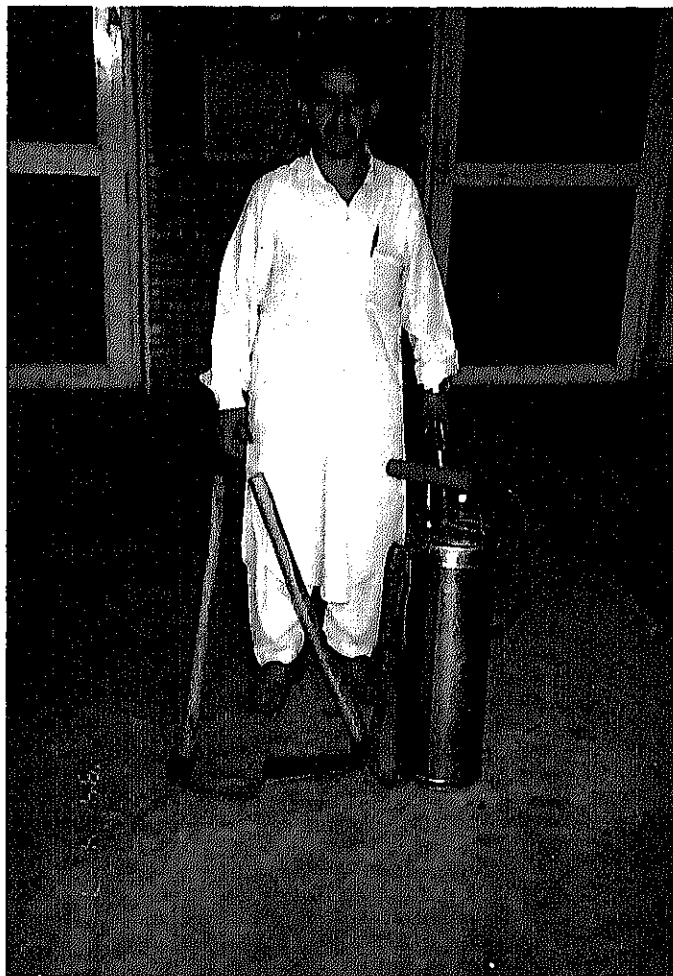
野菜の種類としてはキャベツ、ニンジン、大根、ビート、ブロッコリー、ねぎ、パセリ、トマト、とうもろこし、小麦等



ICTA・AESの所有する機材



JICAの援助で作った溜池（灌漑用、家畜用）



農薬散布用スプレーと農器具



キャベツ（上）とネギ（下）の収穫





黒にんじんと
普通のにんじん
(キーホルダーと比較)



イスラマバードの町
ラワルピンディーの
マーケットにて



キャベツ
ナス
オクラ

[MIRADプロジェクトと隊員の関わり]

(注) MIRAD The Model Integrated Rural Area Development Project

(イスラマバード農村総合開発計画)

隊員が配属されるのと同じ ICTA 内に地方自治開発局がある。

(LG & RD-Local Government & Rural Development) この課にはJICAの専門家が2名派遣されている。そのうち灌漑の専門家は'94・11月に任期を終えるが、営農の専門家の任期は'94・2月～'96・2月である。隊員が派遣されるのは早くて'95・3月である。ICTA地域の中でMIRADの占める割合は約5%であるが、その地区で専門家と隊員が共に活動する可能性もある。

[カウンターパート]

農業普及部 (AES) 農業課長代理50才 Mr. ABBAS (HUSSAIN)

[隊員の指導の対象者]

- 1) 農業課の農業普及員 (大学入学資格保有者)
- 2) 農民 (識字率は低い)

その為、隊員が訓練を受ける言葉はウルドゥー語が良いと思われる。

[隊員の条件]

男性で、大学の野菜栽培のコースを修了し、農学士の学位を持っており、3年の実務経験を有する者。

④ 獣 医

[勤務先] ICTA 農業普及部 (AES) 畜産課

[畜産課の業務内容]

- 1) 家畜の人工受精
- 2) 家畜に予防接種を行なうことによって、伝染病が村に入り込む前に未然に防ぐ。
- 3) ICTA 内に3つある獣医病院を管理・運営及び巡回診療する。

[要請理由 (目的)]

ICTAの畜産課には獣医科専門技術を持った職員が不足しており、財政的にも専門家を雇うのが困難である。その為JOCVを要請することによって職員が、日本の先進知識及び技術を学び、それによって理論上の、そして実際的な業務の視野を広げたい。

[隊員の地位]

ジュニア専門家 (獣医師)

[隊員の具体的業務内容]

ICTA内にある三つのAnimal Clinicを巡回指導する。

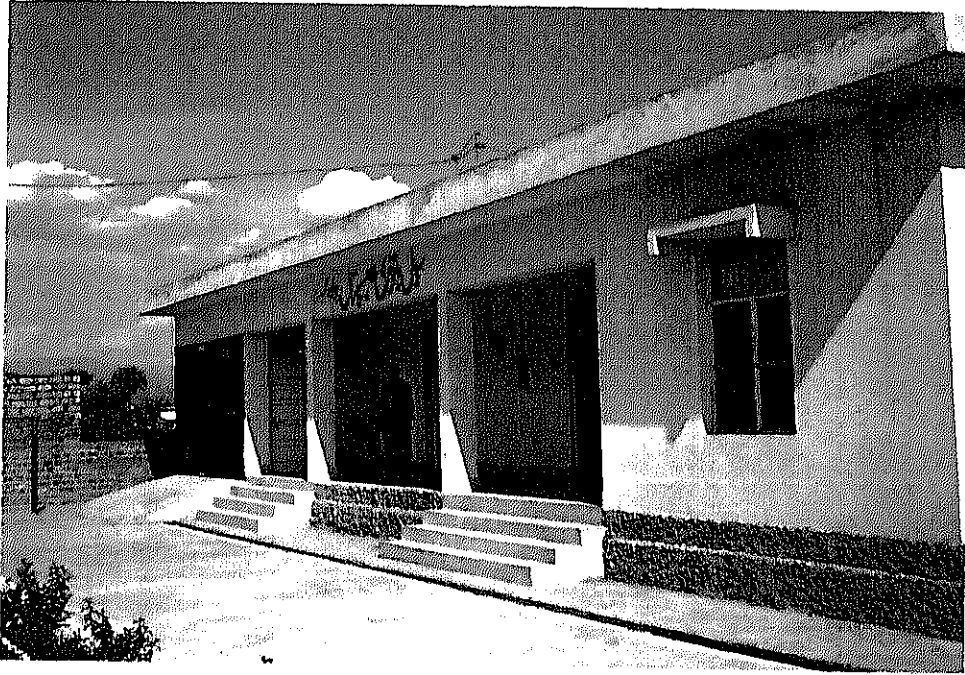
(TARLAI, BHARA KAU, REWAT-添付の地図を参照)

対象動物は牛、水牛、山羊、鶏等。

牛の人工受精の設備及び器具は一通り揃っている。しかし、その他の獣医科器具・薬品は不足しているので、初代隊員はそれを乗り越えての活動となる。

配属先からの要請書に「緊急を要する器材」として以下の四つが出されたがJOCVの機材には限度がある旨、説明し、保留としてある。

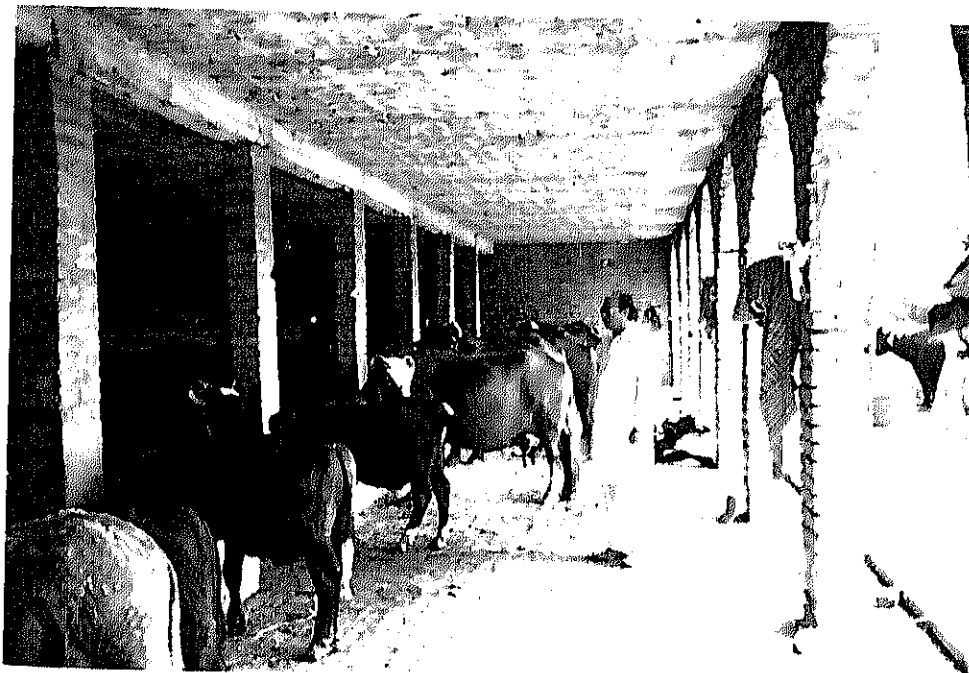
- ① X-Ray Machine
- ② Ultrasonic Machine
- ③ Hobbls set
- ④ Trencholizer gun



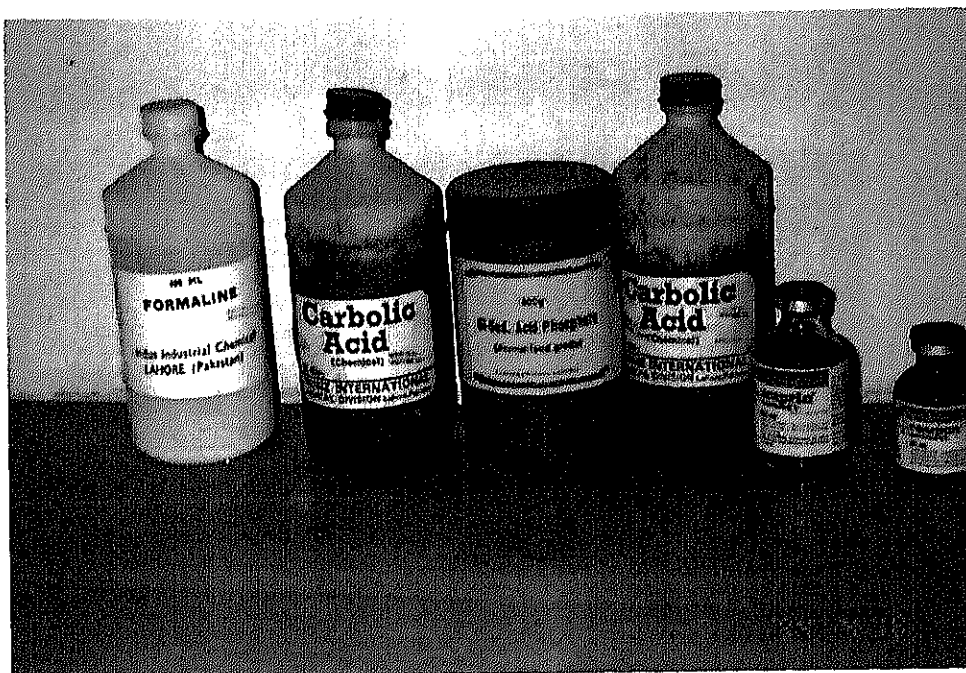
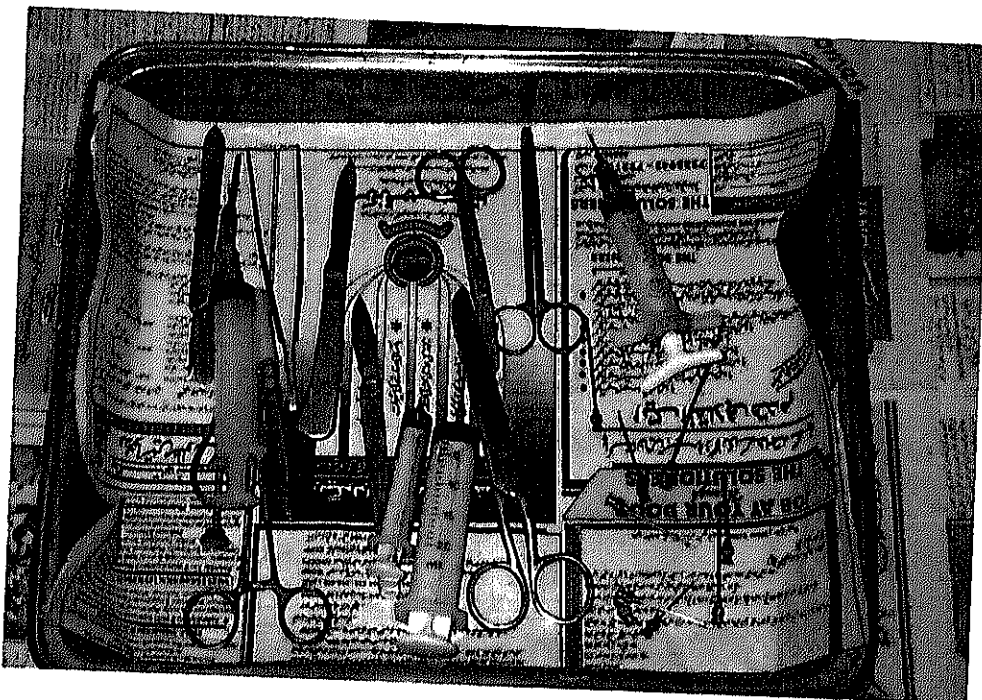
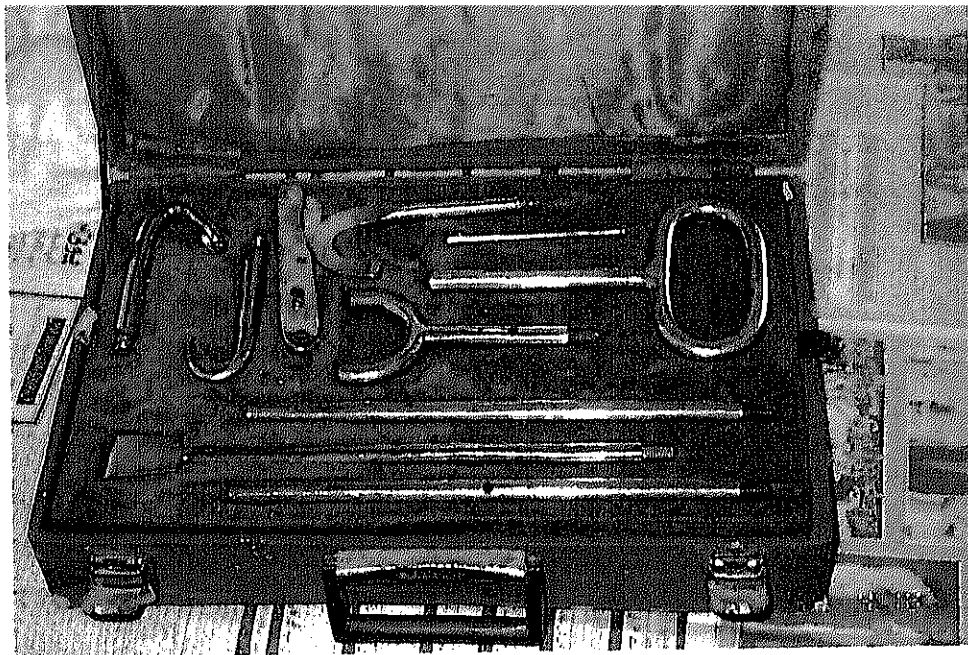
BIHARA KAUの
Animal Clinicと
その所長

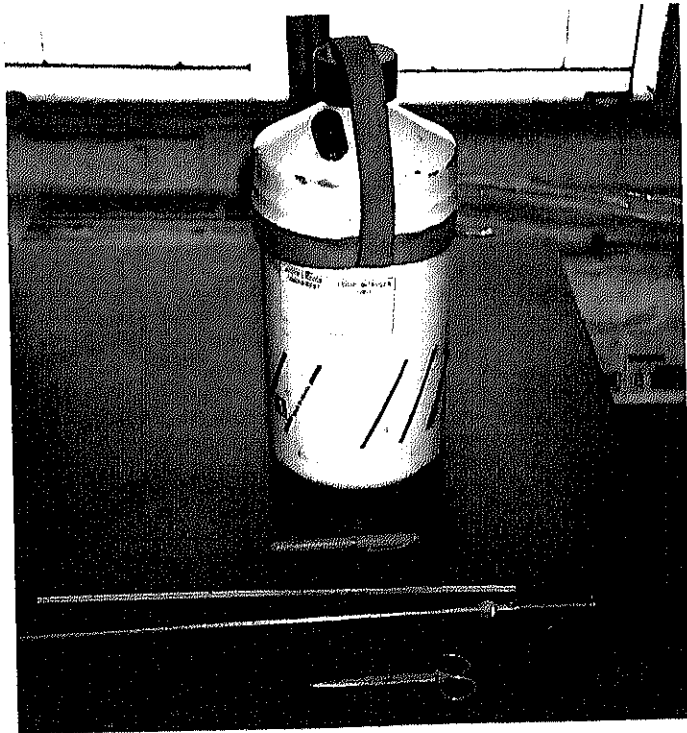
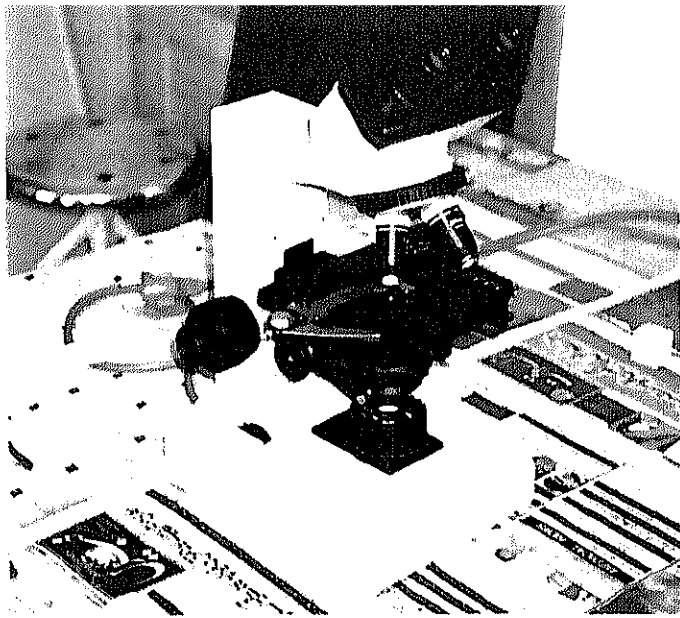


隊員に与えられるで
あろう宿舎
(調整中)



イスラマバード近郊の
酪農家





人工受精の用具
白い容器はフランス製
中の精液はパキスタン製



24才の人工授精士
5年前、2年間ラホール市
で訓練を受ける
(自費)

人工授精には1日に4～5頭クリニックに来る。1回につき20ルピー（80円）かかる。
3ヶ所のClinicを定期的に巡回するか、それとも6～7ヶ月ごとに任地を変えるかは配属先と話し合ってから決める。

勤務地がイスラマバード市郊外となるので英語は通じにくいが獣医師という立場上、日本で訓練を受ける言語は英語とし現地語であるウルドゥー語は、On the Job Trainingで任地に着いてから学ぶのが良いと判断する。

[カウンターパート]

農業普及部（AES）畜産課長（50才）

Mr. (SHAUKAT ALI) BHATTI 家畜飼育の学位を持つ。

[隊員の指導対象者]

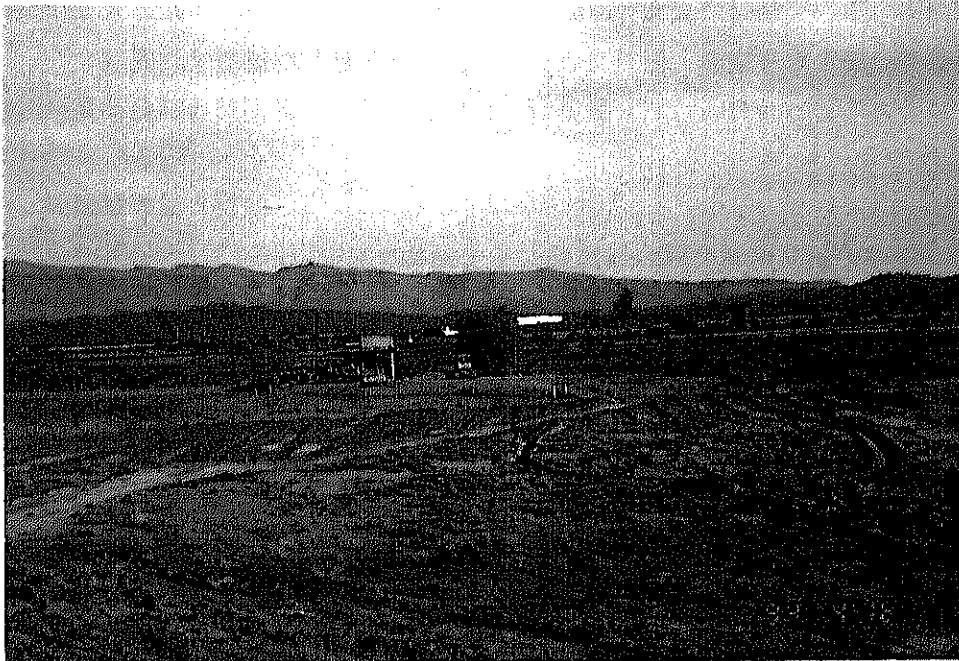
地方診療所の獣医師（家畜飼育の学位を持つ）とその下で働く人工授精士

[隊員の条件]

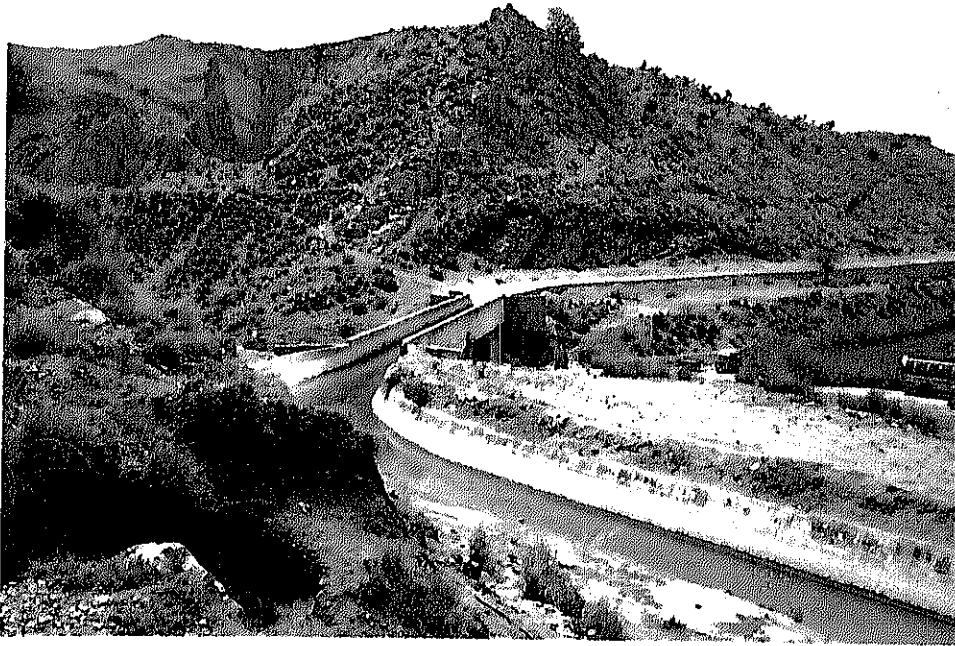
男性で獣医師免許をもっており、実務経験2～3年の者。

⑤ 農業土木

調査日程を終える間近になってブルーシートが上がって来たのでJICA Pakistan officeに引き継いできた。隊員の業務内容などについて先方と協議する必要がある。



イスラマバード近郊
レベリング
（土地を平らにしている）
多分畑にすると
思われる



農業用水路
イスラマバードから100km
(ペシャワールへ向かう途中)

⑥ 村落開発普及員

[配属先の業務内容]

- 1) 公共事業建設事務局 (Nation Building Department) の働きを助ける。
- 2) 農民や地域のリーダーに対して進んだ技術・知識を学ぶ機会を提供する。
- 3) 農村の貧困層に対して地域の構造基盤 (Infrastructure) を発達させる為の仕事を提供する。

[要請理由 (目的)]

ICTAとJICAのMIRADプロジェクト (農村総合開発計画) は中小規模の農家を対象にしたものであるが、それらの農民が集まっての農業協同組合や水利組合の組織化に隊員が加わることによって、運営を助け、農村地域の生活環境の整備・改善を進める。

[隊員の具体的業務内容]

灌漑・水利組合・農業協同組合の活動に加わり、地域開発を助け、村人の受益を目指す。その為にも隊員は灌漑と組合活動に関する知識や経験があると良いが、なくても活動の場は他にもある。例えば、地域開発のための社会事業や文化活動に参加し、それらの働きを助ける。

[カウンターパート]

ユニオン・カウンセラー (U. C. 後述) の議長・秘書 (ともに大学入学の資格を持っている)

[指導対象、言語]

農民のほとんどは英語ができない。中にはウルドゥー語の読み書きができない者もいる。その為に隊員は派遣前訓練からウルドゥー語を学んだ方が良いと思われる。

[隊員の条件]

大卒の男性で最低二年間の社会経験を持つ者。

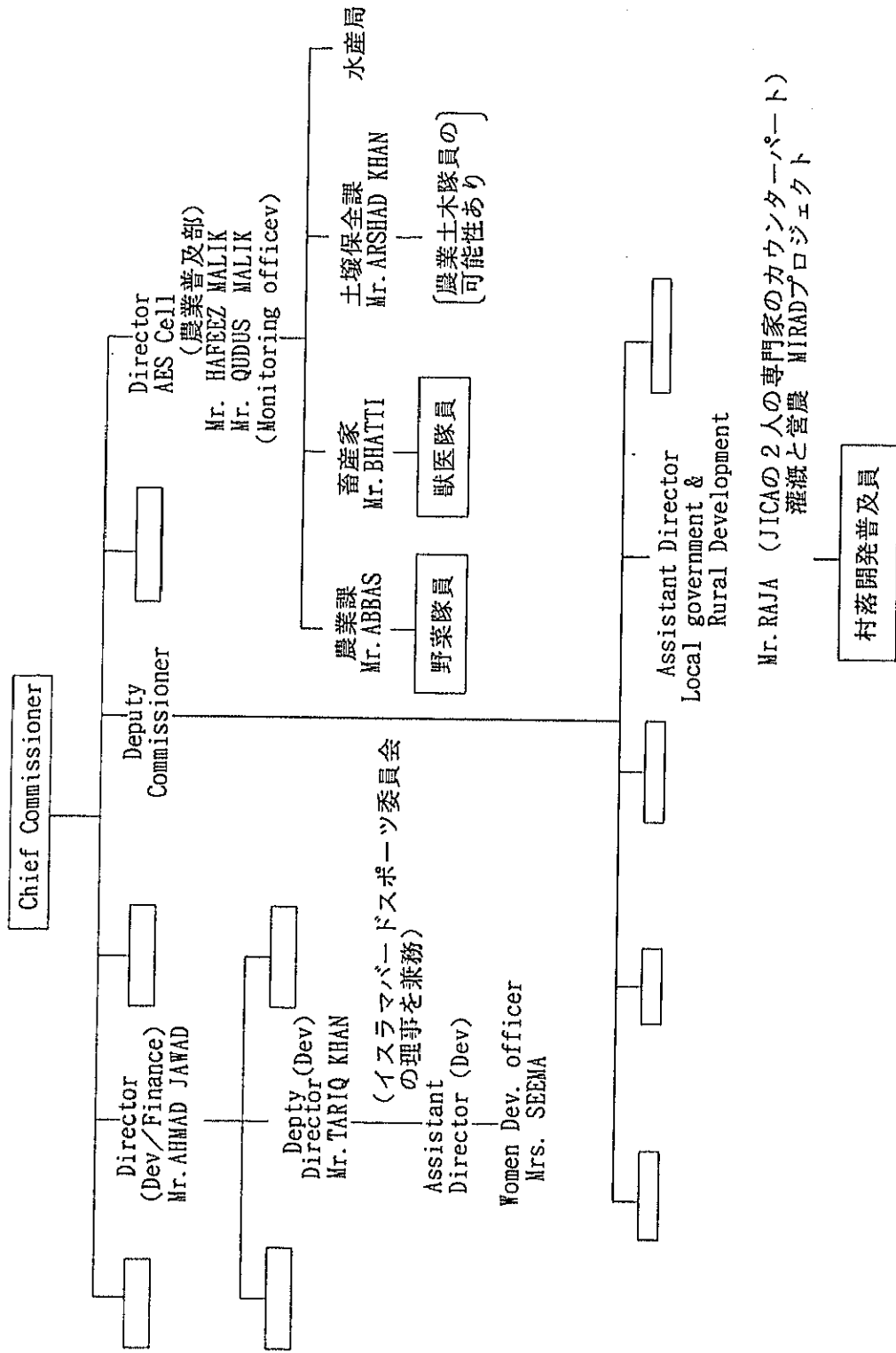
[配属先の受け入れ責任者]

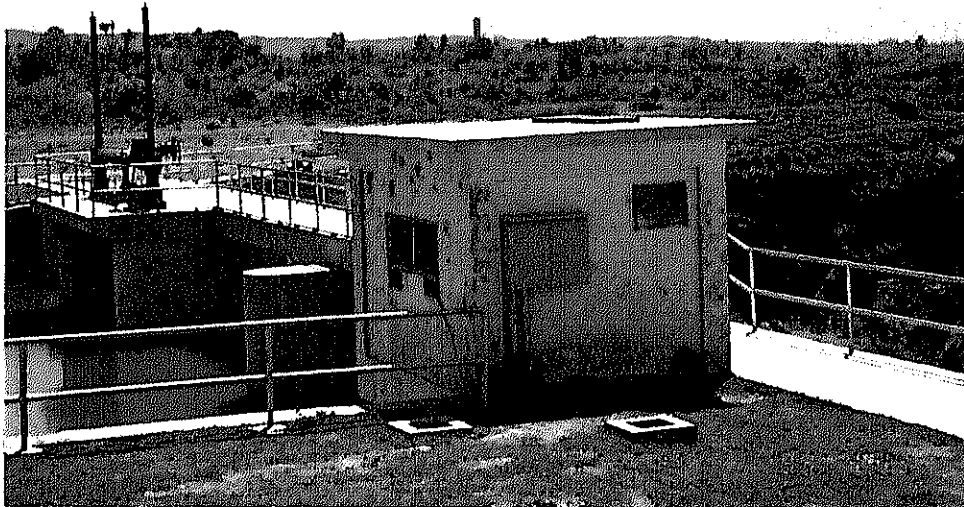
JAJA氏はJICA研修員として日本へ行ったことがある。彼は現在MIRADの二人のJICA専門家（灌漑・営農）のカウンターパートでもあり、JOCVについても理解している。今回の調査でも忙しい中であって協力的であった。

[調査団及びJICA Pakistan事務所の隊員に対する期待]

ICTAの村々を回り、それぞれの村のニーズを調査し、それにふさわしい職種を発掘するという調査員的な役目である。

ICTA の組織図

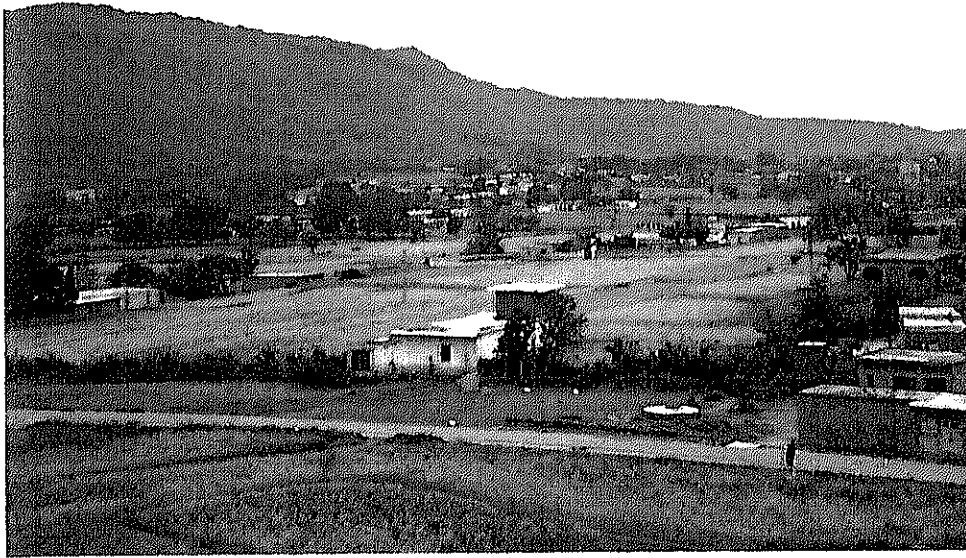




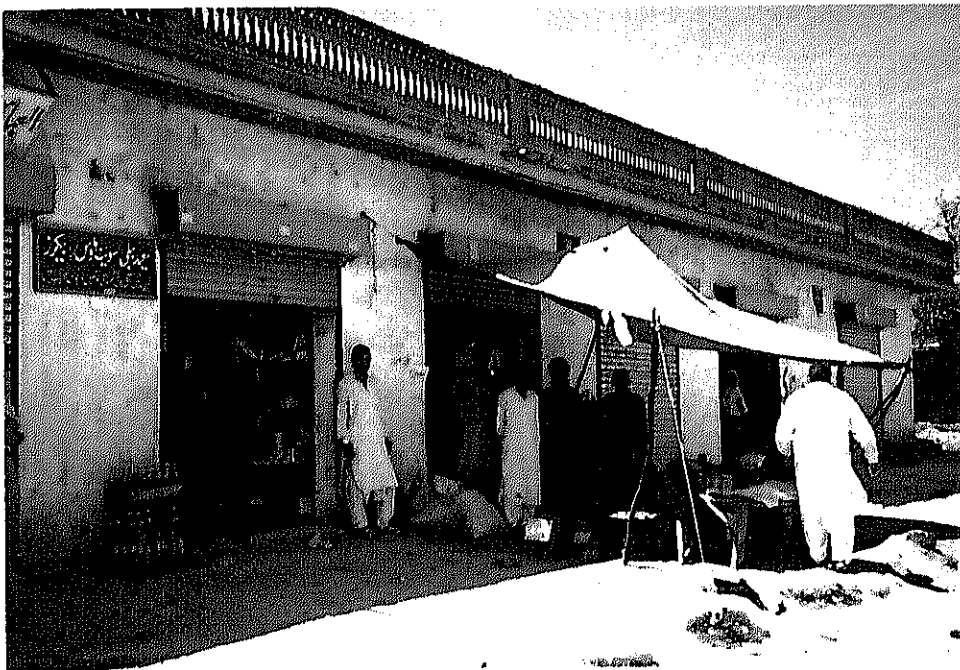
JICAのMIRADプロジェクト
ダム（上） 貯水池（下）



左：Mr. RAJA（隊員の配属先受人責任者）
中央：小野浩専門家（営農）
右：宮土司専門家（灌漑）



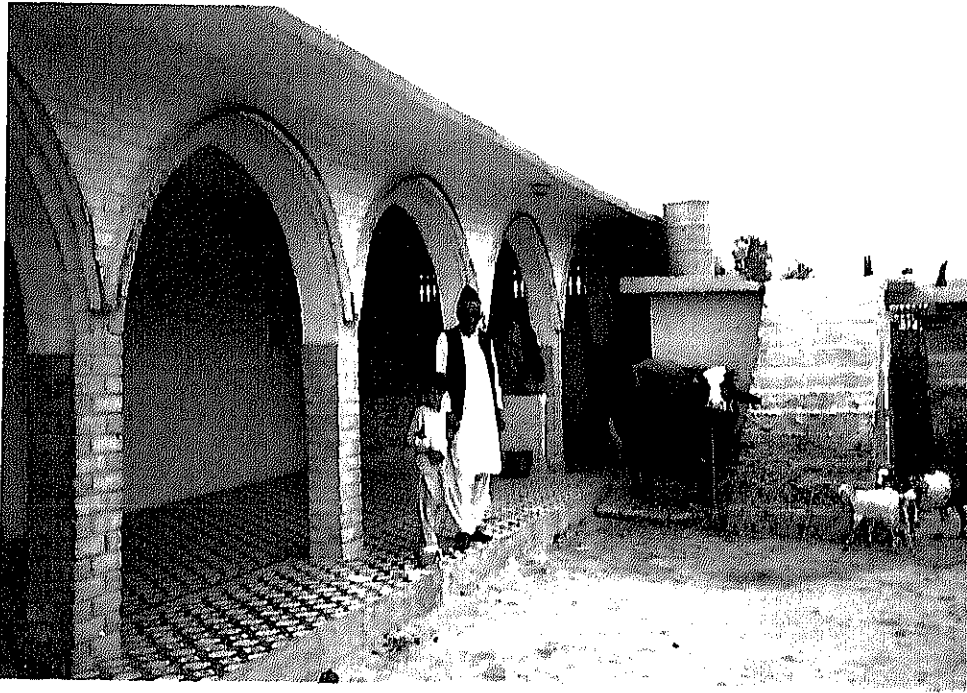
隊員の活動地の
候補に上がっている
Cherah村
(実っているのは小麦)



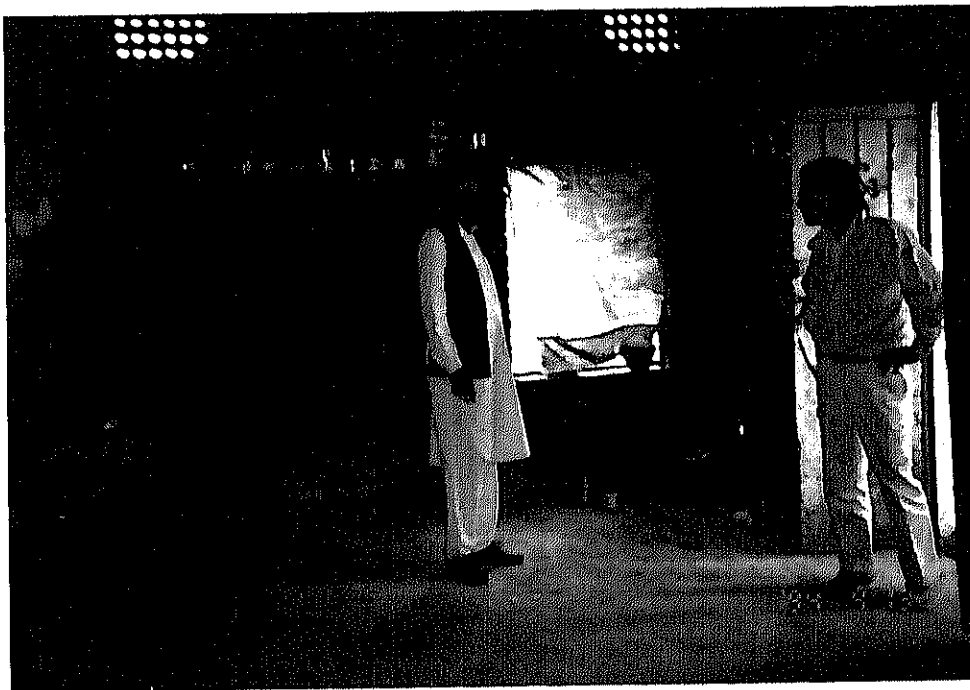
Cherah村の
バザール
(女性はあまり前へ
出て来ない。
写真を撮られるのを
嫌がる。)



Womens' Training
Center
ここに家政の隊員
が派遣される可能
性がある。
右後方にあるのは
隊員の宿舎となり
そうな家



隊員の宿舎となりそうな家とその主人
階段の裏がトイレになっている
奥の左側が台所になっている（写真下）



※ ユニオン・カウンスル（UC）

複数の村落（5～23）が集合して、基本行政単位としてのユニオン・カウンスルを形成する。評議員（カウンスラー）は普通選挙により、人口1,000人程度に対して1人の割合で選ばれる。カウンスラーは互選によりその議長（Chairman）を決定し、その司会のもとに毎月最低1回の定例会議を開催することになっている。現在、域内（ICTA）には11のUCが設けられており、それぞれ1人のセクターが常時UC事務所に詰めている。

UCには種々多様な機能が付与されている。一般行政事務の他に公共建造物（道路、街路、暗渠、橋、公共建築物、公園、遊び場等々）の設置、維持、補修管理等の通常業務を始め、ユニオン開発計画（Union Development Programme）の策定や各種協同組合等の設立促進、UCが施工主体となる各種プロジェクト（特に教育施設、医療施設、水道施設、衛生施設、農道等）の認可等の開発業務を必要に応じて行うことになっている。

これらのUCの活動を可能とするために、各UCはLocal Fundと呼ばれる財源を保有している。Local Fundは、主として各種税金、通行料、各種料金、地方税等UCが徴収する収益金や各種助成金を始めとする種々の収入により成り立っている。

各UCは、定例会議において承認された地域内の開発計画に含まれている各種事業を翌会計年度の予算案に組み込み行政副長官（DC）に提出することになっている。DCはこれらの開発事業の計画、実施に関し、各UC間の調整を計るため農村部調整協議会（RACC Rural Area Coordination Committee）に諮問する。Rural Area Coordination Committee

⑦ 農業機械

調査日程が押し迫ってから調査を始めたので、JICA MIRADプロジェクトの営農の専門家に引き継いできた。

対象となる機械をMIRADだけに限るのか、それともICTA全体に枠を広げるのか調査中。



MIRADに供与された機材
（左のブルドーザーはICTA所有と思われる）



(2) イスラマバード・スポーツ委員会 (Islamabad Sports Board)

現在、当委員会が行っていることは、各学校、カレッジ間のスポーツ大会の主催である。これ以外に、今後、スポーツ全体のレベルを上げていきたい方針で、隊員をスポーツ・インストラクターとして受け入れたい、と言うことだった。時間の都合上、詳しい調査はできなかったが、先方よりさらに強い要望があれば今後、さらに詳しく調査する必要がある。

[5] 保健省

(1) ポリクリニック (Poly Clinic Federal Government Service Hospital)

[概 要]

キャピタル病院からさほど遠くない所に位置し、イスラマバードではいちばん古い病院。外来専門クリニックからはじまり、現在病床数300床からなる国立総合病院である。

看護婦数115名（うちヘッドナースが15名）、看護学校も併設されており、1～3年生が60人、4年生（助産婦コース）が17人おり、看護学生もマンパワーとして勤務の中にくみこまれている。2、3年生は、夜勤もする。これが平均的な看護学校のようなものである。1つの病棟は25人平均で、9人の看護スタッフが勤務しているが、うち4人は学生である。

看護婦寮は2ヶ所にあり、家をまわり、pick up も行っている。今回は、紹介により、病院見学と総婦長に対しての協力隊の紹介のみにおわった。協力隊に対しては興味はあるというものの、要請にはつながらなかった。

庶民的な病院のように見られ、ある程度の設備は整っており、看護業務も行われている。学生がいるため、スタッフ自体は十分足りている。協力隊が入るとすれば、医師がいつも話しているように看護レベルの向上として、指導的立場で入ることが望ましいと思われる。

(2) イスラマバード小児病院 (Ialamabad Children Hospital)

[概 要]

パキスタン医科学研究所P. I. M. S (Pakistan Institute Medical Si) という診療・教育、研究の最高中枢機関の一部をなしている施設内にある独立した建物を持つ病棟数250床の小児病院である。

JICAの無償援助によって建設された。1986年から5年間、長期、短期の専門家1医師、看護婦、臨床検査技師、理学療法士、医療機器などが日本から派遣され、パキスタン側からも多数の日本へ研修に出かけている。

パキスタンでも有数の設備をもつ、3次医療を期待されている小児専門の病院である。

[隊員要請背景]

医療機器、看護婦、統計で隊員要請がでている。医療機器については、無償援助によって多数の精密医療機器が導入されたが、7～8年経過し、メンテ修理が必要である。1992年から1年間、専門家が入っていたが、引きつづき日本人の専門の人材が必要ということで要請があった。

看護婦についても、専門家がI. C. UとN. I. C. Uに入っていたことがあり、この部門における看護レベルの向上が顕著であったことから、他の病棟においても、看護レベルや看護婦意識の向上のために要請があがった。

また、統計については、疾患や患者などに関する多くのデータや情報が集まるが、その情報が実際には調査研究のために有効に統計立てて活用されていない。そこで、理論的な調査方法や統計について知識をもった人が必要である、ということで要請があがった。

[業務内容及び隊員に求められるレベル]

① 医療機器

専門家のカウンターパートだったエンジニアとともに医療機器の保守、管理を行う。とにかく修理をすることのみにとらわれやすいが、日頃からの保守、管理が大切であり、そのことにより故障も未然に防げることも多いことをともに働きながら伝える。

日本の援助の機器は多岐にわたるため、広い範囲に渡る知識が必要となる。とくに問題の多い所が、I.C.U、耳鼻科、検査室関連であるとのこと。

② 看護婦

I.C.U、N.I.C.Uを除く病棟に勤務することになる。どの病棟かは、メディカルアシスタントや総婦長などと話し合い隊員の得意とする、小児分野（病棟）で勤務するのがよい。

日常看護業務とともに、病棟指導者としてチームワーク作り、看護レベルの向上、患者指導など行う。とくにパキстанは、他職種とのコミュニケーションが良くないので、その橋渡し役になること、チームワーク良く働くことの大切さなどにも、気を配れるとなおよいと思われる。小児科の経験があり、指導的立場に立って活動できる人が望まれる。言葉は患者と接するためウルドゥ語がのぞましいが、カルテは、英語で書く。

③ 統計

院内のオンラインシステムが最近はじまった。コンピューター（デジタル DEC PC 466 D2 MTE）を使用して、病院に集まる多くの情報を統計だてて処理、ファイリングする。例えば、ある患者がどれくらい、どの年令、どの地域にといったようなことから始まる。

医療統計などに若干の知識があるとやりやすいと思われる。当院の希望としては、統計で修士号をもつ人で、当院のコンピューターが使用できる人を望んでいる。（こちらで言う修士は、日本の大学卒と同じ年令レベルである。）

〔受入れ体制 その他〕

① 医療機器

協力隊要請以前に、専門家での要請も出されているが、まだ派遣されていない状態である。長期での専門家の派遣になるのか、短期のみになるのか、まだわからない現状もある。

いずれにせよ、医療機器での派遣は、必要とされており、専門家とのレベルの差や違いについては説明済みである。言葉は英語が望ましい。

② 看護婦

この分野も専門家が入っていたため、日本人看護婦については、ある程度は理解はある。もちろん専門家との違いは説明済みである。住まいは、病院の敷地内にある寮に入ることができる。

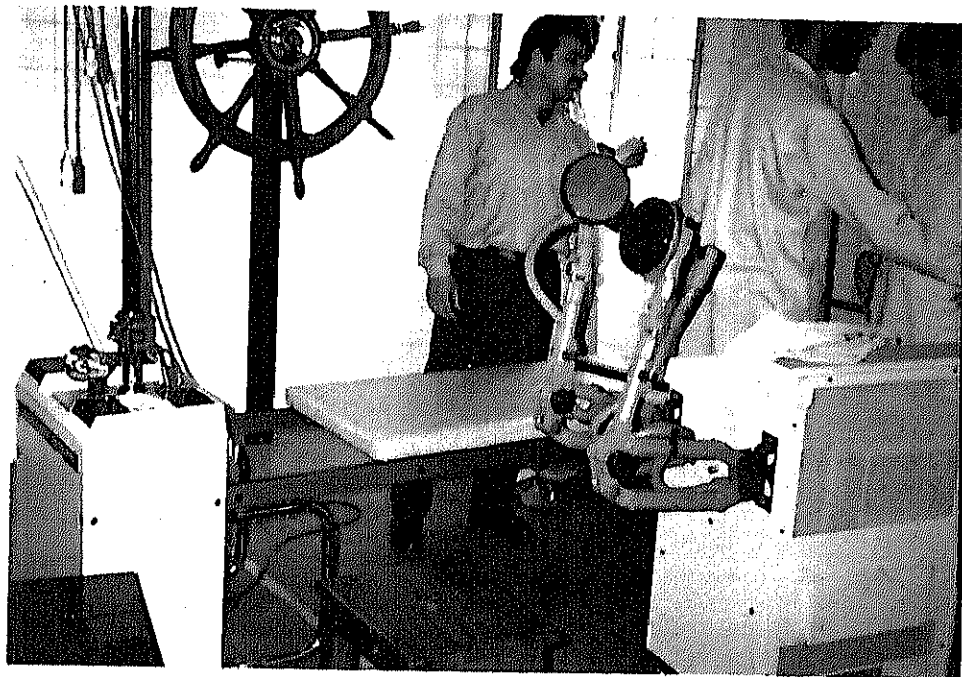
③ 統計

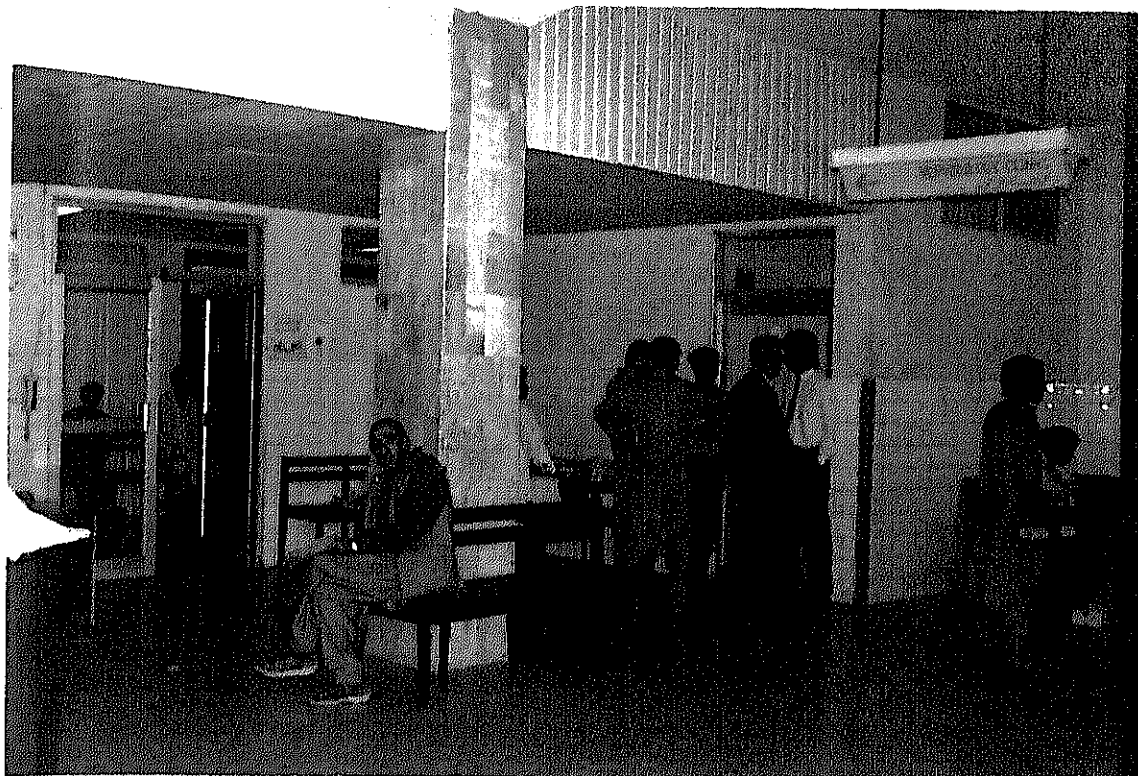
カウンターパートは、アシスタントダイレクターをはじめ、医師になる予定である。コンピュータートレーニングは今年（94年）中に行う予定とのこと、基礎知識は、出来ているものと思われるが、どのくらいこの業務に時間が費やせるのかはわからない。また今まで行われたことのない分野なので未知の部分が多い。言葉は、医師が相手になるので英語が望ましい。



プライバシーを無視(?)
 した、入院患者ボード
 廊下であり、病名
 病状まで
 記入してある。
 P. I. M. S

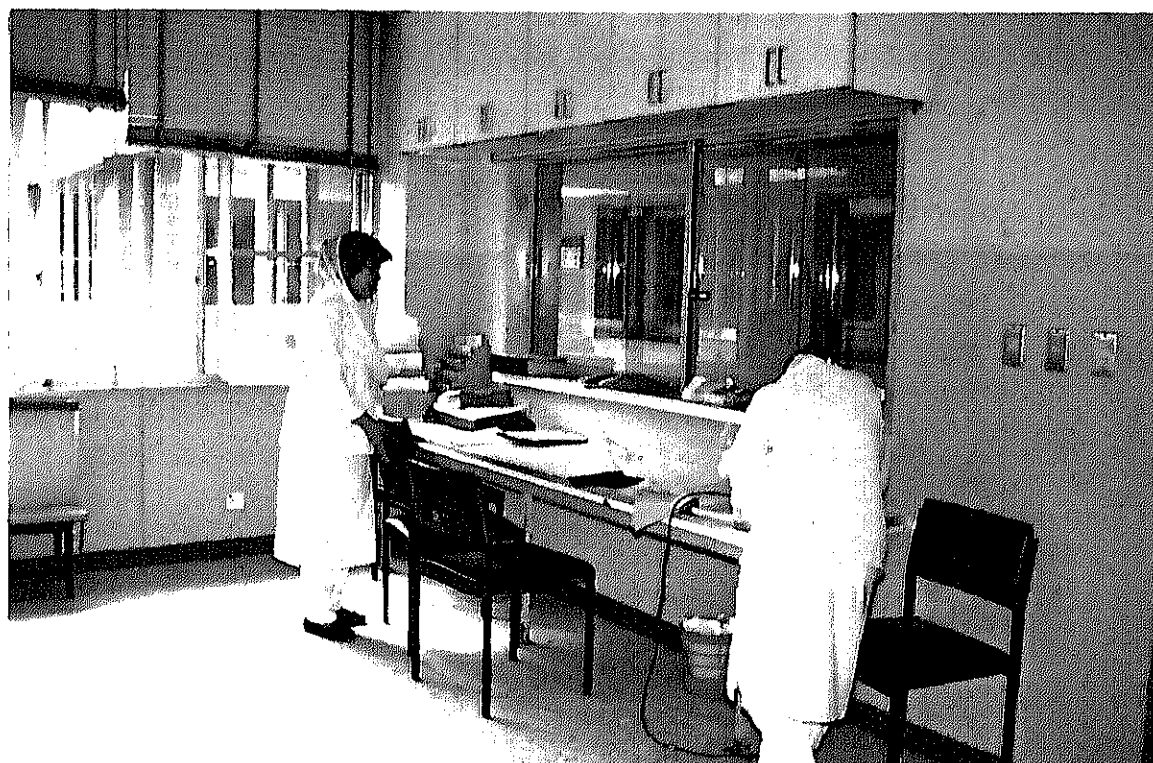
理学療法室
 P. I. M. S





外来待合室 P. I. M. S

(小児病院のあるイスラマバード医科学研究所)



看護婦詰所 Children Hospital (ICI)
Nursing Station

(3) パキスタン総合病院 (PIMS - Pakistan Institute of Medical Sciences)

2度ほどアプローチするがDoctorとなかなか合えず、最初に訪問、見学したままとなった。

(4) 看護学校 (College of Nursing)

最初に訪問した後、時間的都合で未調査(専門家の要請がでている。)

(5) ムハマディ病院 (Muhammadi Hospital)

[概要]

ペシャワールにあるパキスタン心臓病基金(財団) Pakistan Heart Foundationの病院で、病床数10床、医師5~6名、看護婦4名、その他のパラメディカルスタッフを合わせて十数名のスタッフを有し、心臓病を中心に眼科、耳鼻科、婦人科などの診療を行っている。

診療とともに、心電図を始め、医療機器のトレーニングコースや心臓専門家の養成コースも適時、もうけられている。また、年3回ほどの北部国境地域へのチーム巡回診療も行っている。

「メディカルリサーチセンター」建設計画をもち、その一部がこの病院で、現在規模は小さいが近々20床になる予定で、計画が完了すれば100床程度になる見込みである。

[隊員要請背景]

当病院は過去、西独、英国のボランティアを受け入れた経緯があり、わが国が小規模無償援助を行った頃よりJOCVに関心を示してきた。

今年1月(74年)には、医療秘書と看護婦の2職種についていち早く要請が出された。今回の調査では、イスラマバード及び周辺ということであったが、今後の可能性を含め調査を行った。医療秘書については、病院が小規模で、病院長の話を聞くと院長の個人的な秘書になりかねないこと、協力隊の現在の職種に、これに合うようなものがなくすぐ対応できないなどから、派遣は難しいことを説明した。

[業務内容及び隊員に求められるレベル]

I.C.U看護婦として要請が出ているが、I.C.U又はC.C.Uにおいて(とはいっても現在I.C.U、C.C.Uもどきしかない)看護婦の指導をしながら、ともに働くことになる。また、無医村地域へのチーム巡回診療へも加わり、地域医療への参加にも期待をもちられている。隊員に求められるレベルとしては、看護婦の場合3年くらいはあったほうが良い。I.C.U看護婦とあるが、循環器系の病棟の経験者であればよいと思われる。

地域医療に感心のある人ならより興味をもって活動ができると思われる。

[受け入れ体制]

この病院の院長は、学会などで日本をおとずれたことがあり、日本の川崎富作医師(医療従事者ならよく知る人)との交流もあり、日本医療に対しての評価は高く、日本人スタッフと共に働くことを期待している。

院長はじめ、医師スタッフの多くはボランティアとして勤務(夜、開業医として街で診療しながら)、ボランティアを受け入れた経緯もあるため、もう少し病床数が増えれば(訪問時3~4人の入院患者しかおらず十分活動できるのかとも思えた)院内の雰囲気もよく働きやすいと思われる。

住宅については、ペシャワールのこのあたりには、難民キャンプで働くボランティアも多く、安全なところがあるとのことであった。

[イスラマバード以外の派遣について]

協力隊の派遣は安全面を考慮してイスラマバード及び周辺ということであった。今後、派遣がすすむなかで、地方への派遣はどうかとなると、ペシャワールについて言えば、古くから他国のボランティアが、難民キャンプなどで働いていたり、山の奥地にも入っている。また、日本の民間ボランティアも医師、看護婦などミッション病院に10年前から入って活動している。女性も多い。このことから、いちがいには言えないが、地方への派遣も可能ではないかと思われる。

イスラマバードと比べて地方へ行くほど保守的で宗教からくる規制が多い（とくに女性に対して）治安も良いとはいえないが、それが、危険で派遣できないということにはならないと思われる。ペシャワール地方には、JICAのプロジェクトで無償医療機器導入の計画もあり、ぜひ、ペルシャワールをはじめ、地方へも人的援助を望みたいと思う。